

長嶺 巖 ながみね いわお (池間漁協)

1950年(昭和25年)宮古島池間島に生まれる。65歳(2015年時)。

池間島は、戦後カツオ漁の再興の中心になった島であり、また1960年代一大サンゴブームの源となった島でもある。祖父、父は戦前、南方でカツオ業に従事。終戦で池間に戻り、宝山丸の漁労長、機関長を勤め、尖閣諸島に出漁する。また父はサンゴ漁場を見つけた福太郎丸の機関長を勤めた。池間島に生まれ育った氏は、幼少時から同時代の貴重な体験をし、先達から多く見聞する。また氏は県水産改良普及所に入り、尖閣諸島との関わりを持っていた。退職後は漁船を購入し、本格的漁師となって、漁業に専念している。今回、氏の貴重な見聞と体験を披瀝してもらった。現在は池間漁協組合長として多忙な毎日である。



加那志オジー コウビトウで、鳥の羽根採り

西里勇さんが20歳の頃ですか、コウビトウ(久場島)に何回か上陸して泊まった。カツオドリを殺して200匹ほど、池間に持ってきて、25セトで売って、魚より儲かったと(笑い)。

長嶺加那志さんが、それ見て、戦前自分も、コウビトウに行って、あの羽布団用の鳥の羽根を集める仕事を何年もやっておった。「コウビの方」(古賀さんのことか?)から頼まれて行って、何年もコウビトウのどどこに住んでおったと話しておったそうですよ。

家は芋畑の西側だったと。西里さんが見たらもう家もなくなって屋敷跡の石垣しかなかった(笑い)。

加那志オジーは鳥の羽採って、こっちで足らん時は、トリシマに行って採ったとねえ。コウビトウでは、カゴ(アジサシ類)、トリシマではウンカー(カツオドリ)の羽根採ったと、そんな話しておったのが「尖閣研究」(同2012年聞き取り)にありましたねえ。



長嶺加那志が住んでいた久場島。古賀氏開拓時代の道路だろうか。実に見事な石積みである。(新納義馬 1980)

この加那志オジーは、ウチのお祖父さんの叔父さんになるんです。オジーの孫に長嶺武夫さんがいます。今、池

間において、有村海運の旅客船の船長していたが、退職したあと、こっちで、池間島海底観光というガラスボートで、サンゴ見せる仕事しています。この武夫兄さんにオジーの話聞きましたよ。オジーはウチの祖父より10歳位は上だったと言ってましたから、祖父は明治26年生まれ、だからオジーは明治15年頃生まれかもしれん。20歳頃行ったら、明治35年頃になるのかなあ。よく分からない。

漁期終え 尖閣へ出稼ぎ 母船 鹿児島から

加那志オジーは、イクン（イは西、クンは国の意か、ここでは尖閣諸島総称）に何年も通ったみたい。それが池間から何人か出稼ぎみたいに行っていて、年間通してじゃなくて、冬になったら満期だといって、島に帰ってきて、カツオ業、サワラ漁ができるのは春から秋までだから、これやって、漁期を終えると来年もまた出かけて行って、それで、母船は鹿児島、それで八重山からも来ていたみたいです。もう若い時からと行ったと言いよったけど、何歳から行ったと言わなかった。若い時に自分ら行っていたと、武夫兄さんは話してました。だから池間の漁師は、カツオ漁業期が終わったら、尖閣列島に、出稼ぎに行ったそうですよ。それで行く時は必ず、オジーの家に来て、オジーの説明聞いて、どこからは入って、どこに行ったら、どういうものがあると、これからどの方向に行ったら、どういう岩があって、これを超えて、反対に行くと、ミカンの木いっぱい植えた。これ鹿児島のミカンだったらしい。苗木持ってきて、皆そこで植えたらしい。だから池間の漁師は、島に上がって、言われた通り行ったら、やっぱりミカンはいっぱいあるから、取ってきて、食べていたそうです。また、イモの話もして、それで、オジー達が行く前から、サツマイモがいっぱいあって、あれは、水っぽくて食えないと（笑い）、たぶん原種で、今は改良されて美味しくなっているけど、改良前の奴は水っぽくて食えないかったと。

西里さんには、あのイモはコウビトウオの方、古賀さん達が開拓していた頃が植えたんじゃないか、武夫兄さんにその話したら、あれはオジー達が行く前にあった、また鹿児島から母船が来たそうだから、多分そうはずと言っていましたよね。

魚釣島の掘割 池間漁師 堀った

武夫兄さんは加那志オジーから聞いた話の中に、島にはアオダイショウも、猫、猫も繁殖していっぱいいたと、猫も多かったらしいと（笑い）。アオダイショウというのはシュウダですねえ、それとアホウドリ、アホウドリも多かったらしい、それを捕まえてきて、食べるけど、魚臭い鳥だと（笑い）。池間の漁師なんかも食べれない。臭いがあるって（笑い）。オジーは明治の頃に行っていたから、アホウドリが多かったんですかねえ。

それと、魚釣島に掘割ありますねえ、オジーが言うには、あの掘割を掘ったのは自分達だと 池間の漁師達だと。

やっぱり船着場がないから、カツオ業するためには、船を入れないといかん。明治の頃だから、あの当時機械なんかない、ダイナマイトで爆破して、あとは手作業でやっていくわけだから、あの水路は何年も掛けて、長い年月が



魚釣島のカツオ工場前の掘割。硬い隆起サンゴ礁を穿ち開いた。先人の偉業に驚かされる。（新納義馬 1979）

掛かっているはずですよ。それに相当人数でやっているはず。オジー達も、池間の漁師も一緒に掘ったわけですねえ。武夫兄さんは、昔の尖閣列島、ユクンには、池間から何人行ったか分らんが、もう長期働いたというのはウチの加那志オジーだけだったんじゃないか。そして満期という言葉を使っていた。いわば、期限が来たら島に帰ってカツオ業、サワラ漁して、また漁期終えたら、鹿児島から母船が来るから、これに乗って行って、また働いてくる。あの時は皆明治の頃だと、大正は入ってからは向こうで仕事する人いない。そういった話をしていました。オジーは色んな話をしたはず、もっとどんな話を聞いたか、武夫兄さんから、いつかゆっくり聞いてみたいです。

魚釣島の丸山工場入口 商号 石に彫る

終戦後、戦争終わって昭和 23,4,5 年には、ここ池間からも、冬には、尖閣列島に、宝山丸がカツオ業で行って、魚釣島に仮工場建てて、カツオ節製造しました。これも与那嶺正雄さんから聞いた話が「尖閣研究」にありましたねえ。

その時は、宝山丸はウチのお祖父さんが漁労長していて、親父は機関長しているはずですよ。丸山(宝山丸カツオ工場)の工場長は森田金松オジーです。私の実家の真向かいにいました。私が若い頃に、昭和 58 年頃に、もう 30 数年前ですか、金松オジーから話を聞いたんですよ。

金松オジーは、夏場は、池間島のカツオ工場の工場長して、冬場は尖閣列島に行って工場長していましたから。オジーが元気だった頃に話を聞いて、少しメモしておいたんです。それが仕事で、沖縄本島行ったり、こっちへ戻って来たりして、引っ越しているうちにメモは失くしてしまって、いつか思い出して、まとめてみたいと思っています。金松オジーが言っていましたよ。尖閣列島の工場には、丸山の商号を石で彫って、門みたいにして、工場の入口においていたらしい。与那嶺正雄さんは山の方と言っていました、水が流れてくる山の崖の所に、若い人達が登って彫ったとねえ。金松オジーは場所をはっきり言わなかったが、掘割近い所だったみたい。それに最初に行ったのは昭和 23 年だと。オジーは大正 4 年生れだから、33 歳で行った。与那嶺正雄さんは昭和 25 年に、17 歳で飯炊きで行って、カツオ工場も見てます。そしてたら宝山丸は、昭和 23 年から 25,6 年まで、何回か、複数回行っているわけですかねえ。

八重山の発田重春さんも、魚釣島の古賀さんの工場跡で、カツオ節製造やります。あれは確か、昭和 24 年から 25 年頃までだったと思います。発田さんと工場とかち合います。2 箇所とも掘割の近くだから、丸山の方が遠慮して引越したんじゃないか、それで、与那嶺



魚釣島北西側海岸の光景、与那国島民のクバ葉採取の時の根拠地、当時の納屋もある。(昭和 14 年撮影)

さんが言った場所、そこから北西側の山の近くに移動したんですかねえ。戦前、与那国の人達が、魚釣島にクバの葉を採りに行ったそうです。その時に上陸する場所、ここがいいと移動したわけですかねえ。あの時金松オジーにもっとよく聞いておけばよかった。まあ、一度は現地に行ってみたくです。現物が残っていたら見てみたいですねえ。

ナマリ節を製造 月2回に運ぶ 相当稼いだ 月給20円

また、あっちでは荒節(ナマリ節)を造って、船で持ち帰り、池間の工場に運んで、また再度乾燥させて、カツオ節に仕上げ、こっちで削りもしていた。もう、あっちでは荒節だけ造っていたそうですねえ、それで、船は何回は借りたか?(荒節を運んだかの意)と聞いたら、その当時は、月に2回ほど、船は行って、食料船はカツオの荒節を持ってきて、また補給しに行くと言っていましたねえ。で、人間はどの位? そこまで聞かない、女工さんはいない。男だけ。工場は木は伐ってから 魚釣島にはチャーギ(リュウキュウマキ)がいっぱいあるから、これを伐ってきて、工場建てるのに使ったと言っていました(笑い)。もったいない!? いや、チャーギだとなかなか壊れないし、帰る時全部持って行けばいい。それを島に持って帰って家造ればいいから(笑い) 屋根? そのこと聞いてない。やっぱりカバー(米軍野営のテント)持って行って被せたんでしょう。

燃料は、流れ着いた流木を拾ってきて、燃やして。道具は池間の工場から、船で運んで行って、釜とか、蒸籠とかを持って行って、また終わったら持ち帰ったそうです。これ何ヵ年位続けた? 行ったのは昭和23年から26年位までですか、3,4,5年は行っているか? はっきり分からない(笑い)。

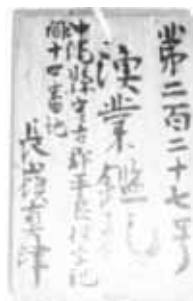
で、金松オジーは工場長も会計してましたから、相当儲けたと言っていました。どの位、皆もらっておったかと聞いたら、月に大体20円位と言っていましたねえ、B円(米軍票)の話ですよ。相当稼いだと(笑い)。



森田金松氏

祖父 潜り 宮古が一番 16歳 漁業鑑札もらう

ウチの祖父(長嶺真津、のち改名長嶺宗雄)ですか。祖父は明治26年生まれで、数え92歳で亡くなりましたが、ウチの曾祖父は、首里から池間に派遣された役人で、「宮古島庶民史」に長嶺親雲上と出ています。糸満とも何かつながりあって、それで祖父は家が貧乏だから9歳の時糸満に連れて行かれて、そこで漁業を覚えたと言っていました。それからサバニ4隻買って、持ち帰ってきて、池間で追い込みやるし、カツオ業でエサ採りやるわけです。祖父は格好いいオジイでねえ、もう潜りさせたら宮古が一番でしたよ。



上: 祖父長嶺宗雄
左: 漁業鑑札(明治42年発行)

で、ウチの家に祖父が16歳の時に宮古島廠(宮古支庁)からもらった漁業鑑札がありま

す。明治42年だから100年以上前のものです。古い焼印木札で、当時の漁業許可証です。明治39年に、鹿児島出身の鮫島幸兵衛が、池間でカツオ漁業を始めて、その3年後の明治42年には、池間の漁師達は共同でカツオ船を造って、自分達で操業しています。当時は、この漁業鑑札がなければカツオのエサ採りはできないわけですよ。祖父は夏はカツオのエサ採りして、冬場は八重山にアギヤー（追込み）の旅漁に行っていたそうですが、サバニがひっくり返っても、この鑑札だけは絶対手離さなかった、とても大事なものだと言っていました（笑い）。

結局、祖父は16歳からずっとカツオと関わってきて、戦前、昭和12年には、南洋行っている。トラック島にカツオ漁しに、南洋興発株の関係で。トラックには慶良間の座間味、渡名喜の人達も結構行っているんです。よく座間味、渡名喜から友達遊びに来てましたよ。祖父は、金儲けて料亭も造ったらしいけど、戦争で一遍に失くなって、あの時郵便債権といって、そればかり買わされた。それを戦後、換金しようとしたら、これ金にならん、紙くず同様だと、いつも怒っていましたよ。祖父が残したものが今でもいっぱいあります（笑い）。で、池間に戻ってきたら、南洋から引き揚げた仲間達と、戦争で残った船を使って、皆で戦後のカツオ漁業を再建したわけですねえ。

終戦直後 池間 カツオ業で 島潤う

考えてみると、この宝山丸とかのカツオ船が、戦後のカツオ漁業を救ったんですよ。

終戦直後というのはカツオ節の需要はあるが、戦争でやられて、カツオ船がないです。

乗組員は、戦争が終ると外地から引き揚げられてきて、皆南洋に、南興水産(株)とかに雇われて、カツオ漁に行っていましたから、ウチの祖父は、昭和12年に行って、トラック島で、カツオ漁をずっとやっていたから。南洋から引き揚げた乗組員と残った船で、戦後のカツオ業はスタートしたんです。それで、島はカツオ業ですごく潤ったと言いますからねえ。こんな何もない島に、来た人は、何で池間に赤瓦葺きが沢山あるのと驚きます（笑い）。昔の富の象徴は赤瓦ですからねえ（笑い）。これはカツオ業



池間集落、カツオ業の島として豊かさを誇った。赤瓦の家並みはその象徴である。（譜久村健提供）

のお陰ですよ。戦後の飯の食えない時代に、パッとカツオ漁がすごく伸びてきたからねえ。結局は、カツオ漁して、カツオ節を造って、これが大きな産業となって、島は栄えていましたから。それにもうカツオの頭さえあれば、島の人は食べるのに困らなかったですよ（笑い）。頭はおかず、骨は、尻尾はダシ汁にしましたから、これで蛋白を補って、時々カツオの刺身を食べて、今考えたら贅沢な暮らしですねえ（笑い）。芋も多かったですが、

米も結構食べよったで。で、昭和 55 年頃には、また池間も、伊良部も戦前みたいに南方に行きはじめる。今度はパラオとか、パプアニューギニアとかに行きました。あの時は皆相当儲けました。もうカツオのお陰で、島は相当潤ってましたからねえ。

宝山丸 舳先が立った 昔のカツオ船

宝山丸の写真ですか。あることはありますが、単独ではなくて、トータルで写っているのがあります。10 何隻か、これがその写真です。宝山丸がこれです。真ん中の船で、この船 1 隻だけが舳先が立っています。これは戦前からの古い船だったです。戦後も残って、現役のカツオ船で大部活躍しましたよ。尖閣列島なんかにも行ってねえ。昔の和船形です。こっちが伸光丸、これは有芳丸で、これが照幸丸かなあ。これ瑞光丸。これは皆新しい型です。カツオ釣るために舳先はホースビットが伸びていますねえ。昔のカツオ船は宝山丸みたいに、皆立ってましたから。

ホースビットが出てきたのは意外と新しいんです。新しいカツオ船は見ると皆ホースビットが伸びていますから。ウチのお祖父さんも、親父も、この宝山丸に乗って、尖閣列島に、カツオ釣りに、結構行っていたと思いますよ（笑い）。南洋から帰って来て、2 人とも漁労長、機関長してましたから。



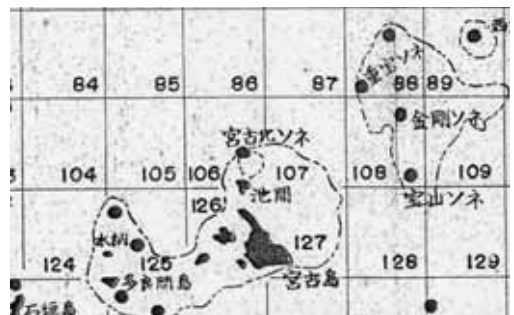
池間漁港に勢揃いしたカツオ漁船、中央に舳先が立っているのが宝山丸、「沖縄池間島民俗誌」より

宝山ソネとか 池間漁船 宝山丸とかが 発見

宝山丸は、戦前からのすごい歴史があります。（カツオ漁場図を指して）宮古島から東へ 45 マイル離れて、沖縄本島と間に、3 つソネがあります。宝山ソネ、重宝ソネ、金剛ソネと、これは戦前、池間のカツオ船がカツオ釣りに行って見つけたソネです。宝山ソネは宝山丸が、重宝ソネは重宝丸が、金剛ソネは金剛丸が見つけたんです。皆見つけた池間の船名になっている。今はこの 3 つまとめて宝山ソネと言っています。

この宝山ソネは、宮古島の 2、3 倍の面積もあるソネで、水深の浅い所で 28 メーター、深い所で 350 メーターあります。ちゃんと海図にも、GPS にも載ってますよ。

マチ類はアカマチ（ハマダイ）、シチューマチ（アオダイ）とか、ハタ類は、ミーバイ（ヤミハタ類）、アーラミーバイ（ヤイトハタ類）とか、またタイ類なんかよく釣れます。こっち



右端に宝山ソネ、重宝ソネ、金剛ソネ、いずれも池間漁船が発見（琉球近海鰹漁場図 1967.6）

は昔から尖閣諸島と並んで一本釣り船のいい漁場です。

沖縄の船は、久米島からアカオにコース切って尖閣諸島に行くわけですよ。行ったら、あそこで潮が速くて、漁ができないと、帰りは宝山ソネに寄って、漁をしてくる。

糸満の松川国男さんなんか、僕の第三拓漁丸の前の持ち主ですが、よくそうしたと話してましたねえ。宝山ソネは、宮古から近いでしょう、僕ら池間や、宮古島漁協の一本釣り船は向こうに直行して、いつも利用している漁場です。

今から 55 年余り前、昭和 34 年頃ですか、一大サンゴブームが巻き起りましたが、あれも宝山ソネからです。こっちでサンゴ採れると言うもんだら、もう大変な騒ぎでした。カツオ船も、カツオ獲らないで、サンゴ採りに来て、工場もストップして。もう宝山ソネは、沢山のサンゴ船が押しかけて、夜は操業している船の灯りが煌々として、那覇の街より明るかったそうです。この宝山ソネで、サンゴ漁場を発見したのは、池間の大先輩の森田真弘さんです。琉球政府の農林水産局長された方です。僕の池間の実家の後ろが真弘さんの実家、森田金松さんはすぐ前ですよ。森田金三さんの長男が真弘さん、金松さんは次男だから。

森田真弘 戦後沖縄の 水産復興・振興に貢献

森田真弘さんは、沖縄水産学校から、中央大学に進学して、戦前から終戦直後まで農林省に勤務してました。昭和 26 年には、琉球政府の農林水産局長に迎えられ、沖縄の漁業の復興とその行政の基礎作りをされています。戦後初の琉球漁業法とか、漁業調整規則などを手がけています。琉球漁業法は、森田さんが半年かけて、大島から八重山にわたって現地調査して、立案したもので、当時の U S C A R (琉球列島米国民政府) の承認がなかなか得られず大変苦労したようです。また森田さんは、沖縄の漁業振興にも真剣に取り組んでいました。昭和 30 年頃ですか。李ライン追われた本土のサバ漁船が東シナ海に押しかけてきたんです。



沖縄水産復興と振興
貢献した森田真弘氏

魚釣島付近に、マサバが相当いるというので、それで、尖閣列島のサバ漁場が注目されるわけです。

このサバの跳ね釣りを沖縄に導入させたのは森田さんです。このサバ漁業は冬にできますから。夏場のカツオ漁業と一緒にすれば、周年操業できるということで、積極的に導入しました。サバ漁業先進地から講師を呼んで跳ね釣りの講習会やったり、宮崎や静岡のサバ船を技術指導の名目で操業させています。水産庁時代の友達も応援したんでしょう。ウチの祖父も関心があって、琉球水産試験場の調査船に乗せてもらい、サバの漁場調査に行っています。それで、サバ漁業は相当盛んになりますねえ。那覇の琉球水産社は大型のサバ船も建造して、相当力を入れてましたが。数年したら、このサバ漁業は消えてしまった。あんなにいたサバは急に獲れなくなると、長嶺彦昌社長が、確か何か書いてましたねえ。森田さんは、沖縄にとって、サバ漁業は、画期的で、特筆すべきものと、とても期待

していただけない、大変残念に思ったでしょうねえ。

で、宝石サンゴがありますねえ。200メートル以深にあるサンゴですよ。森田さんは、あの宝石サンゴに関心を持ち、自分で研究していましたねえ。琉球政府に5年ほどしかいなくて、惜しまれて辞めるんです。辞めたあとは、「日本において、わが沖縄近海だけが残されたサンゴ漁場である」と言って、サンゴ漁場の開拓に取り組むわけです。

家財擲って サンゴ漁場開拓に 挑戦

このサンゴ漁業は、本土では昔から高知が盛んです。戦前は台湾で相当採れているし、尖閣諸島でも採れていたようです。古賀辰四郎さんの藍綬褒章下賜ノ件の資料見ると、サンゴ漁業を有望視しています。明治44,5年予算ではサンゴ船20艘を計画してますよ。

終戦直後は、与那国でサンゴが採れるからと、本場の高知からサンゴ船が行ってます。

森田さんは、沖縄近海に、サンゴ漁場が絶対あるはずだ。もしそれを見つけて、サンゴ漁業ができれば、沖縄の漁業振興の大きな柱になるかもしれない。それで、昭和30年には琉球政府を辞めると、すぐこの宝石サンゴ探しを始めるわけです。

辞める1年前には、徳之島沖でサンゴ採れて、辞めた年の昭和30年に長崎でサンゴ採れたと、確か「水産人森田真弘著作集」には書いてますよ。

家財全部を擲って、サンゴ漁場の開拓に取り組むわけです。最初は内地から10ト位の船をチャーターしてサンゴ探しを始めます。その時の船長は誰でしたかねえ、機関長はウチの親父でした。こっちの池間から出港し、北は奄美大島から、沖縄本島、宮古島、八重山、与那国近海を、あっちこっちを、全部探したわけです。だけど誰も宝石サンゴを見たことないし、初めて挑戦だから、もう手探りで、網入れるわけです。勿論1年目はダメ。2年目もダメ。ところが3年やっても成果なし。もう資金も底をつき、銀行から見放されてしまっ



森田真弘氏がサンゴ漁場調査したサンゴ船福太郎丸(19ト)。

て、もう奥さんも、周囲も止めて頂戴と猛反対ですよ。森田さんは絶対諦めない。

とうとう4年目になって、那覇地区の深海一本釣り船が、何やらきれい石を掛けて揚げた。宝山ソネです。調べてみると、これが宝石サンゴの枝と分ったわけです。もしかしらこっちにサンゴがあるかもと、これがきっかけで、調査に希望が出たわけです。

苦節4年 宝山で 大漁場発見 サンゴブーム巻き起こる

希望が出たもんだから、今度は福太郎丸(19ト)を買ってきて、高知からサンゴ船ベテランの中平兼太郎さんを連れてきて、船長にしてサンゴ探します。そしたら丁度真夏でし

た。もううだるような暑さの最中に、森田さんの元に一通の電報が届いたんです、赤ぶちの電報が。これを震えながら開いてみたら、「宝山ソネでサンゴ漁場を発見す」の朗報。森田さんはもう涙を流して大喜びですよ。苦節4年、やっと自分の苦労が報われたと。

昭和34年9月10日に、ついにサンゴ漁場を発見したわけです。その時僕は小学校4年でした。親父は機関長だから殆ど家にいなかった。久しぶりに帰ってきて、すごいことが起こったぞ、奇跡に近いと、大喜びしていましたねえ。この福太郎丸という船名は、森田さんが尊敬していた伯父さんの名前をとってつけたものです。翌年から操業が始まったわけです。操業したら、この宝山ソネのサンゴ漁場は、200メートル深海に、桃サンゴとかがあって、規模も相当大きいわけです。それから、沖縄は大変なサンゴブームになりました。もう猫も杓子も皆、サンゴに走って、宮古のカツオ船なんかは、カツオ漁止めて、皆サンゴ船に替わりました(笑い)。サンゴ漁の許可船は70隻もあって、それに無許可船を入れるともう大変な隻数です。それが全部宝山ソネに、皆押し掛けて行ったもんだから(笑い)。



採取したサンゴを前にして福太郎丸乗組員の記念写真。前列中央は中平兼太郎船長。右隣は長嶺隆博機関長。

森田さんは、「わが国サンゴ漁業史上、空前の大漁場と高く評価された。約10年にわたって、良質の桃色サンゴが、多量に上がり、最高の1963年(昭和38年)には、実に15,000知余、114万ドル余の生産があった。サンゴの産地として、沖縄の名は、にわかにクローズアップされたのだ」(「海・その原点サンゴ」昭和50年8月)と書いてますよ。どんなに規模が大きいといっても、あれだけの隻数でしょう。段々採れなくなって、結局、10年では、宝山ソネのサンゴは、もう採り尽くして、枯渇したわけです。

祖父と親父 尖閣との関り深い

結局、森田さんのお蔭で、沖縄にサンゴ漁業が誕生しました。そのあと、あっちこちでサンゴが発見されて採れるわけですよ。大九ソネとか、与那国沖、尖閣列島になんかでも。最初の頃に、森田さんがチャーターした船は、尖閣列島辺りにもサンゴ探しに行っていたかもしれない。宝石サンゴも、深海一本釣りのアカマチなんかも、水深200メートル、300メートルで採るわけだから。その時親父が機関長していたから、ちゃんと聞いておけばよかった(笑い)。で、ウチの祖父も、親父も、案外尖閣列島とは関わりは深いです。

終戦直後に、宝山丸で、祖父が漁労長、親父が機関長で、カツオ漁に行ってます。池間の工場から道具運んで、魚釣島で粗節を造ってます。そのあと、與座金真さんの照幸丸(31ト)で、船長は濱川政治さん、親父が機関長で、深海一本釣りで行ってます。父の弟の宗治さんも一緒です。アカマチ、シチューマチ相当獲ったと聞きましたよ。またカツオを竿釣

りしたり、曳き縄でマンビカー獲ったりしたとも（笑い）。

昭和 30 年頃からですか、尖閣列島の上側で、サバが釣れるとあって、内地のサバ船がドツと来るようになります。琉球水産研究所も凶南丸で調査してねえ。ウチの親父は、この凶南丸に乗って、サバの跳ね釣りにも行っているんです。多分、あっちこちの優秀な船頭なんか集めて調査名目で行ったんでしょうねえ。

結構サバは釣れたらしいけど、釣れても、どうしたら売ればよいか、それが問題だったそうで、結局親父はサバ船はやらなかったわけです。そのあと森田さんの

サンゴ船、福太郎丸にも、機関長で乗って、サンゴ漁場探してます。

森田さんからサンゴ漁場発見したボナスで土地をもらったんです。那覇の安里に、松岡政保さんの家の隣でした。いい所でしたよ。その土地を売って船を買ったんです。僕の高校生の時だったから憶えている。その前は照幸丸で、機関長して、尖閣にもよく行ってました。親父はサンゴブームになっ

てもサンゴには手を出しませんでした。もっぱらカツオ漁でした。それで買った船は宮古のサンゴ船上がり、これを改造してカツオ船にしたのが宝盛丸(30 ト)。親父が機関長、弟の宗治叔父が船長して、夏は島近くでカツオ釣って、冬は尖閣列島に行って、また尖閣列島でも一本釣りもしました。

昭和 42 年に、南方へカツオ漁に行くまでは、宗治叔父の話だと、この照幸丸で、冬は尖閣列島によく行って、ヤイトガツオとか、アカマチとか相当釣ってきた、1 航海 3 日位で、2 トから 3 ト位は釣って来たと言っていました。



父の長嶺隆博と照幸丸(船長濱川政治 31 ト)。この船の機関長をして、尖閣列島に深海一本釣りでよく行っていた。

尖閣は イカの宝庫、ケンサキイカの宝庫

尖閣列島はイカの宝庫でもあるんですよ。昭和 57 年頃の話ですが、僕が 31 歳頃かなあ。県の水産課にいた時に、長崎の野母崎の船で、新洋丸が、19 トの船が、こっちに台風で避難しに来ていた。その時あれに、1 航海、1 週間ばかり乗って、大陸棚上がって、レンコダイのカゴ漁をやり、あとはカンパチ、あれを釣りに、東シナ海に行ったんです、尖閣列島に行きました。カンパチは釣りですが、レンコダイは籠で捕りますねえ。レンコ



尖閣諸島はケンサキイカの宝庫

籠というのがあって、これにエサ入れて、おびき寄せる、で入ったら、引き上げるんです（笑い）。この籠を 100 個位延縄で連結してねえ。昔は結婚式の折の中に小さいレンコダイが 1 個ずつ入っていて、大きいのは結婚式の料理に使っていましたねえ。その時にケンサ

キイカというのが結構釣れよったんですよ。ケンサキという美味しいイカですが、それ釣って、カンパチのエサにしていました。尖閣列島は意外とイカの宝庫でもあるんです。イカの産卵場、このケンサキの産卵場ですよ。そしたら、子どもが生まれたら九州の方とか、上へ上がって行くんです。日本海とかに、大陸棚とか、上に行くんですよ。

ソデイカも、沖縄近海を産卵場にして、日本海まで行く。あれ1年で全部大きくなって、エサが一番食っているのハダカイワシとって、深海のイワシを食って。で、このケンサキイカは干して、スルメみたいになるんです。スルメじゃないが、意外と高級なスルメにもなるんですよ。

県漁業取締り船「はやて」で 尖閣へ

そのあと、昭和62年8月でしたか、37歳の頃 尖閣列島には、県の漁業取締り船「はやて」に乗って行ったです。私入れて船員6名で、漁業取締りです。台湾船とか、日本船は区別しないです。沖縄県の漁業調整規則に基づく漁業取り締まりですから、まずは許可持っている船、持っていない船が操業しているのか。尖閣では、深海一本釣りと潜水潜りとかやっていた。一本釣りは宮古、八重山、那覇地区とか、鹿児島・熊本の県外船とか。潜水潜りだと浦添・宜野湾、那覇市沿岸漁協からよく来てやってましたから。漁業許可をちゃんと受けているか取締まるわけです。「はやて」で行った時は、9月の十五夜、丁度台風近づいていて、漁船は1隻もいなかったです（笑い）。復帰後だから、海上保安庁の巡視船はその当時から常駐してましたよ。水産庁の漁業取締り船もいましたから、傍に寄せてから、どこの船か？ マイクで聞かれて、沖縄県の漁業取締り船です。初めて見る船だが？！とねえ（笑い）。

実際「はやて」は新造船でした。尖閣、八重山、与那国を取締るといって進水初航海でした。この船は、県は20年位は使ったはずですよ。丁度尖閣着いたら、台湾近くまで台風が来てました。この船はすごく波に弱かった。魚釣島で一晩停泊しました。丁度十五夜でしたが、僕が起きなかったら、船はのし上げていましたよ（笑い）。もう少しで座礁、危なかったですねえ。南小島行って上陸して、南小島から帰りは、八重山に向かうか、宮古に向かうか、八重山向かったら、台風に向かうから危ないと、それで宮古に向かいました。相当シケっていて、横揺れもひどく、波も高いから、35度こんな傾いて、もう長嶺、一緒に舵とってくれと頼まれて、船長の加勢をして帰ってきました（笑い）。僕は船よりはモズクとかの養殖技術の方やりましたが、若い頃から漁師と海に行ったら、いつも半分交代交代して、船持ってましたよ。船の操縦は慣れてましたし、好きでしたから。



沖縄県漁業取締り船「はやて」(14ト)

佐良浜漁民 終戦後 南小島に サバニ入れる 水路掘った

あの時トリシマ(南小島)に上陸しました。島の北側の方に、工場跡のある側に、この近くに小さい入り江があるんです。これは佐良浜(伊良部漁協)の漁師達がサバニを入れるために掘ったんです。ここでカツオ漁して、工場跡を利用してカツオ節を、荒節を造ってます。

その時に、この入り江で。こっちはサンゴ礁というより硬い岩です。この岩を掘って整地してサバニが入る位、そんなに大きくない、入口4メートル位、長さ20メートルかなあ？ この水路を掘ったわけです。これはもう亡くなった漢那吉郎さんが話していた。その時に自分達が掘ったと。かもめ丸の時ですよ。昭和25年位だから。

池間は、宝山丸が行って魚釣島に丸山の工場造ってました。丁度その頃ですよ。佐良浜はトリシマで操業していた。その時行った佐良浜カツオ船は3隻、かもめ丸と得宝丸、それと雄徳丸だったそうです。その中の1隻のかもめ丸があそこに工場を造ったから、水路を掘ったと本人から聞きました。もう20何年前ですか、その頃はお元気でした。吉郎さんが言っていました。ここにサバニ入れて、

カツオ船は沖の方に置いて、サバニでカツオ運搬して工場に運んだんです。だけど、あの石積みの方は、彼はあんまり分からなかったです、その前からやっていたんじゃないかと、明治の頃に古賀さんが造ったということは知らなかった。僕達は、魚釣島の掘割は、波が結構高くて、そこは入って上陸できなかったから、南小島に移動したんです。ここには、サバニ入れる水路がある。入り江があると分かっていたから、そこに入れてから、



南小島の古賀開拓時代の工場石積み。戦後佐良浜漁民がカツオ工場に利用した。その手前の海岸にサバニ用水路を掘った。遠方は魚釣島、右端は北小島。(仲間均 2003)

すぐ工場跡に上がって行きました。この水路の話は、佐良浜の奥原隆治さんなら分かるかもしれない。奥原さんは当時かもめ丸の船員で行っていたから。あと長崎毅さん、国吉守夫さんなんかも、よく漁で行ってましたから。

大きな幹に 巻き付いたシュウダに 大仰天！！

この入り江に、舟入れて、トリシマに、4名上陸して、これから工場跡に上がったわけです。この辺が石積みで、この辺に井戸があって、これから山に登る道があるんです。この途中位ねえ、ガジュマルの木が結構生えていて、ここで大きな蛇を見たんです。ばかでないシュウダを。あそこのガジュマルの木は、高くて2メートル50しかないです。低い、もう風にやられて、幹はこんなに太いですよ。登りながら前のガジュマルがおかしい。木の幹がこんなに太くなって、この木だけがあまり太く、表面が凸凹の妙な斑模様になって？ あれ最初は何かなあと見ていたら、これがピクピクと動いているんです。あれッ(笑い)、

もう大きな蛇が、ガジュマルの木に巻きついて、ゆっくりに動いているわけです。もうムチャクチャ、皆大仰天して、これ危ないと、もう一目散にです、もう急いで入り江に走って戻って、舟に飛び乗って、トリシマから逃げて行きました（笑い）。シュウダの写真ですか？ いや撮らなかったです。それどころでない、もう逃げるだけでも精一杯です（笑い）。ガジュマルの高さ2メートル50余り、これが下から上まで巻いていたから、蛇の長さは3メートル50から4メートルですよ。昔のオジー達の話に、ものすごい大きな蛇が、尖閣列島にいると言っていました、実際あれ見てみたら、びっくりです。あんな大きい蛇がいるから、もう南小島には二度と行きたくないです（笑い）。



採取したシュウダ（高良鉄夫 1952）

北小島と南小島 仕切れば、いい漁港に

（魚釣島と南・北小島の海図を見て）、この一帯に、流れは強いし、地形上、あんまりアンカーが掛からないですよ。それに1人、2人起きてないとあぶない。だから、この海図見ていると、仕切れば漁港になるかなあという感じがしますねえ。北小島と南小島を仕切っちゃえば。こっち意外と入り江は大きいですよ。こっちに少し防波堤があれば、いい港になっちゃう（笑い）。もったいない。こっちでアンカーを使うんですよ。

意外と北小島と南小島の間にアンカー打って、結構アンカー引きますねえ。

1979年に沖縄開発庁が尖閣列島を調査してますよねえ。あの時学術調査と一緒に、灯台、気象観測施設、ヘリポート、それと漁港、係留ブイの設置もあったはずですよ。専門家を連れて行って、立地条件を相当調べてますよ。漁港だと、潮流とか、深さとか、海洋気象とかを調べて、どの島の、どこに造った方がいいのか、調べて、全部3箇所候補地を上げている。

魚釣島は2箇所、掘割がある北西側と、あと北東側。あとの1箇所は北小島と南小島の間も候補地になっている。やっぱり南小島と北小島、この間を仕切っちゃえば、いい漁港になると思いますよ（笑い）。



南小島北小島間避難港(漁港)設置候補地及び漁船避難用係留ブイ設置候補水域。（「1979年沖縄開発庁調査報告書」より）

池間漁民 尖閣で 潮風いだら イシマチャーやる

自分も海の仕事が好きですから、4,5年前に退職して、今は船持ってます。糸満の松川国

夫さんから国丸から買って、名前を大三拓漁丸(4.3 ト)に変えて使ってます。松川さんはこの船に 1 人で、糸満から尖閣列島に一本釣りに行っていました。僕は一人では危険だからと家内がうるさいもんだから（笑い）、今は 2 人乗ってやっています。

大体が宮古近海とか、宝山ソネで漁しますが、この前は尖閣列島に行ってきました。アカオに、大正島に行きました。結構大漁しましたよ。あそこは潮が速くて、潮が速い時はオモリ入れて、今電動でやります。電動リールでやったら、マーマチ、シチューマチがよく釣れます。アカマチもやったけど、あんまり食わなかった。あれは 250 から 350 メーターだから。で、潮見て、潮が止り風いだ時はイシマチャー（石巻落とし漁）します。

那覇の垣花漁師（現那覇地区漁協）は、戦前は、船に石を積んで、尖閣列島で、このイシマチャーしてます。また宮古を基地にして、尖閣行く時は、平良港近くに、モニヤー（屋号仲買商）があった。あそこは伊波義雄さんという人が魚の浜買い、仲買してました。

垣花漁師の人達は、このモニヤーで仕込みをしたり、寝泊まりしていた。戦前から戦後は復帰近くまでずっと世話になっていたそうですよ。この垣花のイシマチャーを戦前モニヤーにいた垣花の人達が宮古に伝えて、それが池間に伝わったわけです（笑い）。



左：石をオモリ代わりにして針とエサを巻く。中央：海底に着くや、急ぎ引っ張ると、石外れて、魚はエサに食付き、石捨てて、魚釣る。右：尖閣で、風になれば、石巻落とし漁する。拓漁丸から大正島を遠望。

このイシマチャーは原始的な漁法です。石にエサ巻いて魚獲る不便なやり方だから、垣花の漁師(現那覇地区漁協)は、終戦後の一時期は、尖閣列島に行っていましたけど、今はもうやっていない。ここ池間ではイシマチャーは健在ですよ（笑い）。尖閣列島行ってまだやっている。潮見て、潮が速い時は、縄が全部揚がっちゃう、揚がるので、あまり速い時は難しい、潮が風いだ時にやります。石 2 つに撒きエサとエサ挟んで、サンドウィッチにして、その方がエサが抜けにくい、100 発 100 中ではないが、結構いけますよ。

140,150 メーターの深さまで、150 メーター以浅だとマーマチ、これ以上はあまりよくない。垣花とやり方は殆ど変わらん。ただあそこは石 1 個に、釣針 2 個付けますが、ウチらの場合は殆どサンドウィッチで、2 個で挟んで、あと釣針は 1 個、2 個付ける時もあります。石はコーラルリーフ（隆起サンゴ礁粉碎石）。あれ 2 トで 7 千円、それ買えば相当あります。港のあっちこちに積んであるでしょう。この石は船にも乗せて行きます（笑い）。

中国サンゴ船 大勢で押しかけ 我が物顔で 宝山で操業

僕ら池間漁協や宮古島漁協は、この宝山ソネをよく利用しています。底魚のマチ類の、一本釣りのいい漁場ですが、こっちで2,3年前から異変が起きてますよ。

僕達が一本釣りしている場所に中国船が押し寄せてきたわけです。100ト位の大型船が、50隻位で、大勢で、船団組んできたわけです。見るとサンゴ網曳いている。サンゴ採る目的で来た中国のサンゴ船です。私の船は4.3トで小さい船だし、ぶつかると危ないから、漁場から逃げていきましたよ。何されるか分からん、怖いから。もう向こうに中国船がいると分かったら、宝山ソネには行きませんでしたよ。

サンゴ船と言えば、これまでは台湾船でした。沖縄近海でもサンゴが採れますから、宝山ソネとか、尖閣列島付近でも、台湾船がサンゴ採ってました。1隻か2隻で、それも大体が2,30トの船です。台湾船は、保安庁に見つかると、やばいから、コソコソやっていたよ(笑い)。日本のEEZの中だから、もう違法操業ですから。



我が物顔で、宝山ソネで操業中の中国サンゴ船。左の小さな船は池間の一本釣船。ぶつかれば危険極まりない。

だけど中国船の場合は、あんなして大勢で押しかけて、僕達の目の前で、堂々と網入れて、サンゴ採っているわけです。台湾漁船だと、保安庁の巡視船は取締まりますよ。中国漁船は取り締まらないです。日本側の領海侵犯しない限り、12カ国領海外では、自由に操業できるわけです。だから保安庁は締められないわけです。日中漁業協定でそう決めていますから。それと、何で、中国船は、宝山ソネでサンゴ採れることを知っていたのか、不思議でした。これが疑問でしたねえ。

宝山ソネでは、中国サンゴ船が来るという異変が2,3年前に起きてから、ずっと中国船は来て、サンゴ採ってますよ。ずっと採っているから、サンゴはもうないはずですよ。もう乱獲されて採り尽くされてしまったんじゃないか。

日中漁業協定 廃止して サンゴ資源守ろう

森田真弘さんが、この宝山ソネでサンゴ漁場を発見した時も、もう皆サンゴ採ると、こっちに殺到して、一大サンゴブームが巻き起こったわけです。それで発見から、僅か10年で、宝山ソネのサンゴ漁場は、もう乱獲して、採り尽くしてしまったわけです。森田さんはこれに大変心を痛めています、これと同じことが今起こっていますよ。中国のサンゴ船によって。それで、僕は宮古毎日新聞社に、「私見公論」を頼まれて、『木を見て森を見ず』と題して、漁業問題とか、いろいろ6回ほど書きました。この中の1つに、中国サン

ゴ船問題を取上げて、「日中漁業協定廃止を目指して」ということで書きましたけど。

これがそうです。「・・森田真弘氏は・・昭和 34 年 9 月 14 日ついに宝山曾根で世界に誇るサンゴ漁場を発見した。・・しかし狭い漁場に多くのサンゴ船が操業したことから、発見から 10 年で宝山曾根のサンゴ漁場は枯渇してしまったと記述している。くしくも琉球漁業法や調整規則を起草した本人にとって至極残念であったと思う。その反省にたつて、資源管理をしながら「海を創る」という文章がある。我々漁業者への教訓として言いたかっただろうと推察する。さて、前述した中国のサンゴ船が我が物顔でサンゴ漁業できるのか。平成 9 年 11 月 11 日中国との漁業協定が日本政府と中国政府の間で締結されたことによるものである。この日中漁業協定は宮古島東平安名崎灯台から糸満市喜屋武岬灯台を直線に結んだラインから西側(領海 12 海里を除く)を東シナ海とし中国が自由に漁業活動できる内容になっている。また、漁業取締りも自国の漁船を取締まるとなっていることからサンゴ漁業の許可制度がない中国漁船は密漁にあたるが中国の漁業取締船は密漁サンゴ漁船を取締まらないのが現状である。現在中国の密漁サンゴ漁船は 200 隻が操業しているといわれている。年間数ミリしか成長しない深海サンゴを 40 年以上も保護してきた背景や漁業者の生命線である宝山曾根漁場の荒廃など予想しないばかりか、沖縄県の漁業者に何の話し合いもなく結ばれた日中漁業協定の廃棄こそ天国から見ている森田真弘氏への恩返しになると思う。」(宮古毎日新聞 2014.05.09)。

この新聞に書いた通りですよ。沖縄のサンゴ資源を守るためにも、サンゴ資源を守るだけじゃない、沖縄の漁業を守るためにも、この日中漁業協定は、すぐにでも廃棄しなければなりません。(了)



日中漁業協定水域図

※参考 密漁調査 漁民は歓迎 沖縄 漁場回復にも期待

小笠原諸島周辺よりも先に、中国漁船による宝石サンゴの大規模密漁が行われたとみられる沖縄近海で、水産庁による資源調査が8月に実施されることになった。漁民たちは、調査が実態解明と資源回復につながることに期待を寄せている。

「県などに漁場の調査を申し入れてきた。やっと願いがかなう」。池間漁業組合（沖縄県宮古島）の前組合長、長嶺さん（64）は歓迎する。

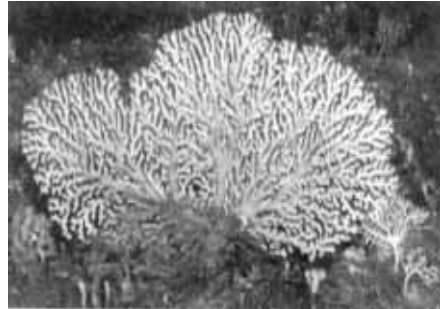
長嶺さんによると宮古島の東側の海域には、豊かな漁場が広がっていた。宝石サンゴ生育地はハマダイの産卵場所で、一本釣り漁船が多く集まる好漁場だったが、2012年突然、中国漁船約50隻が押し寄せた。長嶺さんの船より中国漁船ははるかに大きく、漁場に近づこうとすると突進してきたため、逃げざる得なかったという。

沖縄ではサンゴの採取には県の許可が必要で、網を使わずにアーム状の機械で狙ったものだけを採る。一方、中国漁船は、重りで海底に沈めた網で根こそぎサンゴをさらうため、密漁以降魚が釣れなくなり、別の場所に漁場を変更せざるを得なかったという。

第11管区海上保安本部などによると13年2月以降、海保による取り締まり可能な沖縄周辺海域で、サンゴを密漁していた中国漁船を漁業主権法違反（無許可操業など）の疑いで6件摘発した。中国の漁船団は多い時には200隻に上り、採り尽したためか、一部が昨年秋頃、小笠原に移動したとみられる。

同本部によると沖縄周辺では、今年2月に6隻が東に向かって航行しているのを発見して以来、宝石サンゴ目的とみられる中国漁船は確認されていない。ただ、13～14年は大規模な漁船団が秋に日本海にやって来ており、警戒は緩めていない。

今回の調査は、密漁船が多く見られた地点や地元漁師らの漁場を中心に行う。長嶺さんは「サンゴの成長に何十年もかかり、豊かな漁場に戻るのには時間がかかる。調査結果と基に、漁場の回復に向けた対策も考えてもらいたい」と話す。10～12年の研究チームによる調査に参加した立正大の岩崎望教授（海洋生物学）は「一部の海域では宝石サンゴが豊かに生育していた。中国漁船が操業していた場所を中心に調べ、前回と比較することで、漁場の被害が見えてくるのではないか」と話している。（読売新聞.2015年7月19日）



2011年10月に沖縄研究グループが撮影したモイロサンゴ
（岩崎望・立正大学教授）



2014年5月、沖縄県宮古島沖でサンゴを密漁したとして水産庁の漁業取締船に拿捕された中国漁船（手前）（水産庁提供）

池間行進曲 歌詞:池間昌増

- 一、その名も高き大主の社を拝みて登り行く 辿り着きたる遠見台 池間の島を見渡さん
- 二、南の岡におごそかにいらかも長くそびゆるは こそ池間の学校でわがなつかしき母校なり
- 三、明治三十六年に生まれいでたるわが校は 二十三才の星霜を経たる床しき校舎で
- 四、大正十年四月には高等小学併置され 学びの道は開けたりいざや学ばんわが友よ
- 五、北の浜辺を見下ろせばこそ名に負う仲間越 納屋の煙空を突き工場の機械は威勢よし
- 六、組合数は六つあり宝山重宝大宝丸 池島丸と宝泉漁福丸は二号まで
- 七、海に生まれて海に住むわが同胞は祖先より 伝えし漁業を受けついで鰹製造始めたり
- 八、明治三十有九年始めてこの業ひらけたり 産額年々増しゆきて三十五万
- 九、島の夜明けを告げる頃東天白む暁に 島の若人各々の船にのり込む雄雄しさよ
- 十、鷗がさわぐ真昼間緑の潮わきたたせ 鰹群がり餌に釣する人も湧み立つ
- 十一、陽は西海に傾いて鴉もねぐらへ急ぐ時 五色の旗をなびかせて誇り顔にぞ帰り来ぬ
- 十二、祖先にうけたるこの地あり天に賜いし漁業あり 共同一致を身に挺し技にいそしむ頼もしさ
- 十三、池間前里二区字の戸数は二百五十八 人口一千六百で一家の如きまといなり
- 十四、青年会や処女会は世の文明に遅れじと 日々の修行を怠らぬその心根の香ばしさ
- 十五、産業立国叫ばれ一文化の高潮かける時 いざや富まさん池間島いざや学ばん島人よ



池間島の民宿「勝連荘」入口の外壁に「池間行進曲」が書かれている。

仲田 吉一 なかだ よしかず (八重山漁協)

1963年(昭和38年)八重山石垣市新川に生まれる。52歳(2015年時)
祖父の代に沖縄本島伊是名島から石垣島に移住、祖父は尖閣開拓者古賀氏のもとでカツオ漁に従事。親子3代尖閣の海で飯を食ってきたという。海自機関科で船舶エンジンを学び、23歳帰郷後に父親と先島近海の深海一本釣に従事、28歳でマグロ延縄に転換、第八宏徳丸(4.9ト)を建造。

以来、先島北海区(八重山・尖閣間)を主漁場として23年間マグロ延縄を専業。今なお第一線で活躍、若手漁業者のリーダーとして八重山マグロ延縄業界を牽引し、八重山マグロ船主会長、日台漁業八重山地区審議委員、等々歴任する。



祖父 伊是名から渡島 ずっと古賀丸乗っていた

僕らは祖父さん(仲田森助)の代に、沖縄本島の伊是名から八重山に来た。あの時分は伊是名で働く場所ないから、潜りをやっていたけど、潜りだけでは飯食えないからこっちに来たと言っていた。歴史の本に、「八重山でも鰹業を習得した漁師が中心になって、各部落株組織で、発動機船を建造して競って鰹業を始めた。・・字前泊で根路銘五郎氏外14名の同士が八重山尖閣列島での経験を活用し、大正

11年に新造船で鰹業に専念し好成績を上げた」(「伊平屋列島文化誌」仲田清利著)とあるよ。この根路銘五郎さんという人は分かんが、祖父さんも多分この人達と一緒に来たんじゃないか、来た時期は大正の時期かなあ。外14名の同士とあるから、相当人達が、尖閣列島の古賀さんの所に来たかもしれん。

祖父さんは、ずっとクガドゥン(古賀殿、古賀商店八重山支店、社長古賀善次)の所におって、ずっと古賀丸に乗っている。尖閣でカツオ釣っていたわけ。親父(仲田吉宏)の話だと、親父が小さい頃に、お土産とって、バカドリ(カツオドリ)を、2,3羽持ってきていたと言いよった(笑い)。あれ臭くて食べられなかったはずだが、食べたのかなあ。祖父さんは、戦前に古賀丸が辞めるまで、ずっと古賀丸に乗っていたそうです。戦前辞めて、戦後になってからが、マルノーのカツオ船(船主丸野友助)に、あの友福丸は1号2号3号5号と4隻あったけど、あの船に乗ったわけよ。



魚釣島でのカツオ節製造光景。島の周りでカツオ釣ると、島に水揚げしてカツオ節製造した。(明治43年)

親子3代 尖閣で 飯を食う

(石垣市新川の地図を指して) 尖閣ではいつまでカツオ製造したか分かんけど、古賀丸のカツオ工場はこっちにもあったんです。私の実家(仲田鮮魚店)の後ろに納屋あった。

親父の話だと戦前はこっちに大きな工場があって、水揚げはすぐ目の前にしておった。今ここは埋め立てられているが、戦前はこっちは海になっている。こっちに古賀丸着けて、船揚げられるように坂になって、船揚場みたいだったそうですよ。古賀丸は何隻？ 親父が言うには1隻しかなく、大きさは10トまではなかったみたい。古賀の工場は相当大きかったようです。製造作業場の納屋とか、焙乾屋とかあって、大きな水タンクもあって、長崎御願(拝所)の近くまで、もう全部古賀さんの屋敷だったと言ってました。工場は金城良正さんの親父(良興)に任せておったから、古賀(善次)さんという人は見たことなく、ずっと那覇におったみたいと言ってました。戦前で、古賀さんはカツオ業を辞めたけど、戦後まで船はあったから、アオヤマ(青山政元)さんが、工場も船も借りてやっておったそうです。アオヤマが辞めたら、古賀さんの土地は皆売ってますよ。南海商会(社長照屋清栄)もあそこでやってお



石垣港棧橋から古賀商店付近を望む(昭和8年)。
 (「八重山写真帖」より)

ったです。僕も憶えてますが、あっちも全部売られて、古賀さんの土地はもうないですよ。

親父(仲田吉宏)は古賀丸にも乗ったそうです。小学校2年の夏休みに、連れられて、古賀丸に乗って、カツオを釣るのを見せてもらったと話してました(笑い)。

親父の仕事ですか、こっちではカツオ業が盛んでしたから、祖父さんの跡継いでカツオ業ですよ。カツオ船に乗ったり、潜ってカツオのエサ採りしたりしてます。あと一本釣、曳き縄したり、何でもやっています。戦後カツオ船が盛んな頃は、島の船は、もう皆尖閣の辺りまで出漁しましたからねえ。私の家も三世代、この尖閣の海で飯を食ってきたわけですよ。私達は先祖が開拓してきたこの海を守り、育てていかなければいけないですよええ。



祖父・仲田森助 父・仲田吉宏

28歳 一本釣から マグロに切り替え

僕は、昭和38年に、海上自衛隊に3年、1年期3年だから、そこに入って、機関科でエンジンを学びました。そのあと帰って来てずっと、親父と一緒に漁師してました。深海一本釣をして、3ト位の小型船で、アカマチ(ハマダイ)とか釣ってました。漁場は、西表から与那国の広範囲、多良間辺りと全部、船が小さいから尖閣は行かなかったです。

一本釣を暫くやっていて、マグロ延縄に切り替えました。28歳に、平成3年だから1991年に第八宏徳丸(4.9ト)を進水し、これで本格的にマグロをやり始めました。

切り替えた動機ですか、親父が一本釣っていた頃は、GPSないから、自分の釣れるポイントは、皆山当て、島当てで行って、憶えていたわけです。親父のポイントは、一本釣りが長かったから相当ありましたよ。これを僕がGPSに1年間で全部入れたたんです。登録したんです(笑い)。これに親父もびっくりしてねえ。もう簡単に自分のポイントが他所に分かってしまうでしょう。結局ここで船停めて漁していたら、傍通って行く船はポンと押すだけで、もうその場所は皆にばれるわけ。4,5日後に、このポイントを押した船がここに来て、一本釣りは底魚でしょう。そこで漁ができますから(笑い)。

もう一本釣りは将来性がないということで、それで回遊魚のマグロ、マグロ船に切り替えたわけです。

それにマグロ船に比べたら一本釣りは限界がありますねえ。一本釣りはどんなに200疋釣っても、キハダマグロ1本でも50疋でしょう、5本釣ればもう250疋です。また大きければ2倍の500疋にもなる。それだけに、マグロ船は魅力ありました。その代わり、マグロ船造るとか、延縄の漁具とか、経費とか、相当金は掛かったし、リスクも伴ったけど、これはやっぱり親子だからできたんです。僕もあの時は若かったし、借金は頑張って返せばいいやの軽い気持ちでやりましたから(笑い)。まあ切り替えの時期もよかったし、やっぱり、やってよかったですねえ。

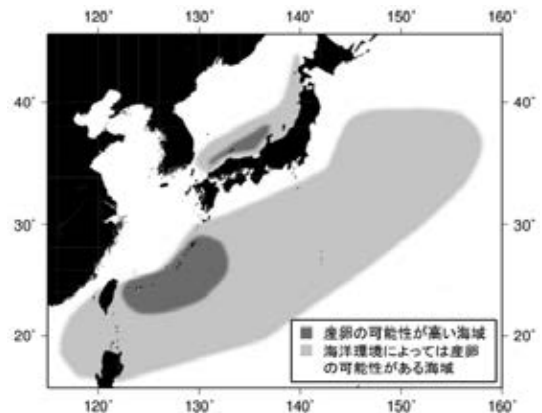


マグロ延縄船・第八宏徳丸(4.9ト)

八重山海域 マグロ好漁場 最終産卵場？

この八重山海域はマグロのいい漁場ですよ。クロマグロは、フィリピンの南の方から北上してきて、東シナ海をぐるっと回ってきて、産卵終わったら、南に帰って行きます。

最近そうなのではということが分かってきましたねえ。これは6年間、僕ら漁業者が西海区水産研究所に協力して、国が調査研究やって、GPSたぐって、船が来て、全部マグロ追って行って、それで分かったんですが。自分なんかは、データから見たら、最終産卵場は南西諸島で、石垣島辺りでやって、それからまた南に帰って行くと推測しています。で、産卵終わったら南へ帰るんだけど、終わらない魚がまた尖閣辺りからぐるっと廻ってくるのもあるし、



クロマグロの産卵概念図。尖閣諸島を含む隻島海域が産卵の可能性が高い。(「水産総合研究センター資料」より)

一気に産卵はしないで、徐々に徐々にやりますから、産卵しながらねえ。ですから、八重山海域は、もうマグロのいい漁場になっているわけです。クロマグロは、この南の方廻りのグループと北海道からの北廻りのグループ、この2種類あるそうです。北周りのグループは宮崎の方で研究して、与論辺りから引き返して行くとか言ってましたけど、まだその辺ははっきりしてないそうです。途中で研究はストップしたもんだから、この研究していた水産学者が病気で亡くなって、研究が打ち切られたんです。やる人がいなくなって、勿体なかったですよ。

この話を麻生太郎前総理が那覇に丁度来ている時に、僕が話したんです。親睦会があったもんだから、クロマグロのそういう重要な研究をしていたけど、研究者が亡くなって、跡継ぎがいなくて、もう途中で消滅しました。勿体ないです、もし何か機会を見て、ぜひ復活させてほしいと言ったら、うんうんと聞いてはいたけどねえ(笑い)。

10年前 年間水揚げ5、6千万 今3千万切る

第八宏徳丸(4.9ト)の水揚げですか、近年は苦しくなっているんです。魚もいなくなって。最初の頃はよかったです、年間7千万円位水揚げしていました。10年位前までは、普通は5千から6千万位ですねえ。だが、今はその半分、3千万切っています。種類はキハダが多いですねえ、キハダは1年通した魚だから、メバチとホンマグロは時期があります。

クロマグロは5月と6月の約2ヶ月、月に3航海はします。漁場が近いもんだから、釣れたら2、3日で帰ります。その時はピストン航海で、4航海、5航海もします。

僕ら仲間(八重山漁協所属)の船は、大体が10ト以下です。人数は平均3名で、でも船員がいなくて、結構1人2人が多くて、小さい船だと1人で仕事してます(笑い)。八重山全体で、マグロ船やってるのは15,6隻位だけど、もうマグロ時期になると、漁場には船は相当集まりますねえ。あっちこっちから、もう200隻から300隻は来ます。

那覇地区からも来ますし、宮崎からも全部来て、もう波照間沖から、宮古の所まで、ずらっと船は並びます。



八重山漁協所属のマグロ船。5~10ト級が主。クロマグロは5月~6月頃が漁期。準備整えて出漁を待っている。

投縄 尖閣向きに、北緯25° 東経124° から

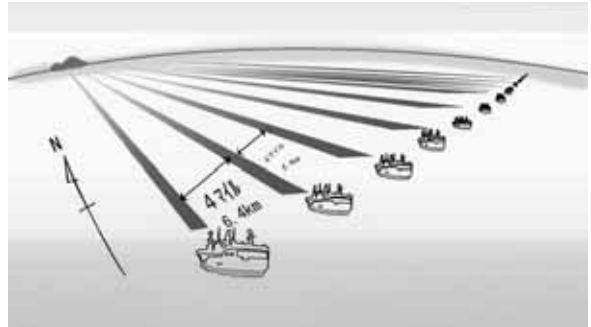
(海図を指して、後方255頁に掲示)漁場の場所ですか、八重山近くだと、北と南に2つあります。こっちの北の漁場はいいですよ。尖閣列島ですか、この近くではやりません。尖閣

列島付近は大陸棚の浅い海域だから、マグロ延縄はできません、マグロも通らないから。マグロ延縄は500~1000mの深さの海域でしかできません。ですから、八重山と尖閣列島の合い中、こっち(②:先島北西漁場)です。あとは南のこっち(③:宮古・八重山南漁場)があります。僕ら八重山のマグロ船は、投縄は大体この2つでやっています。北(②)が主に中心ですねえ。

北を例にして投縄するならば、入れ始めは、大体が北緯25度、東経124度の地点です。投縄方向も、その時の潮の流れや風など見て、皆で決めますが、大体が330度北北西、尖閣向きにして縄入れますねえ。で、漁場に来て、入れ始めポイントを決めたら、船は到着順に、3,4マイル等間隔で、こっちに、ずらっと並んでいきます。

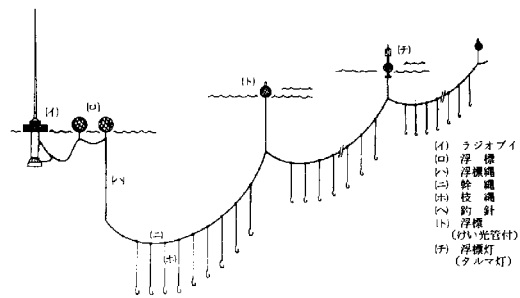
して、各船とも自分の投縄開始のポイントを北緯何度東経何度、角度何度、コースの距離、投縄終了の地点を今はGPSで計算して、全部報告しています。

投縄開始ですか？ 朝の6時です。6時になると、船は決めたコースに、一斉に縄を入れていきます。今は全部自動で縄を入れて自動操舵で走っていきますから。船同士では交差するとかのトラブルは、殆ど起こりません。他の船が時間的に遅れたら、縄が潮に流されて、他の縄に絡まってしまうんですけど。こっちは黒潮だから、黒潮は北東に流れていくものだから、北側の船を先に入れて、段々後の船はそれ以降入られていっても大丈夫です。逆だと縄が絡んでもつれる恐れがあります。

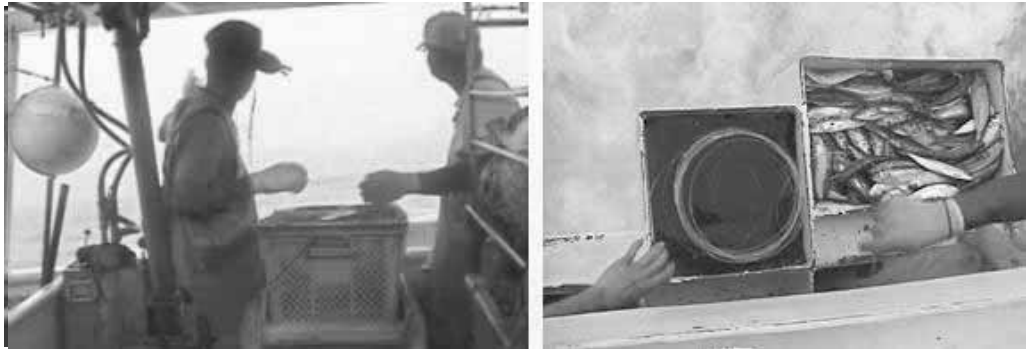


北緯25度、東経124度の地点から全船4マイル等間隔で並び北北西方向に、尖閣諸島の方角に向けて一斉に投縄する。

結局、日本のマグロ延縄の場合は、北は北海道から南は八重山まで、マグロ船の周波数というものが無線にあって、マグロ延縄する時は全船そこに切り替えて、いわば八重山の波照間沖から鹿児島沖あたりまで、ズラーと船が、4マイル、3マイル等間隔で並んでいるわけですよ。だから自分のポイントを皆に報告しておかないと、縄の交差に関わるものだから、嘘とか付いたら大変なことになってしまう、皆に迷惑がかかる。日本船の場合はちゃんと秩序が保たれているわけです。



マグロ延縄は釣針1200本ほどで、長さが4,50呎に及ぶため、縄が交差して纏れたりしたら大ごとである。



宏徳丸の投縄光景 1 左：船尾から2人で、左人後方見えるのが投縄機。船をゆっくり航行しながら投縄。右：上から見た縄置台とエサ置台。投縄は1200本の釣針にエサのムロアジ掛け、枝縄、幹縄入れの作業。

台湾船 海外から締め出され？ 南西諸島に押しかける

台湾船自体が僕等に言わせれば、操業秩序がない、投縄時間もバラバラ、縄のコースも東西に入れたり、南北に入れたり、操業の仕方自体がもうバラバラですねえ。彼等と同じ海域にいと、もう漁具が交差をして切れますから。南北と東西、縄が十字に交差する場合は、一度縄を外してかわせば、一回で済むんですが、並行に交差するともう大変です。10時間で終わる漁なのに、絡まったら外すのに、余計に5時間6時間かかってしまいます。だから、台湾船は嫌がられています。そういったトラブルが多発するから、シーズンは避けるようになっています。

当然その時期は水産庁の漁業取締船が集中して取り締まってくれるのですが、南の海域を追っ払うと北に来るし、北を追っ払うと、今度は南に来るわけです。結局、漁場として広い南を集中して取締まって、今度は北が手薄になってしまう（笑い）。

平成3年(1991)位までは、台湾船には、日本語が分かる年配の方が乗っていました。同じ延縄船ですから、どこに縄を入れるか相談ができて、きれいに並行して投縄できましたけど。その時分は台湾漁船もそんなに多くないから、被害も少なかったし、漁場でお互い相談しながらどうにか漁ができましたよ。

近年はそれがひどくなって、平成15、16年(2003、4年)頃が一番ひどい時期だったかなあ、データはどこかに取ってあると思うので、それ見たら、分かります。台湾船

に今でも相当な数います。僕らが水産庁に取締をお願いする以前はもっといました。あまりに多すぎて石垣島辺り(A海区とF海区)からは投縄できなくて、もう僕らの方が遠慮して（笑い）、宮古島の端の方(E海区)まで行って、そこから操業した時期もあります。



台湾船が切って捨てた縄。ペラに巻いたら事故になる。日本側が回収する。

なぜ急にこれほど増えたかって？ 色々な噂を聞きます。台湾船は悪さをすることが多いそうです。これは事実かどうか分かりませんが、フィリピンやパラオで入漁許可証を取ると、その許可証を何隻もの船で使い回すとか、また漁具を盗んだりだとか、して向こうの、外国の警備艇に機関銃で撃たれたりしたらしいです。そういった理由で南方漁場から締め出されたと聞きましたけど。



投縄光景 2 左：延縄は全長 50 呎に及び、数 100 メーター間隔で目印の浮球、ダルマ灯、ラジオブイ等海中に投じる。右：左舷上方にある大きな球が浮標。投じているのは延縄の位置知らせるラジオブイ。

秩序なし 一方的に縄切ったり トラブル続出

台湾船は見て直ぐわかります。ああ、あれは台湾船だなあって。それに蘇澳とか宜ランの船と、高雄の船はまるで、投縄の仕方が違う、バラバラなんですねえ。この蘇澳の船は東西だけど、裏の高雄と宜ランの船は北から南に入れていたそうです。本格的にマグロが獲れるようになったから、蘇澳の連中なんか中心になって、それではいかんということで、一斉に東西に方向決めたらしいです。方向決めても、お互いに連絡していない状態だから、台湾のマグロ船同士は、バラバラで縄を交差していますよ（笑い）。

台湾船同士でさえそうですから、台湾船はルールは守りません。あんた達は、沖縄海域、東シナ海で操業する時は、日本側のルール守りなさいって、これも重々話しましたよ。

台湾船にルール守らせることなんか、とても無理な話です。また縄が交差していても、連絡も取れません、連絡取ったとしても、今度は言葉が通じませんから（笑い）。

それに一番厄介なことは台湾船と縄が交差したら、こっちの縄を勝手に、一方的に切っていくわけです。切ったなら、結べばいいけど、それもしないでいくから大変です。

また切られたら、もうこの縄探して引き揚げするのに一晩かかることもありますから。

たまたま、両方が鉢合わせなって縄が交差したことがあって、急いで縄外さんといかん、ピーンと張った縄が切れると破片が飛んでくるから危険。「縄緩めろ、おい、危ないから、縄緩めろ！！」と幾ら叫んでも、素知らぬ顔、聞く耳なんか持たない。もう僕なんか頭にきて、しまいにはモリを持って構えてましたねえ（笑い）。

そういったトラブルで、ほんとに海では何が起きるか分からない。魚を獲るにも喧嘩みたいになって怖いです。

一番心配なのは、水産庁の取締船が台湾船を取り締まっている時です。違法操業だから、夜に電気を付けずに投縄しているわけです。レーダーには映るけど、肉眼では全く見えない。いつぶつかってもおかしくない、大変危険です。また、私の船がホンマグロを釣って船に上げようとしている、もしそれを台湾船に見られたとしますねえ。そうしたらもう終わりです。すぐ無線連絡で僚船を集めて、こっちでダーッと投縄して滅茶苦茶にしてしまいます(笑い)。もうこんなですから、台湾船とのトラブルは数え上げたら限りがないです。どれ1つとっても早く手を打たないと取り返しが付かなくなりますよ。

隻数 規模が違う 12隻対300~400隻 10ト対19ト

よく、お互い話し合っ、仲よくやれば、お互いの生活の場ではないかと、したり顔で言う人がいますが、分かっていたきたいのは、一緒に仲良く操業と言う形は、先ず無理なんです。早く手を打たないと、僕らが操業できなくなるんです。まず船の数が全然、ケタが違います。八重山漁協のマグロ船、石垣島のマグロ船は16隻です。向こうはこっちの20倍も、300隻、400隻はいますねえ。船の大きさも違います。こちらは全て10ト未満、向こうはこっちの2倍の19ト級、高雄の船は100ト位はあるんじゃないか。

高雄は会社組織です。会社が船を所有していて、船長や船員を雇う。蘇澳の船は個人の船です。蘇澳は青く塗られている。高雄は白が大きく塗られていて、同じ台湾の船でも見た目もぜんぜん違う。高雄の船はお雇い船長だから、競争心がある。マグロも相当漁獲しないと、首になるから(笑い)、その分必死ですねえ。マグロの時期になると、この台湾船が300隻400隻も、こっちに、ダーッと押しかけて来るわけです。

台湾 暫定線 勝手に引いて 北の海占領？

この数10年前から、台湾船が多くなって、もうホンマグロの時期だとひどいです。

4月から6月頃は、八重山と尖閣の合い中、北側の海(②海区)は、もう台湾船でいっぱいです。あつちは台湾船に占領されているようなものです。台湾の暫定(執法)線を知ってますねえ。台湾が勝手に引いた線です。あれはおかしいです。なんでこんなわけの分からない引き方をされなきゃならないのか。勝手に線引いて、こっちまでは台湾の海だと言ってます(笑い)。

何年前かなえ、水産庁の漁業取締船が暫定線辺りを取り締まっていたら、逆に台湾の漁船に、水産庁の取締船



台湾の暫定執法線 (蘇澳漁業会)。
〔台湾関連ウェブサイト〕より

が囲まれて大変だったそうです。水産庁の取締船も強くは取り締まれないです。またウチらの仲間の船がこの近くで投縄していたら、台湾のコーストガード(公船)が近付いて来て、ここは台湾の何々だから出ていきなさいと、そう言われたそうです(笑い)。全く情けない話ですねえ。これも日本側がずっと弱腰姿勢とってきたからだと思います。

結局、台湾は、八重山と尖閣の間の海、北側の海(②海区)の台湾寄りに、こっちは自分達の海だからと、勝手に線引いて、日本側が強く出ないもんだから、あっちは占領された同然です。もう台湾船がいっぱい押しかけていますから。

あそこは、ほんとにクロマグロのいい漁場です。昔はそこで操業していましたが、今は自分達はもう行かないです。行ったら、台湾船とトラブルが起こるから避けています。

ほんとは行きたいんだけど、行けないわけですよ。クロマグロが終わった頃は、台湾船も比較的少なくなります、その時には行きますけど(笑い)。

南の海 日本船ひしめき 投縄2マイル間隔も

クロマグロの時期の操業場所ですか？

(漁場図を指して) ウチら八重山漁協はマグロ船は16隻いますが、大体がこの島の近くで投縄したり、南のこっち(先島北西漁場：②海区)とこっち(宮古・八重山南漁場：③海区)ですよ。そこに行ってしかやっています。いや、こっち(沖縄本島南漁場：④海区)には殆んど行きません、上の方は遠いし、それに船が相当集まりますから。

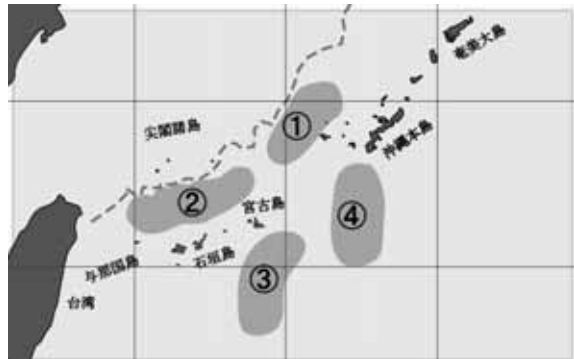
ホンマグロの時期になると、こっち(④海区)は大変ですよ。沖縄船とか、本土船とかが集まって来て、100隻位ですか？ いや200隻、300隻は並んでいるはずですよ。宮古ソネの下から、ずっと喜屋武(沖縄本島最南端岬)まで、ずらっと並んで、もうすごいですから。

で、自分達は、こっち(②と③海区)に、行きますが、こっちにも船是相当います。

100隻位？ とんでもない、まだいます。もういろんな所から皆来ますから、宮崎船とか、鹿児島船とか、三重辺りからも来ます。もう時期になると、結構集中的に全部、もうこっち(南西諸島全海域)に、皆集まりますから、もう怖い位に集まります。

普通投縄は4マイル間隔でやりますが、その時は3マイル間隔で、もう船が相当ひしめきあっていたら、2マイルになる時もあります(笑い)。漁場が狭いから、柔軟に対応するわけです。

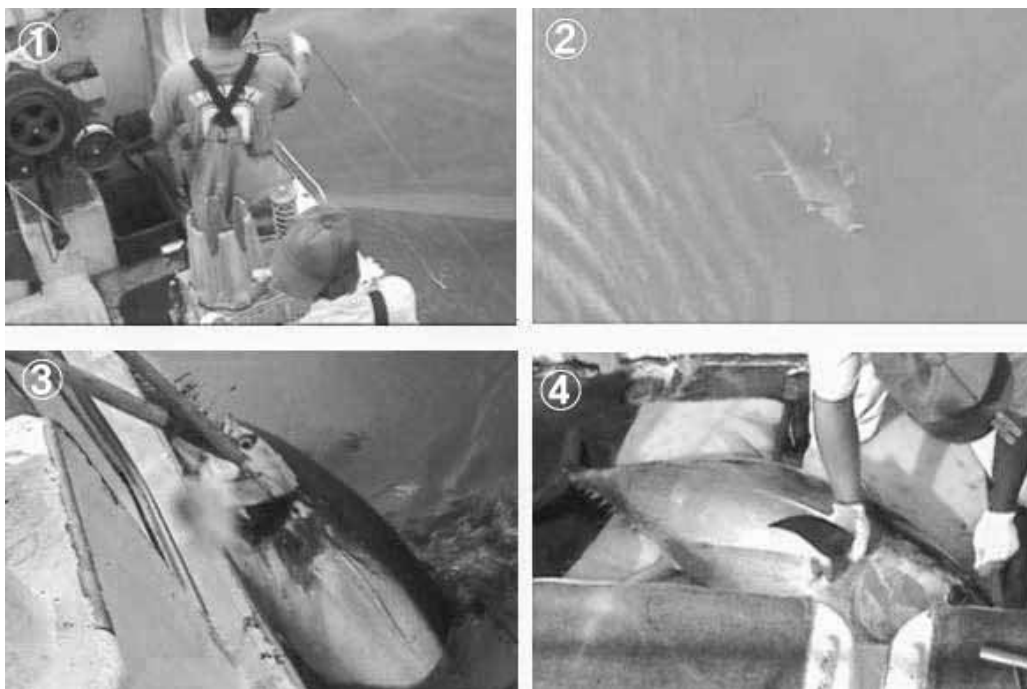
無線で皆と連絡とって、もう食う場所決まっているんです。だから皆が釣れるように、2マイルに間隔に縮めます。勿論、潮の流れも見ながら、纏れないようにですけど。



主なマグロ漁場図 ①：久米島西漁場、②：先島北西漁場、③：宮古・八重山南漁場、④：沖縄本島南漁場

でも、やっぱり 2 マルがギリギリ限界ですねえ。日本船の場合、マグロ船が数 100 隻と集まっても、ちゃんとルールを守って操業しますから、問題は起こりません。

各船は縄入れ始めポイントを決めたら、到着順に、等間隔 3 マルと決まったら 3 マルで、2 マルなら 2 マル等間隔で、ズラーと並んでいます。そして 6 時の投縄開始時間になったら、決めたコースに、一斉に縄を入れていきます。ですから船同士では、日本船同士で、縄が交差するとかのトラブルは殆ど起こりません。台湾船が入ってきたら問題ですけど。



揚縄光景 ①：愈々縄揚げ開始。縄の引っ張り具合を手で確認しながらラインホーラーで縄巻揚げる。
②：大物掛かっているか重い、引き寄せて見るとマグロが姿を現した。釣糸を切逃げようと必死に泳ぎ回る。
③：船に引き寄せて、モリで脳天を突く。動きが鈍くなったら、エラもとを鉤竿に掛け、甲板に引き揚げる。
④：釣れたのは 4、50 k g ほどのキハダ。暴れ防止マットに乗せても動き跳ねる。針金で突刺し留めをさす。

台湾船との問題 線引きするしか

台湾船との問題は深刻ですよ。縄が交差するとか、暫定執法線とか、いろいろ問題があります。解決方法ですか？ 両方で話し合っって線引きするしか方法がない気がします。

例えば、ホンマグロはフィリピンの南の方から、台湾近海を通過して北上してきて、南西諸島、東シナ海をぐるっと回って、また南に帰って行く。回遊するわけだから、いわば台湾付近から南西諸島のどこでも釣れるわけです。

実際、日本側は、今は台湾の方に南下してマグロを釣ることはないです。台湾の方が南から段々上がって来ています。マグロを追っかけて、追っかけて、北上して来てます。

蘇澳の船も、高雄の船も、台湾船は皆、マグロ獲りながら北上してきて、5、6 月の頃には

ここにやって来るわけです。それが今の問題を引き起こしている原因です。この問題を解決するには、日本側と台湾側でラインを引いてルール作るしか方法がないと思います。

台湾側はここからここまでは入らないで下さい、日本側もこのラインから外へは出て行かないからと。我々の漁業を守るには、きちんとした線引きをするしかないです。台湾と日本の各々の海から中間線、国際的にも認められている 50 対 50 の中間線を引いて、お互いにルールを決めて、守って操業する、そうするしかないと思う。両国でラインを決めて引いて、そのライン外側の台湾側でも、内側の日本側でも、マグロは釣れるわけですから。

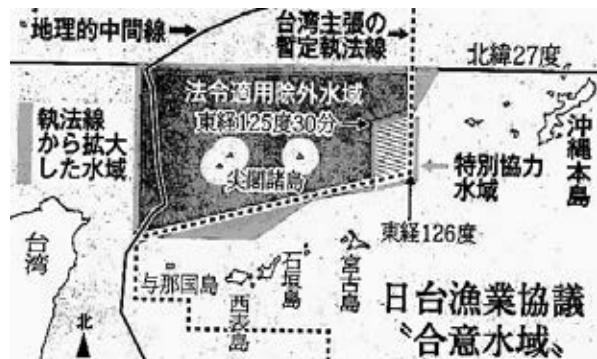
今交渉している日台漁業協定？ あれがそうですねえ、今日本と台湾があれをどうするかと話し合っています。あの話し合いの中で、線引きの問題が取り上げられています。

線引きを取り決めるという考えには大賛成ですが。残念なことは、日本政府は、水産庁は、台湾が勝手に引いた暫定執法線を認める形で譲歩していることです。我々漁民の考えも聞かないで。

日台協定で 暫定線超えて 操業認める 八重山

あれは完全に間違いです。日本政府は、我々漁民の意見も聞かないで、勝手に台湾側に譲歩して、水産庁は自分達の承諾なしに取り決めたわけです。これが日台漁業協議“合意水域”図です。

この久米島西方の「特別協力水域」と八重山北方の「三角水域」がありますねえ。三角水域は尖閣列島のすぐ下側です。どちらもクロマグロが獲れる最高の漁場です。この台湾が勝手に引いた暫定執法線、これを日本政府は認めたわけです。もうこの暫定執法線を日本側が認めたから、日台で決めたから、生きているわけです。台湾船はあっちでもう堂々と

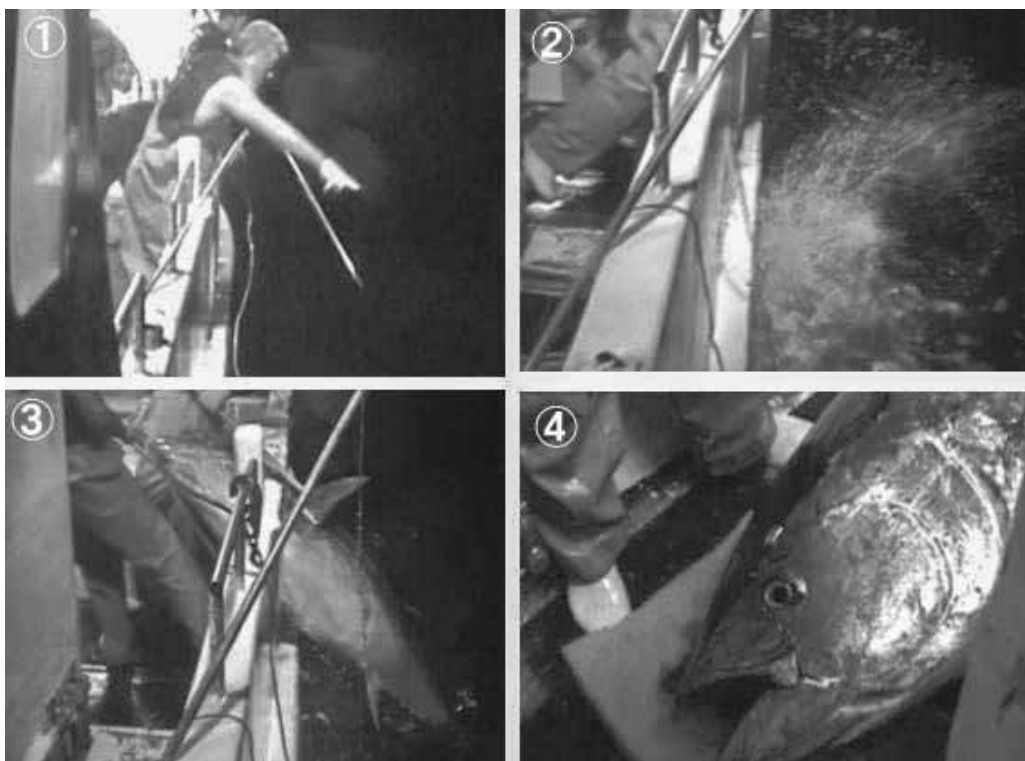


日台漁業協議“合意水域”図：暫定執法線から拡大水域は尖閣諸島下方「三角水域」と久米島西方「特別協力水域」。

操業できるわけです。その上、日本政府は、この下に三角水域まで作って、台湾船が操業していいことになっているんです。日台漁業協定で、この三角水域と特別協力水域は、一番魚の獲れる所を台湾側に譲歩しているわけです。もう政府のやることはムチャクチャ、我々沖縄漁民にとって致命的な痛手、将来に悔いを残すことになるはずですよ。台湾船は 300 から 400 隻位いますから、台湾全体からこっちに集中して来ますよ。絶対台湾船は太刀打ちできない。ウチらにとって大変な打撃、死活問題ですよ。

僕は最初の頃は、県漁連の日台の会議に出てましたけど、国は自分達漁民の意見も、何も聞かないで、大本は勝手に決めて、あとはこの運用をどうするかとか、枝葉の問題でしょう。もう馬鹿らしくなって出席するのを止めました。だから今話し合いがどうなっている

か分からんです (笑い)。



クロマグロ揚縄光景 ①：縄揚げは時には深夜に及ぶ。夜の海中を釣糸切ろうと逃げ回る。②：モリは見事に命中。脳天に突き刺さり、血しぶきが上がる。③：ウィンチで吊り上げ、数名がかりで甲板に引き揚げる。ずっしりと重い。④：実に見事なクロマグロ。300kgは優に超えるか。疲れも一気に吹き飛ばす。

台湾・中国 マグロ高い人気 益々需要高まる

台湾は、マグロ漁では世界で3本指に入りますよ。これは台湾と日本、韓国です。台湾のマグロ延縄は、あれで、もう各地へ、遠出して、いろんな所に行ってますから。

で、以前台湾で調査をされた方から聞きましたが、台湾の港にマグロは1隻当たり2、3本位しか揚がらないそうですが、船の数が桁違いですよ。八重山近くに来る船でも300隻、400隻はいます。それに高雄の船なんか会社組織で、大きい船だと100ト位もあるわけです。ですから、物が一気に出揃うわけです。以前はホンマグロ時期なると、築地に1日700、800本は台湾から送られてきていた。また7、8年前までは台湾船が釣ったホンマグロは福岡の市場にも入ってきたようです。それが今はもう殆んど来なくなっています。

今、中国もマグロよく食べるというから、中国に送っているか知らんけど、台湾では刺身食べますよ。相当地元でも消費しているはず。台湾からの観光客こっち(石垣島)に来るでしょう。こっちの刺身屋に刺身買いに来ます (笑い)。もう随分魚ブーム、健康食ブーム、魚がメインですねえ。これは経済の発達だと思います。経済が豊かになって、みんな美味

しい物を食べるようになった。日本人が食べるマグロも、台湾でも、中国でも、食べるようになって、もうマグロは人気が高いです。ますます需要が高まっているわけです。

中国人も最近ではマグロをどんどん食べ出していますねえ。怖いですねえ。外国から輸入するよりは、自国で獲りに行くでしょうから。そうなると、中国のマグロ船がこっちに進出して来る可能性は大きいです。中国漁船の今後の動向は怖いんです。



台湾はマグロ王国。写真は高雄港に係留のマグロ船。係留だけで90隻はあったという。（「清福丸ブログ」より）。

やがて中国船マグロ船 押しかける 台湾船船子 中国人

今は中国船は来ていません、マグロ船の主流は台湾船です。近年台湾船の乗組員はインドネシア人もいるけど、ほぼ中国人の船員です。ということは、こっちでマグロが釣れることを中国は知っているわけです。怖いのは、台湾船に船員として乗っている中国人の船員達が、漁業技術を覚えて、中国で独立したら、来るはずなんです。彼らがいつまでも台湾船の船員であればいいけど、いずれ独立して自分の船持って来るのは確実です。

大陸棚では、底引き船が相当操業しています。これらもいずれマグロ延縄に転換して、南下して来るかも知れません。それに中国は南方のパラオ、グアムとかで、マグロ延縄をやっています。しかも中国の延縄船は大型船で60トとか、100ト級もあると聞いてます。

海外で操業が厳しくなって、締め出し食えば、今度はこっちに押しかけて来ると思います。もうマグロが獲れると知っていますし、いい漁場ですから、そうなるともう大変です。

中国のマグロ延縄船は相当戦闘の能力が高いです。60ト、100トもあるわけですから。私達の船は10ト未満の16隻、台湾は19ト級の200隻から300隻だが、中国が大船団したてて、”参戦”して来れば、とても太刀打ちはできませんよ。



中国の遠洋マグロ船が初めて南シナ海へ操業、長さ52メーター、706ト、乗組員31人の大型マグロ船。（「中国新聞網」2012）

中国船 27度以南でも 取り締まりできない

中国船は、こっち、沖縄近海でも操業できます。日本側の領海 12カ刈に入らなければ、排他的経済水域でも、マグロ船だろうが、何だろうが、13カ刈から仕事できます。日中漁業協定で認めているわけですから、27度線以南はグレーゾーンで、そうなっています。

だから中国のマグロ船が乗り込んできたら、もうウチらはもう全滅、5年はもたないです。ほんとは早く日台の前に、中国との漁業協定、日中漁業協定の 27度以南の小淵書簡ねえ、あれは何とかしないとイケません。

もうサンゴ船でもそういう状況にあるでしょう。中国の海洋調査船も日本の排他的経済水域で海洋観測やっているのに、ワイヤー垂らして、あれは水深調べて、もしかしたら潜水艦のあれ、地図作っているんじゃないですか？ サンゴ船なんかは、もう宝山ゾネのこの辺りとか、大九ソネとかに、いっぱい群がってすごいです。4,50隻はいますよ。

水産庁の取締船は、それを傍で見張っているわけです。領海に入ったら違反だけど、領海外であれば、中国船がサンゴ盗っても取り締まらない。だから、中国サンゴ船は沖縄側の経済水域で、12カ刈線ギリギリで仕事しています。1,2隻は領海内に入って、水産庁の取締船に逮捕されましたけど、領海外ならサンゴ盗っても取り締まれないわけです。そのあと、この中国船の一部は小笠原に移動したんじゃないか、とにかく小笠原海域に、中国サンゴ船が 200隻も集まったということで、新聞もテレビは連日大騒ぎですよ。

国会も大騒動して、法律改正して、罰金を高くして、小笠原の場合は、経済水域で操業したも、すぐ逮捕してます。だけど、沖縄の宝山ゾネなんかで、中国船が目茶苦茶にサンゴ採っていて問題にしない。マスコミも注目しないし、ニュースにもならない（笑）。

だけど、沖縄の私達には大変な問題です。あれ達がサンゴ網引っ張って、魚の棲みかは壊すし、4,50隻も集まって塊っているから怖いんです。あっちには近寄れなくて、漁行けないです。水産庁にどうにかしてくれと文句言っても、どうすることもできないさあ。今の日中漁業協定が障害になっている、27度以南は、南西諸島はグレーゾーンになっているから、中国漁船が 27度以南で操業しても、日本側は取り締まれない。だから、中国船のサンゴ船もこっちに押しかけて来たわけです。

日中漁業協定 白紙に戻せ 死活問題

日中漁業協定は、中国側に有利で、日本側に不利なんです。27度線以南については、沖縄の漁業を全滅に追いやるものです。何であんな協定結んだのか、常識が疑われる。僕なんかも全く知らなかった。27度線以南の小淵書簡条項、外務省が、俺なんかも、沖縄の漁師は全く分からなかった。この日台のあれが

やってからが明るみに出たから。尖閣衝突事件のあれで、あれも全然知らなかった、聞いて



日中漁業協定水域図

たら小淵書簡にあるからと、もうとんでもないと、逆に台湾側に手放して、中国に売って、台湾も、中国の国旗付ければ、中国船と見なされるから、そしたら違反じゃないから、立ち入り検査できないですよ。12カ月の外側なら、自由に操業できるさあ。とにかく中国がマグロ船に切り替えて南下してきたら大変ですよ、あと5年はもたんじゃないか、だから早く日台の前に、中国とは何とかしないとイケない。あの日中漁業協定を早く白紙に戻さないといかん。これこそほんと沖縄にとって死活問題よ。また台湾は、あとで必ずこれを盾にするからよ、絶対。何で中国は12カ月外で仕事できるのに、自分なんかはできないかと。もう白紙に戻せと何回も言っているのに、何言っても、国は僕らの言うことを聞かない。だから全く無駄という感じ、もう分かりませんよ。これ考えると僕なんか頭がおかしくなってくる(笑い)。

マグロ禁漁期 無意味？ 他国から資源を守ることも考えねば

最後になるけど、国では今クロマグロの禁漁期を決めようとしている、産卵期などですね。でも日本がこうしてマグロ資源を守っても、外国船がやってきて、全部獲っていかれるのでは、守る意味をなしません。今現状そうなっている一本釣漁場があります。沖の曾根(沖の中のソネ、台湾ソネという別称あり、与那国島南東のソネ)というところを禁漁区に指定して、マチ類を保護繁殖させようと頑張ったのに、台湾船が来て魚を釣っていく(笑い)。もう沖縄の漁師が我慢して、懸命になって魚を育てている、それなのに外国の漁師がそれを釣っていくわけよ。それでは意味がない。漁業資源を育て増やそうとするなら、他国から資源を守ることも一緒に考えないとイケないはずだが。

尻切れになったみたいだが、僕の言いたいことはこれだけです。参考になったかどうか分からんが、これで終わります。(了)



今回の宏徳丸の航海の大きな収穫の1つのクロマグロ。全員でピース。(2007)



志村 武尚 しむら たけなお (浦添・宜野湾漁協)

1944年(昭和19年) 台湾花蓮に生まれる。70歳(2015年時)。

疎開先台湾から3歳に、八重山に引き揚げる。17,8歳頃から潜り漁を始める。21歳には現在本拠地の浦添に移住、電灯潜りに専業、

29歳(1973年)には、第一尚丸(7ト)を建造し、多数のダイバーを引き連れて、尖閣諸島での電灯潜りに挑戦。氏の魁と尽力により1970~80年代には、沖縄本島における尖閣諸島の電灯潜り漁は盛況を極める。

漁法技術の発展向上と若手漁業者の育成に努め、2005年には浦添・宜野湾組合長を歴任。現在はソデイカ漁と近海パヤオでのマグロ漁等に従事、今なお第一線で活躍している。



父の代から 八重山で海人

— 八重山で潜りしていたと聞きましたが、お父様は潜りで有名なですねえ。

志村: 沖縄本島の本部(現本部町)の出身で海人ではない、親父(志村甚吉)が、糸満売りされて、戦前は八重山において、それで海人になった。戦争が始まったから八重山から台湾に疎開して、その間に台湾の花蓮港で僕が生まれて、戦争が終わったもんだから、本部に引き揚げてきて、また八重山に戻り、元の海の仕事していたんです。親父は潜りが得意だったようです。それ以上に力持ちで有名でしたねえ。僕が聞いた話では、沖縄本島含めて、親父の右に出る位のいなかったとか、また身体が6尺余りと大きいんですよ。

昔は八重山は運搬船は沖泊りで舢(はしけ)で品物運びよったんですが、陸に揚げる時、舢から海に落として転がして、燃料のドラム缶、あれは陸上からは担ぎきれんけども、海に浮いてますから、海から担いでこのまま陸に上がって来たそうです。親父だけじゃなくて、何人か人もそうしたとか、当時の海人は、大先輩達は、全く恐ろしい人間ですねえ(笑い)。

あの船に行くな!

泳ぎながら掴まえて サバニに

— 終戦直後に八重山の貝殻船が南方行きの途中で沈没して、乗組員45名中、11名が助かった悲惨な事故がありました、その時お父様は漁労長で行かれたわけですねえ

志村: 僕が小学3年の時(1953年)の11月に起きた第二秀福丸(63ト)遭難事件です。

親父は漁労長で行って、新南群島といいますから、今の南沙諸島に貝殻採りに行く途中、台湾東沖で、機関が故障し、船底から浸水して船が沈没したんですよ。向こうはものすごく波が荒い所で、皆海に投げ出されて、夜の海をさまよっていたら、助かった人の話ですが、その



45名中生存者11名、海難史上に残る悲惨な事故。(八重山毎日.1953.11.21)

時に汽船が見えて、その汽船に向かって、皆泳いで行きよったら、ウチの親父は「あの船に行くな!」、「あれは普通の船じゃない、行くな!」と言うて、海に泳いでいるのを掴まえてから、泳ぎながらですよ、サバニに何人かは乗せたそうです(笑い)。

貝殻船ですから、サバニ 5 隻は積んでいたが、3 隻は行方不明になって、残りの 2 隻に皆しがみついて親父入れて 11 名が助かったそうです。「あの船は普通の船じゃない」という意味ですか、あれは助かりたい一心で見た幻覚、幽霊船ですかねえ。泳いで向かって行った人は皆亡くなっています。だけどほんとの汽船だったどうかは知りません。僕があの時助かった関係者から聞いた話ですから。親父からですか、全く聞いていません。85 歳まで元気でしたが、この話はしませんでしたねえ。

17,8 歳から 魚突き専門で 電灯潜り

— 第二秀福丸遭難事件にこんな不思議なできごとがあったと初めて知りました。

武尚さんの場合は南方に貝殻採りに行かなくて、もっぱら魚突き専門ですか。

志村: 僕は 14,5 から海歩いているけど、南方行きはやってなかったですねえ、ただ、僕と同じ歳で、南方に高瀬貝採りに行っている人は、今八重山に何人かおるけど。

もう僕の頃からはもう電灯潜りとダイナマイトですよ(笑い)。電灯潜りは 17,8 歳からずっとやっています。素潜りで、ミーカガン(水中眼鏡)を付けて、何尋ということはない。電灯の届く範囲だから、浅瀬ですよ。どんな深くても 7,8 メーター、普通はもう 2,3 メーター位じゃないか。電灯はこっち(左手)に持って、やっぱり利き手するもんだから。突くもんだから、電灯はやっぱし左手です。昼間は潜ったけども、魚も警戒心強く、敏捷でなかなか獲れない。やっぱし電灯潜りがいいですよ。

夜は魚が寝てますよ、寝ているか、動いていても鈍いですよ。イラブチャー(ニシキブダイ)などのブダイ類はよく寝てますよ。夜になると自分が出した粘液に包まって、他の魚も大体眠ってますから。メバル類はどっちかという、敏感ですねえ、ちょっとした音とか、明かりには。だけど夜は殆んど眠ってますから、突きやすい。動きも鈍くて突きやすいですから。

電灯潜り・尖閣専用船

第一代尚丸を建造

— そのあと 21 歳に那覇に来て、当時は那覇地区は深海一本釣りが盛んな頃ですよ。八重山から来た先輩方は一本釣り、でもやっぱり電灯潜りをなさったんですか。

志村: はい、21 歳に沖縄に来て、最初は那覇市沿岸漁協の安謝に来て、殆んど電灯潜りですねえ。一時はあの熱帯魚も昼採ってお



尖閣専用で新造した電灯潜り船・第一尚丸(7ト)

ったけど、あの青酸カリで魚を麻痺させて、

それ以外は殆んど潜りです。あの電灯潜りやってみましたよ。当時(1965年)のダイバー器具ですか、その時分はフーカー式ですねえ。して、結婚は23で、翌24に長男が生まれて、最初は近くで、電灯潜りして、結局クリ舟でも限界があるから、やっぱし、遠く遠くといって、それで、尖閣狙いで船を大きくしたわけですよ。

一本釣船は、その時分はもう10隻なら10隻全部、あっちに行っていたので、僕も、尖閣に行く目的で尚丸(7ト)を造ったわけですよ。尚丸造ったのは29歳かなあ。復帰直後の1973年頃です。その翌年には八重山の先輩の高江洲昇兄さんも安洲丸(1974年建造)を造って、尖閣に一本釣りに行ってましたねえ、両方とも船大工の宮良貞光さんが造りました。

で、尚丸は、初航海はちょっとしたトラブルで、燃料のフィルターが詰まって、尖閣行けず久米島からすぐ引き返してきたけど(笑い)、2航海目からは尖閣ですよ。

それから、ずっと尖閣オンリーですねえ。で、天気がちょっと悪いなあと思ったら、近くで、また合間合間には、大東島、ラサ島(沖の大東)に行ったけど、あちは気分転換位ですねえ。尚丸が尖閣での電灯潜り第一号ですかって? その前、那覇市沿岸でも浦添漁協でも、尖閣行った船は電灯潜りで行ってあったかなあ、分からない。八重山、宮古から行ってあったかもしれんけど、僕なんか分からないねえ。

フーカーから ボンベ式へ 30メートル水深潜る

— そのあとずっと尖閣オンリーですか。電灯潜りは、真っ暗な海の中に潜って、泳ぎ廻りながら電灯かざして、寝ている魚を見つけ、突いて獲るんですねえ。

志村: 電灯潜りは、尖閣行く時分には、フーカー式からボンベ式に替えたから、もう30メートル位の深さまで潜れますから。5、6名のシンカ(仲間)を乗せて行って、もうあっちで本格的な電灯潜りですねえ。

「電灯潜り」の装備を説明しましょう。水中眼鏡、シュノーケル、フィン、圧縮空気ボンベの4点セットから、ウェットスーツ&ウェイト、それにモリに軍手、突いた魚を入れるタモ網です。

ボンベ1本で、浅瀬で深さが10メートル以内だと、1時間半以上は仕事できます。30メートル位だと40分前後がギリギリですかねえ。これは上がる時の調整時間が入っているから、仕事できる時間は20分位です。ボンベには圧縮空気が入ってます。これを詰める値段は1

本当たり300円位だったかなあ、今はもっと安くなっているはずですよ。ともかくフーカーか



電灯潜りはボンベを背負って、30メートル深さまで潜れるが作業時間20分、減圧時間20分掛かる。(上原徳広.2014)

らボンベ式に替えたから、浅場の魚だけじゃなく、30メートルの深さにいる魚も、どんどん獲れるようになりましたですねえ。もう行く度に魚を満船してきましたよ。

ダイバー5、6名 水揚げ3、4ト 毎航海大漁

— 尖閣へは何人位で行きましたか、また水揚げは何ト位でしたか。

志村：尚丸が、電灯潜りで尖閣行く度に、もう魚を満船して帰ってきましたから。あまり大漁するもんだから、尚丸の出入港に合わせて、この辺のセリ市場はやってみましたねえ。セリ値を崩さげないためですよ。ダイバーですか、5名前後で行きました。少なくて4名から多くて6名位ですねえ。操業日数は1航海5日、長くて6日です。1晩で5回操業、5回仕事しますから、1回の仕事で、ボンベは4、5本位、その5回は潜りますから。

一晩でボンベは20～25本位使います。水揚げは3トから4ト位かなあ、結構揚がりましたよ。浅瀬の場合もブダイ、深い所もブダイ、ただ深さが違うだけで、種類は殆んど同じですねえ。水揚げは一本釣りよりはよかったはずですよ。一本釣りは2トでもう大漁ですから。電灯潜りは、設備はそんなに掛からないですよ。特に消耗品は殆んどないですよええ、一本釣りは巻揚げ機、釣機とか、設備はともかく、



電灯潜りは夜寝ている魚突く、ミーバイ(ハタ類)、イラブチャー(ブダイ類)が主である。(上原徳広,2014)

ナイロンとか、釣りの道具、一本一本だったら知れているけど、エサにしても何10、何100も使うし、毎航海だからねえ。潜りの場合はバッテリーにしろ、電灯にしろ、スーツにしろ、ボンベにしろ、何年も使えるから、単純に言えば、もう食料と氷と燃料です。経費はもうそんなもん、漁具に対しての消耗品というのは殆んどないですから。

方々から 船仕立てて 続々尖閣へ

— 尚丸が魚を満船してくるのを見て、皆さんも船を仕立てて、尖閣へ電灯潜りで行き始めるわけですねえ。志村さんは、尖閣での電灯潜りの魁ですねえ。

志村：那覇地区でも尚丸が入ってくるといって僕なんかには合わさないようにセリに魚出していた。それ位でしたよ。で、尚丸が大漁するもんだから、僕を真似て、皆尖閣へ、電灯潜りで、行き始めるんですねえ。

あっちこっちから、船仕立てて、尖閣に、皆来てましたよ。那覇地区からは山内得正の得将丸なんか、それと仲村行雄の八潮丸とか、こっちからは順丸、野里兄弟の美紀丸、秀吉丸。沿岸漁協も名前の通り全てが潜りですよ。100%潜りです。それで沿岸と付けているんです。でも、尖閣専門でやっていた3隻位で、他の船は行っておったかも知れんけど、

分からない。結局、最盛期には糸満から浦添まで電灯潜りしていた海人は結構いました。何十名といたんじゃないか。もう30年前のことですから、亡くなった人も多い。もう誰がどこにいるか分かりませんねえ。

島の周囲潜る 潮の満干見て 潮の弱い所で

— 尖閣諸島は5島ありますが、主にどの辺で潜りますか、また尖閣諸島一帯は、潮の流れが速いので、潜るのは相当危険だと聞いていますが。

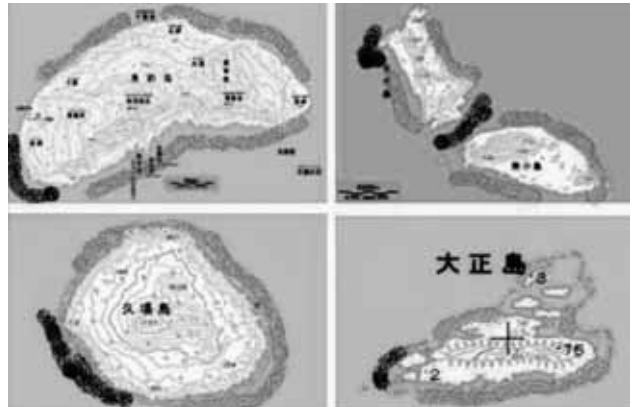
志村：尖閣行ったら、アコウ(大正島)も全部回りますよ。1航海5、6日位は掛かりますのでねえ、アコウは結構獲れるもんだから、でも島が小さいから1日で済む。それから魚釣島とか、トイジーグワー(南北小島)とか、コウビトウ(久場島)とか行って、仕事して、またアコウは帰りながらもやったり、もう潜るのは、全部島の周りですねえ。

それと尖閣は潮の流れは半端じゃないですねえ。鍋洗って鍋の蓋落したら、あっという間に見えなくなる位、ものすごく速さですから。でも年から年中そんなに潮が速いということはないです。大潮小潮もあるし、これに風向きもあるから。それに、速くて危険な場所は分かっていますから。尖閣では潮のない所、潮の弱い時を見て、島の廻りを潜ります。島から大体2,30メートル離れた場所で、仕事します。できるだけ潮が速い所を避けてですねえ。

(海図を示しながら)これはアカオで、アカオの西側、こっちは潮は強いです。魚釣島では、もうこ

の辺、やっぱり島の西側先端部分が速いです。それ以外は余り速くないですよ。南北小島ねえ、こっちは島の周りはそんなにでもないです。この島と島の間が潮が速いですねえ。あんまり動かない所は、魚釣島のこっち(上図に濃い線で表示、他の島も同じ)、シケていてもこっちでできるわけですよ。南小島、北小島ではこっちでも。コウビトウも、アコウも、こっちはシケでもできるんです。

また久場島の南西側、こっちは潮はすごく速いですよ。ダイバーのエア、泡が、普通はあの泡は上に行きますが、こっちで潜ると、あんまり潮が速いから、泡は下に行くんですよ(笑い)。人間も下に押されるから、やっぱり夜の海で潜るから危険です。あっちこっち潜ってみたが、泡が下に押される所は、沖縄では尖閣だけです。もう東に潮がもたれて、下に押されて、人間は上には行かないですから、いっぱいジャケット持っているけど、エア入れても上がれない、そのまま潮に流されます。



尖閣諸島の潮流 濃い線は潮の流れ速く危険な場所。
潮流がとくに弱い場所は薄線で示す

こんな危険な場所や時間帯は避けるわけですよ。電灯潜りは潮見が肝心だから、今日は旧の何日だから、潮はどこにもっている、もっていない。大丈夫、やばいとか、判断して潜りますねえ、一本釣の場合もそんなもんですよ。

海中 サンゴが発達 魚の宝庫

— 尖閣の海は魚が宝庫といますが、なぜですか、尖閣の海の特徴を教えてください

志村: やっぱしサンゴが多いからですかねえ、テーブルサンゴとか、枝サンゴとか、サンゴが多いですよ。テーブルサンゴは全体的にあります。だから魚も、特にサンゴを食べるといふブダイがいっぱいおります。

(海図を指して) 南北小島の、この東側は枝サンゴが多いですねえ、他はテーブルサンゴ、魚釣島の北側も、マガイグワー(湾曲部)も、テーブルサンゴが密集している。サンゴの下には、魚が、ブダイ類が多いですよ。同じブダイでも、枝サンゴの場合は魚は、テーブルサンゴより小さいです、平均にすると。

アカオの場合は、こっちにテーブルサンゴがあって、結構ブダイがいますよ。枝サンゴは北側に塊まっています。久場島は枝サンゴは疎らで、全体的にテーブルサンゴですねえ、グルクン(タカサゴ)とか、シジャー(ダツ)ですか、グルクンはいないが、シジャーはいっぱいいますねえ。こっち(魚釣島の南側)はシジャーとか、トカキン(イソマグロ)、50kg位の大物もいますから。いやトカキンは獲らないです。美味しくないし、売っても売れない。僕らが獲るのは値段のいいものを、やっぱしミーバイ(ハタ)類とか、アカジン(スジアラ)とかの高級魚を狙って行きますから。



魚釣島の東南部の海底地形 テーブルサンゴと枝サンゴ多い。この下はブダイ類の棲みか。(吉野哲夫 1979)

宮古の漁師が釣っているヤイトですか、あれはアカオの西側と尖閣(魚釣)の西側です。

カツオなんか、何カツオか分かんが、もう曳き縄で釣っているのは、宮古の人達はこっちですよ。僕らもたまに刺身、あえて同じのを食べるよりかは、遊び半分で曳き縄で、1,2本釣る位ですよ(笑い)。

真っ暗な海中 電灯かざして 魚探して突く

— 船にダイバーを4,5人位乗せて行きますと、まずポイントに行くわけですねえ。

このポイントというのは何か目安があるんですか、

志村: 結局、潮と風とを勘案してから、例えば具体的に言うと、(魚釣島の海図を指して)、北の風だったら、この辺で、こっち(南側)が静かだから、1日で、ここからここまで(南側全

域)行けるような時間があれば、当然潮がどこに流れているかで、こんなして全部やるんですよねえ。でも、ボンベというのは時間的な制約もありますよ、どの辺が一番この確率が高いという所があるわけです。この時にはこちらから、いつものことだからこの辺からとと、これ考えて、今日の場合はこっちに寄せてから潜ったりと。これはもう全て、潮がどこに流れているかということも勘案して、こっちからあっちに泳ぐか、あっちからこっちに泳ぐか、時間は一応暗くなって明るくなるまでですので、色んなやり方があります。

時間がなければ、一気に全部下りて、一人だけ船持ち置いて、全部パーッと下りる場合と、今みたいに夕方から朝までの時間帯やって、時間があれば、交代交代潜ります。

交代交代で、だから、人が潜っている間は休めますよ。船には必ず最低1人は乗っています、船持ちが。で、船はアンカー入れないで、スローで流しながら、皆がどこに潜っているかを見ながら、追いかけて行って、1人1人拾っていきます。

— 潮流が速いと、海の中で、ダイバーは潮に流されながら魚を獲っているわけですねえ、それに真っ暗な海を1人1人追いかけて、拾っていくのは大変だと思いますが。

志村：これもあります。この時には適当に電灯振って、見えますよ。真っ暗だからよけい見えやすいんです。海中で魚を獲っている時でも見えます。して、上がって来た時は合図があるんですよ。海面から電灯を振りますから。

潮に流されて事故に遭ったのは、ここで、北小島で、今伊平屋に行っている山内というのがここで潮に流されて、道具全部捨ててきて上がったことがあります。もう上がれないもんだから、全部道具捨ててから、一回だけですねえ。ここ(魚釣島)では、仲座というのが流されたけれど、別にどうということなかったです。大シケで、タツ(帆柱)に身体縛ってから拾いに行きましたよ。船の柱に縛ってから、結構ものすごく荒れているもんだから、こっちのシケは半端じゃないですよ。今浦添にある順丸、仲座が流されて、ここ(魚釣島)に拾いに行くの(笑い)、そんなもんです。

サメ ダイバー追い廻す 獲物狙う 人間襲わん

— 海中で魚を突くと、獲物を貫いていく縄ですか、あの縄に魚を何匹も貫いて、後ろから曳きながら(?)、仕事している写真をよく見ますが。

志村：ジンチナー(銭縄)のことですねえ(笑い)。前はあれでやっていたんだけど、身体から獲物が離れるほど、サメに食われるもんだから。サメは人間のあとから付いてきて、獲った魚を、獲物を狙いますよ。結局あの長いジンチナーだと、人間と獲物が離れているからとサメにやられる確率が高いです。それでもう今は網です。この網を手で持って、身体からあまり離さないようにして、距離を縮めていますよ(笑い)。

僕なんかはこの網をタモと呼んでいるけど、釣具屋で売っているタモ網を使っています。タモ網の獲物を狙って、サメが襲わないかって。いや丈夫ですよ。サメは人間に触れない、サメが人間を襲うというのは嘘だよ。サメが人間襲わない。魚を突いて、その場でも血抜

きしますから、血を出しますよねえ、血の臭いで、サメは集まるんだけど、それでも人間は襲わない。あとから付いて来るけど、ただ離すとやられるんですよ。大きな魚を獲った時ですか。タモに入れられない時は縄、ロープを持っていますので、これで縛ってから引っ張っていく、引っ張るといったって、別に海では重たくないから（笑い）。



タモ網に突いた魚入れて上がってくる所。銭網から網に替えたらサメに食われる確率が減った。（上原徳広.2014）

危険なのはシジャー(ダツ)ですよ。(肌着のシャツをまくり上げて)、見えるかなあ、こっちの胸の傷はシジャーにやられた痕（笑い）。八重山における時は素潜りだから、結局ずっと水面で

すから、電灯目がけてシジャーが飛んで来て怪我しました。幸い大丈夫でしたが。

だからシジャーが多い所は水面を照らさないです。照らすと、明り目がけて飛び込んできますから。浮き上がる時でも、電灯を下に向けて、下に向ければ、別に大丈夫。

僕なんかの同級生は、阿嘉島でこっちやられて亡くなりましたよ。上原太郎という同級生。あれはもう危険なのは水面だけですから、潜っている時は危険はないです。

夜光貝、高瀬貝、エビ類は少ない

— 話は変わりますが、明治の古賀辰四郎さんの開拓時代には、尖閣諸島で夜光貝採っていたようですが、実際に潜ってみて、夜光貝は相当おりますか？

志村：あんまり夜光貝おることはないんだが、夜光貝はそんなには揚がらないですよ、採れはするけど、おるという位じゃないですねえ。尖閣はエビはおりはするんだけど、殆んどいないですよ。おるのはいます。だけど、ちょっくら、ちょっくら。この島のこの辺(魚釣島の北側)とこれの、全体的にはもうおると言う位じゃないですねえ。魚釣島の北側とコウビトウのこっちからこっちですねえ、南西から北東の間、エビはおると言う位じゃないですよ。あれも、貝類も、夜光貝とか、高瀬貝は見たことあるかも知れんけど、こんなにおると言う位じゃない。おったらゴロゴロ見えるはずだが。それにしても、古賀さんの時代、相当夜光貝採ったというけど、そんなに仕事ができる位はないが。

今でも夜光貝は八重山でもどんどん揚がってますよねえ。尖閣列島では相当採らないで放ったらかしているから、採れたら、殖えていて沢山おるはずなんだが。

狙うのは90% ブダイ類

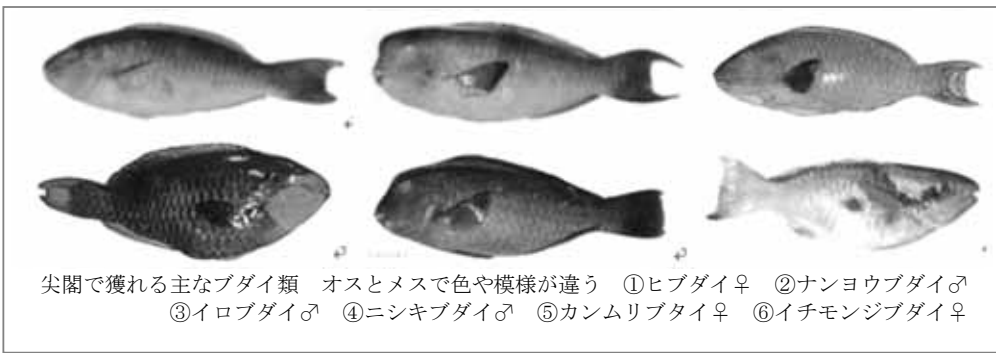
— やっぱり、電灯潜りで獲るのはブダイ類ですか、

志村：電灯潜りで狙うのはブダイが主ですねえ、ブダイで80、90%ですねえ。

ブダイの種類は結構いますよ。(魚図鑑のブダイ科を指して)、このイラブチャー(ニシキブダイ)は少ないですよ。このイラブチャーはごく限られた場所です。尖閣でも、南北小島の間だけにいます。これだけはオスメス塊まって集団で寝ます。他のものはどんなにおたつたってポツリポツリポツリで、塊って寝るといのがないですねえ。

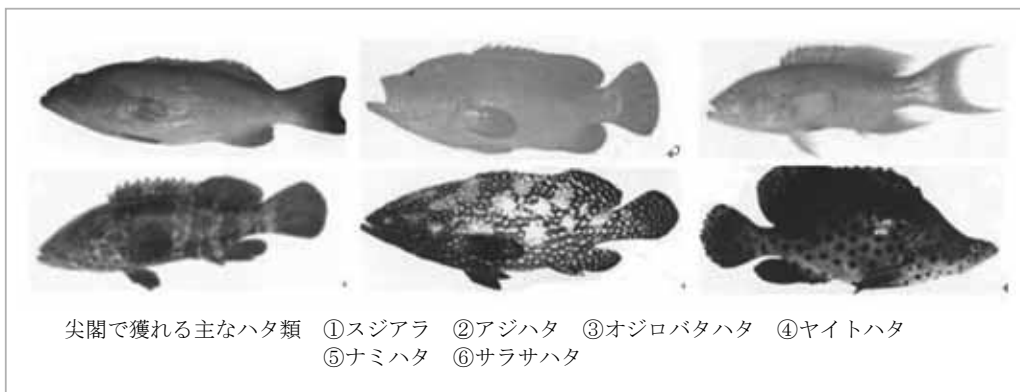
同じブダイの種類でも、このヒブダイはアーガイというけど、これは結構深い所にいますねえ。多いのはオーバチャー(オビブダイ、イチモンジブダイ、ナガブダイ)とゲンノー、(ナンヨウブダイ)は結構海が深いんです。イラブチャーでも結構深い所にいるんですよ。

これは浅瀬、これはメスですねえ、オスはこれかなあ、大体これが多いですねえ。このイチモンジブダ(オーバチャー)はハイカラーというけど、オスはグリーンが入ってます。



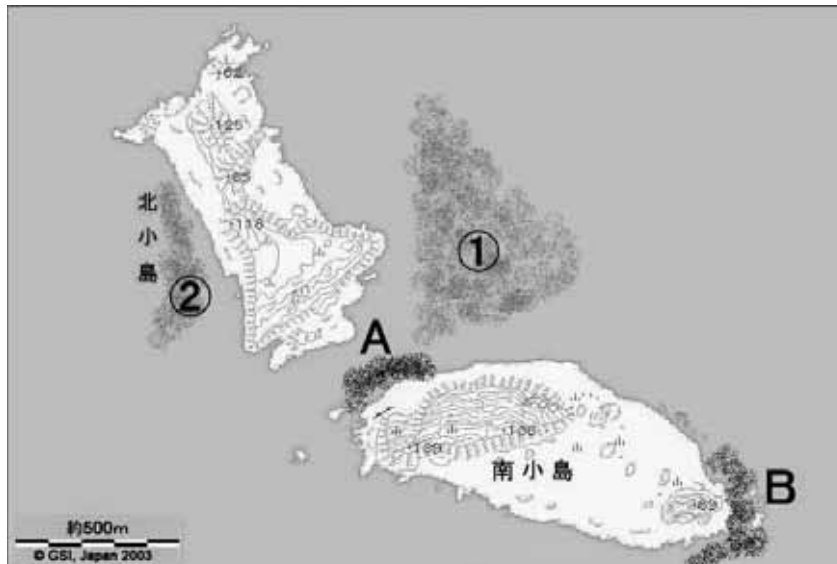
これはセリに行けば全部見れますよ。ブダイはもう、全体的にいますねえ。魚釣島ですか、やっぱりゲンノーとオーバチャー アーガイが多くいますから。

(ハタ科を見て) このハタ類も結構いますよ。ちょっと深場に 南北小島はこれが。アカジンとこれですねえ、ちょっと少ないけど。でも全般的に、アカジン(スジアラ)、ナガジュミーバイ(オジロバラハタ、バラハタ)、アカミーバイ(アザハタ、アカハナ)、あとクルバニー(アオメハタ)がいますねえ。南北小島にも、どこにもいますよ。このクチグワミーバイ(サラサハタ)、タックウェーミーバイ(ナミハタ)はちょいちょいですけど。



このブダイも、ミーバイ(ハタ)類も、それぞれ深さによっても違うわけですよ。

深い所といってもテーブルサンゴの下とか、岩というか、石というか、この割目、割目に、海底地形というのはサンゴがあつて、穴だらけの石がありますよねえ、あんな所にいます。まあ端的に言えばテーブルサンゴの下といって過言じゃないですねえ、もう半数以上はこっちにおります。

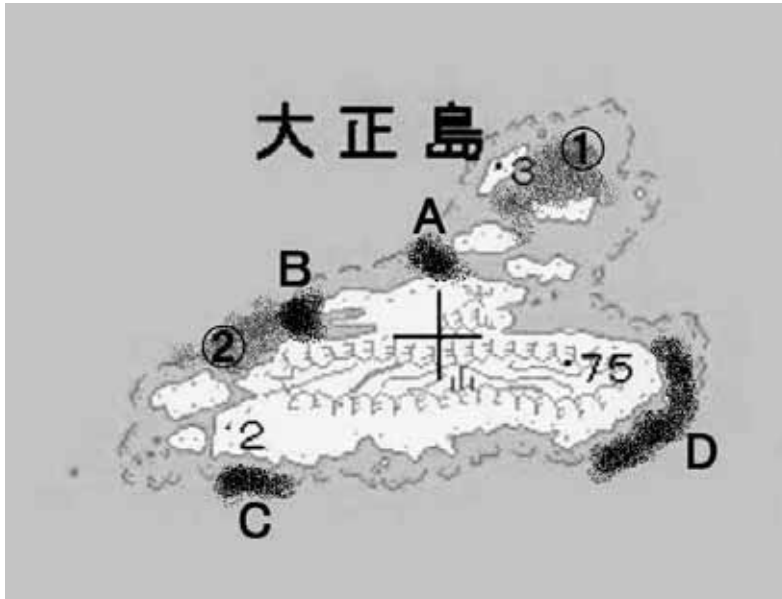


南北小島は、①水域には枝サンゴ、②はテーブルサンゴが分布。
島の周りにブダイ、ハタ類は全体的に分布。A：イラブチャー、
ニシキブダイが集団で棲息。B：ナポレオンフィシュの主なポイント。

ー ブダイやハタ類以外でどんな魚がいますか、

志村：ブダイ以外というのはヒロサー(ベラ類)は沢山いますよ。このナポレオンフィシュも結構います、こっち(大正島)と、南小島のここですねえ、全般的におるけど、こっちが強いですねえ。北の小岩のこっちにはイシダイがいますねえ、イシガキダイ・ガラサーミーバイですねえ。アコウの北西側にも結構いますねえ。さっきのクロバニーねえ、アカジンの大きい、種類は違うけれども、あれは大きくなるから、ハタ類は小さいうちは獲らないです。大きくなるのも、小さくなるのもあるから、大きくなる奴で、小さいうちは選んで獲らないです。だけど、イシミーバイ(イシガキハタ、カンモンハタ)の種類かなあ、どんなに大きくてもこれ位だから、15センチか、20センチ以下、これはこれ以上大きくならないから、これは獲りますよ。値段高いです。ミーバイ類は皆高いですよ。

ベラ類ですか、これは採れないじゃなくて、採らないですよ、金にならんから、食べても美味しくありません。いることはいるけど採らない、セリに出せないです。小さいし、ベラ類は殆んど食べても美味しくないので(笑い)。



大正島は、①水域には枝サンゴ、②はテーブルサンゴが分布。
島の周りもブダイ、ハタ類は周りに全体的に分布している。

A B C : イシガキダイ。D : ナポレオンフィシュの主なポイントを示す

高校生息子 連れて 仕事場見せに 島にも上陸

— 電灯潜りで獲れる魚は大体分かりました。ところで、島に上陸したことは？

志村：よくありますよ。島の近くアンカー打つから。一度は長男のアキヒロも連れて上陸しました。毎日毎日仕事場行って帰って来るでしょう、僕も尖閣列島を見せたかったし、自分の仕事場を見せたかったから、その時息子は高校生だから 30 年前かなあ。夏休みで、往復 7、8 日だったと思う。操業最低 5 日から 6 日はやるから、天気もよかったし、魚釣島の東側に上陸しました。帰ってきてから、自分の年齢で尖閣列島に行った人は 1 人もいない、だから自慢になると話してましたよ。息子としてはあっちに行ったというだけで、もう自分の財産になったはずですよ（笑い）。

ただ遊びに行っただけだが、そこで仕事やった、やらなかったは別としてねえ。上陸までしているから、喜んでました。その時の写真ですか、写真は撮ることなんか考えなかった。ただ自分の仕事場に、子供が来たというだけ、仕事場を見せたいから連れて行っただけですから、もう特別なあれはないですよ）。

アンカー 浅場に打つ 切れたら 座礁の危険

— とところで、尖閣諸島は潮が速くて、アンカー打つのが大変と聞きましたが？

志村：そうです、宮古のカツオ船なんかは、ここ（魚釣島南側の島陰）まで来て、何回もアンカー打って、5、6 回、7、8 回かなあ、こっちで、島の近くでは、掛からなくて、もう帰り

ましたよ。垣花船(那覇地区の深海一本釣船)なんかは、島から離して、深い所にアンカー打つから、掛かるんです。一本釣は日頃から 200~300 メーターの深さで仕事するもんだから、長いアンカーロープしかを持っているが、カツオ船は深い所にアンカー打つことないから持っていないです。

普通我々の場合も浅瀬で、島から 2,30 メーターしか離れてない場所で仕事して、だからアンカーも 15 メーター位の離れた浅瀬にしか打たない。

尖閣列島という所は風も潮も半端じゃないです。冬には北風が吹くと、ものすごくシケるから、北風が強いと、普通は潮は風上に、南側に流れて行きますが、こっちは逆ですよ。この魚釣島の近くだと、浅瀬だと、潮は風の来る北側に、反対に流れていきますよ。島に向かって突っ込んで流れていきますよ(笑い)。尚丸に積んであるアイスボックスねえ。あれがボンと風に飛んで、海に落ちたら、風は北側から吹いているけど、ものすごいスピードで島に引き寄せられて流れて行きますよ。(笑い)。これなんかは同じ海人でも、尖閣に行ったことない人は、ピンとこないはずです。あっちは風も潮も半端じゃないから。



魚釣島の南側、北風が吹くと格好の避難場だが、巻き風で漁船が島に引き寄せられ座礁の危険もある。(野原朝秀.1971)

結局、北風が吹くと島は小さいし、島の大きさの割には山が高いから、風は巻き込んでくるしかないでしょうねえ。巻き風となって回ってきて、北風が強くなればなるほど、風も、潮も、島に向かうわけですよ。だから、垣花の一本釣船のように、島から相当離れた所に、深い所に、アンカー打てば、万が一アンカーが切れても、風上にしか流れない、島に向かわないから安全です。僕ら電灯潜りの場合は、浅瀬でアンカー打って、船泊めていますよねえ。このアンカーが切れたら、もう危険です。大変です。船は潮に流されて、すぐ島に突っ込んで行きます。もう 1 分待たないで座礁します(笑い)。

僕らが救助した船もこうなんですよ。アンカーは打っているけど、北風になって、アンカーが切れて、島に流されて、魚釣島に座礁したわけです。

アンカー切れた 座礁船 乗組員救助

一 座礁船を救助したんですか？ アンカー切れて、島に突っ込んだわけですねえ。

志村：僕は宮古の船、伊良部の何丸だったかなあ、忘れてしまったが、尚丸で座礁したもんだから救助したんです。彼らはこっちの島の近くでアンカー打って仕事していた。

一本釣か、曳き縄か、分からんが、そのまま寝ていたわけですよ。尖閣は潮が速いでしょう。アンカーロープが、ヤナ(サンゴ礁の岩)か、何かに擦れて切れたんじゃないか。

もうアンカー切れたら 2,30 秒では、もう島に突っ込んでいきますから。案の定、島に引き寄せられて、乗り上げて座礁しましたよ(笑い)。

その時、保安庁の巡視船も来ておったけど、島に船は着けられない、ヘリコプターもできない。あの時、風は 20 何メートルか吹いていたらしい。ヘリコプターは、危険だからと降りられないといって、上空をぐるぐる飛んでおるわけよ。それを尚丸で救助したんだが、救助というか、船もバラバラなって、乗組員は島に上がっていた。尚丸は、アンカー打って、2つ打ってから、ロープを陸上に投げて、これを曳いて、上陸して、乗組員を助けた、3名か4名だったかなあ。それで人命救助の表彰状もらったんだけど(笑い)。

伊良部の船で、船の船長が、あとでわざわざお礼に来ていたが、30 年前のことだから、船の名前も、船長の名前も憶えていない。この事故船を調べるなら、あとで写真も、船名も必要だからというから、漁船保険組合に、バラバラになった船の写真も撮って送ったから、あっちに資料は全部あると思う。

とにかく、尖閣ではアンカー切れたら、やばい。島に突っ込んで、もう 1 分待たないで座礁する。尚丸の場合は、こっちに、尖閣専用のアンカーを、海底に取り付けて、いつでも使えるように沈めていますよ。

尖閣専用アンカー 魚釣島海底に 取り付ける

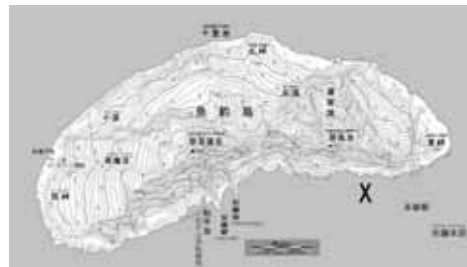
— これはすごい、尖閣専用アンカーを、海底に取り付けて、沈めているわけですか？

志村：尖閣専用アンカーは、普通のアンカーでは切れたらやばいから、ロープじゃなくてチェーンですよ。それでアンカーロープにして、アンカーを海底に取り付けて沈めています。この専用アンカーを沈めている所はこの辺です、魚釣島の南側、この瀬の近くに。

この尖閣専用だったら、アンカーは切れることないですよ。船は安心して停泊できます。取付けの作業ですか、別に難しいことではない。一緒に潜って 4,5 名でやったから、アンカーも然り、チェーンもねえ、岩を通して縛って、頑丈に縛っていますから。

何回も言うようにシケれば、シケるほど、艫が島に向かうから、アンカー切れたら、何 10 秒かで終わりですよ。島にぶつかれば船はもうバラバラですから。この専用アンカーなら、切れることないからもう安心して寝れるわけです。上には目印にブイを付けて、それに縛っているから、アンカーは海上のどこにあるか、そのブイを見ればすぐ分かります。

ブイは普通の浮き球ですよ。この下にアンカー打ってあると誰も分からんから、ブイ 1 つが潮に流れている位に考えて、気にならないはず、ブイが 3 つも 4 つもあれば別だが。



X：尚丸の尖閣専用アンカー設置場所

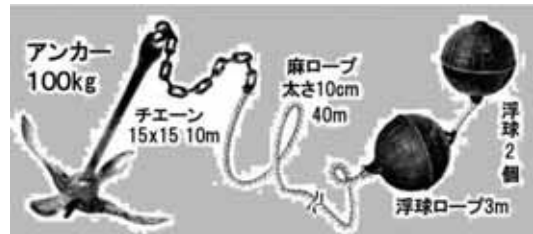
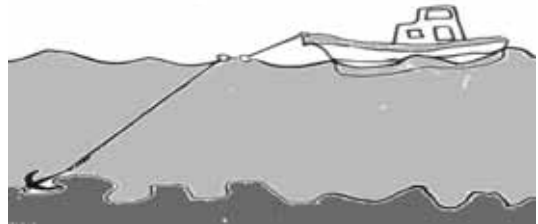
尚丸は、尖閣行く度に、昼は、この専用アンカーに船を縛って休みました。

やっぱり昼は安心して寝ないと仕事できないです、このお陰で相当助かりました。

もう尖閣行かなくなって、何 10 年なるかなあ、あの目印のブイは失くなっているはずです。アンカーとチェーンは海底にまだありますよ。岩に縛っていたから。あれは金属(かね)だから、海底火山でも爆発しない限り残るはずです。

あと 500 年位は大丈夫ですよ (笑い)。

尖閣列島に行って、あの専用アンカーを引き揚げることもできますよ。沈めた場所はちゃんと分かりますから、いつか行って、引き上げてみたいですねえ。



尖閣ではどんな大シケでも、この専用アンカーに船を繋いでおけば安心して眠れた。いつか引き上げたい。

パヤオ・ソデイカ漁に切替 電灯潜り辞める

— 魚釣島に専用アンカー取付けて、尖閣諸島オンリーの電灯潜り、さすがです。けど、この電灯潜りを辞めたのはなぜですか？

志村：行かなくなった理由は幾つかある。主な理由は 3 つです。1 つは漁業権の問題。あとは燃料の高騰、それとパヤオが普及したからですよ。

沖縄で漁業権というのが厳しくなったもんだから。漁業権は昔からありはしたけど、小さい島で、海人も皆顔見知りのもんだから、まあテーゲーナー (いい加減に) やっていた。それが埋立てとか、補償金とかで、漁業権の問題が表に出たわけです。表に出る前は、電灯潜りも、沖縄はどこの海でも潜れた。大東でも、ヤンバルでも、どこでも。

だから尖閣に行けない場合は、あっちこっち行ってやっていた。漁業権が問題になったから、今は潜れる範囲が狭められた。浦添・宜野湾漁協と那覇地区と沿岸漁協は漁業権が 1 つだから、こっち(浦添・宜野湾)と那覇の海でしか潜れない。隣の読谷とか糸満には行けない。行ったら保安庁に捕まるから、電灯潜りは段々難しくなりましたよ。

尖閣の場合は漁業権はないから、琉球一円だから、行ったら、潜れます。だけど、油が相当高くなって、行っても、採算取れるかどうか分からん。魚も安くなっている。今は外国産の魚も沢山入ってきているから。それとパヤオ(浮魚礁)ができて、これがどんどん利用されるようになった。そのあとソデイカ漁も始まりましたよ。結局時期的に、このパヤオとソデイカが丁度重なって、出てきたもんだから、電灯潜りを辞めて、パヤオとソデイカに切り替える人が出てきましたよ。またソデイカやって、ソデイカが禁漁になったら、電灯

潜りやる人もいて。だけど、潜る場所は限られているからきついわけですよ。

僕は、ナー ヤミレー！（もう辞めた！）とって、電灯潜りはすぐ辞めましたよ。

で、こっち、慶良間周りで、グルクンの追込みをしてました。この追込みを3年間位して、尚丸2号を造りました。45歳(1989年)でした。この2号造ってからは、もうパヤオとソデイカ専門にやりました。こっち(浦添・宜野湾漁協)で、バブルの頃、あれは2000年頃かなあ、電灯潜りは何隻かはやってましたよ。バブルがはじけたあとはいなくなりました。

僕は、電灯潜りは、早い時期に辞めてます。2号造る3年前には、もう辞めている。

結局、尖閣専門に電灯潜りをやろうと、尚丸1号を造って行ったのが1973年で、辞めたのが1986年だから、尖閣には13年間行ったことになる。

電灯潜り 長く休ませた 魚大きいかも

— 最後にお聞きます。尚丸は、1973年から1986年までの13年間、尖閣オンリーで電灯潜りをしていて、毎航海大漁しても、尖閣の魚は小さくならなかったですか？

志村：あんまり、感じなかったですね、思ったよりも、僕の尚丸だけでなく、こっち(浦添・宜野湾漁協)からも、那覇市沿岸、那覇地区漁協からも電灯潜りで行ってます。

全部合わせても、結局操業する漁船の絶対数が少なかったわけですよ。

それほど尖閣には魚が沢山いるということです。

向こうは電灯潜りのいい漁場ですから。最近は大重山から、海人三郎(下地清栄)らが、尖閣に潜りに行っているようだが、彼らは本格的電灯潜りをして魚を獲っているわけではないから、減るとしても微々たるものです。アカオも入れて尖閣の5島、島の周囲にはもう魚はいっぱいいますから、フシガラン(想像できん)位(笑い)。ブダイ類とか、ハタ類とか。あそこの魚は簡単には減らないですよ。

それにこっちから、皆が行かなくなって、何年なりますかねえ。やがて25年から30年近くになるなあ。もう相当長く休ませていたから、魚は大きくなっているはずですよ。

これからは若い人達の出番ですねえ。頑張って、電灯潜りで、尖閣行けば、間違いなく満船、大漁してきますよ。もう向こうは魚の宝庫ですから(笑い)。

— 尖閣諸島が魚の宝庫であることはよく分かりました。若い海人達が皆さん方先人達の業績を引き継いで、電灯潜りを再興するといいですねえ。今日は有難うございました。

(了)

上原 徳広 うえはら とくひろ (那覇地区漁協)

1951年(昭和26年) 沖縄県本部町に生まれる。64歳(2015年時)。

沖縄本島北部本部町はカツオ漁と追い込み漁が盛んである。追い込み漁を営む漁家で育ち、幼少より海に親しむ。26歳(1977年)に漁師を志し、那覇地区漁協の深海一本釣船徳寿丸に半年、瑞幸丸に1年半乗る。28歳で電灯潜りに転じる。正栄丸に1年、尚丸に8年、得将丸に10年ほど乗船し、1980年から1990年の18年間尖閣諸島で電灯潜りに従事する。

2010年銀友丸(5ト)を建造、ベテランのダイバーを引き連れて、今なお沖縄近海で電灯潜りを操業している。



刺身食べられるからと 海人に

私は本部町健堅で生まれた。カツオ船の本場だから、やっぱり叔父さん達が皆海人で、追い込みやっていた。で、住んでいる家の隣の隣が海だから、遊び場は海、海で泳いだり、4、5歳頃は、友達なんかと浜で遊んでおって、割れた瓦を海に投げて、おい、あれ取ってこいと、深い所に投げて、目をつぶって飛び込み、海で目開けて、取ってくるという遊びが日常だった。そうやって、潜りの仕方も、自然と憶えるし、海に親しんできた。

3家族が1つの家に住んでいて、海人だから食べるのはグルクンのから揚げとか、ヒカークワワー(スズメダイ稚魚)とか、刺身は大皿に、毎日こんなに盛って食っていましたよ。那覇に出てきたら、高いお金出しても、これだけでしょう。びっくりしましたねえ。もう刺身がいっぱい食べたいもんだから、海人になったようなもんです(笑い)。

学校卒えて、陸(おか)の仕事をいろいろやってきました。工場勤めとか、営業とかしたり、沖縄でやったり、本土行ったりして、どれも性に合わなかったねえ。暇な時には釣竿担いで魚釣りによく行った、それが趣味というか、楽しみで、やっぱり漁師の家庭で育って、その影響もあったんですかねえ。結局、26歳の時、沖縄に帰って、海の仕事に就きました。願い叶って海人になって(笑い)。私の血に海人のDNAがあるのか、この仕事が一番性に合っていますねえ。海の仕事は面白く、毎日楽しいですよ。刺身も腹いっぱい食べられるし(笑い)。

一本釣船 徳寿丸 瑞幸丸 乗った

最初に乗った船はこっち(那覇地区漁協)の一本釣船です。徳寿丸(船長國吉真某10ト)という船、それで一本釣を仕込まれて、1年半位は乗りました。昔は一本釣は大変だった。木のリールで揚げたから、もう350メートル位の深さからねえ、こんな鉄筋付けたオモリです。3キロ位あるオモリを、枝が入っている奴を、底まで降ろすのはいい、魚が食ったら揚げるさあ。もうこれが大変だった。木のリール回して、揚げてねえ、これが大変、もう手がこんなになってよ。もうえらい船に乗ったなあ、と思っていたけど(笑い)。

そのあと真厚ヤッチー(兄貴)の瑞幸丸(15ト、船長渡嘉敷真厚)にも乗りました。たまたま

家の近くに機関長の外間次郎さんがいて、トーハイヌレー(はい、乗りな)と言ったから、乗りました。(瑞幸丸の写真を見せる) これが瑞幸丸? そうそう、そうです。ああ懐かしいなあ、木船で15トでした。この船で尖閣列島行ったよ。

やっばし、尖閣列島はすごかった。もう釣れるんですよ。それにあつちは潮が速い、木のリールだから、揚げるのによけいアワリ(難儀)したさあ。だけど、しばらくしたら、機械メーカーさんが、電気リール、釣機を、試しにテストで使ってくれんかと持って来たんです。長崎では、これで魚釣っているということで、12Vと24Vの2つあった。

那覇地区では、瑞幸丸が釣機というのを最初にテストで使ったんじゃないか。で、12Vの奴は、力が強くて、量掛かっているけど、バツと揚げる力が強かった。もう魚が釣れたら、ゴボウ抜きに揚げてくるから、波が上がったり、沈んだりすると、やっばし切れたりする。それで24Vは波が上がったら送りもやるから、これ使った。

で、尖閣列島の場合は、11月頃行くんですよ、ところが、その時は機械が揚げるからといって、10月初めには行ったんです。そうしたら、もうしょっちゅうコーヒーばかり飲んでいたよ。ボタン押したら、自分で、揚がってくるさあ(笑い)。それに調整が利いて、手前に来たら止まるから、もう前に比べたら、楽チンさあ。

お前 潜りできるか? これに乗れ!

瑞幸丸が、尖閣で漁していたら台風が来たので、宮古の池間島に避難した。これが7号8号だったかなあ、あの2個の台風が北上したかと思ったら、また戻ってきたりして、あの時は大変だった。シケが続いて、もう1ヶ月位閉じ込められて、やっと家に帰って来たら、今度は、家内が心配して熱出して寝ているわけよ。もう海に行くなあと言うから、うんと言って、2ヶ月位、家でポケッとしていた(笑い)。家内は熱も下がって、今度は俺がトルバテって(茫然として)いるから、心配して、もう海に行ってもいいよ(笑い)。急いで、港に行ったら、瑞幸丸の隣には、変な得体の知れない船が泊まってあるわけ。5ト位の木船で、いつも何の仕事しているかを見ていたよ。たまにボンベ積んだりしているのを何回か見たことあるから、この辺の防波堤のテトラポット積みの工事用の船かと思っていた。真厚ヤッチーの船はいなくて、この船がいて、この船の人に聞いたわけねえ。隣の一本釣船はいないの? ああ、あれ出てから1週間位なるかなあ、ヌーガ(何で)? また乗ろうとしてこっちに来たけど。がっかりした俺を見て、お前潜りできるか? できる。それなら、これに乗れ!(笑い)。話聞いたらこれが電灯潜りの船だった。これは前の浦添漁協組合長の長嶺正幸さんの正栄丸(5ト)ですよ。その船乗って、初めて潜りを、電灯潜りをした。

尚丸 得将丸乗り 18年間 尖閣で電灯潜り

もう最初からサバノヤー(サメの棲みか)に、ソーティイカッティ(連れて行かれて)、びっくりしたよ(笑い)。座間味(慶良間諸島)の向こう、あつちはサメがウジャウジャ、あのネムリブカとか、ハンマーシャークとか、見たこともないサメもいた。サバニ位のでっかい

のもいた。電灯持って、夜潜るでしょう、初めは怖くて、大変だった（笑い）。

だけど、段々慣れてくると、潜りの仕事が面白くて、段々好きになってきました。

で、この正栄丸に半年ほど乗っていたかなあ。そのあとちょっと事情があって辞めていたら、志村武尚さんが来ましたよ。あの人も本部の人で、俺達叔父さん達をよく知っていて、俺が潜りやっていて、この長嶺さんの船下りている話を聞いて、乗らんか、と来ているわけ。そしたから、いいですよ。折角ねえ、仕事を与えて来ているから。

私が29歳(1979年)だったかなあ。志村さんの尚丸(7ト)に乗りました。

尚丸は尖閣専門の潜りでしょう。尖閣にはよく行きました。この尚丸に8年ばかり乗って、そのあと山内さんの得将丸(船長山内得正、5ト)に乗った。これも尖閣よく行ったから、これは10年ほど乗ったかなあ、この得将丸がマグロ船に切り替えるというから辞めました。それから他の船乗って、そのあと今の銀友丸を造って、自分は電灯潜りをそのまま続けています。この船では尖閣に行っていない。尚丸と得将丸の乗った時、尖閣に行きました。両方合わせると、尖閣で18年間で電灯潜りにやったわけです。

北小島 洞窟の奥

上陸すべからずの碑？ あった

やっぱし、尖閣行ったら無人島だからさあ。何か珍しいものないかなあとか、何度か島に渡ったよ。コウビトウ(久場島)、魚釣島、トリシマ(南・北小島)に。あのトリシマには、洞窟があるでしょう。でっかい高さもありますよ。奥にはどの位あるかなあ。

(北小島の洞窟の写真を見せる) そうそう、この洞窟。この奥だったよ。そこに碑文があった。洞窟の奥の左の段みたいな所にあった。もうその時の記憶は薄れているけど、確か「この島に琉球人以外上陸すべからず」というようなことが書かれていたと思う。石に縦書きで彫られていた。これ見た時は、びっくりしたねえ。ああ、やっぱし尖閣は沖縄のもの、日本のもの何だなあと思った。けど何でわざわざあんな洞窟の中に建てたのか、それが不思議だったねえ。

(1970年琉球出入管理庁が設置した警告板の写真を見せる) ああ、これが警告板の文章ですねえ、私が見た碑文と大体似ています。これが北小島で撮った警告板の写真ですか。残っているのは支柱だけ。板は？ 支柱にとめていた鉄のボルトが錆びて落ち



上：北小島の洞窟、この奥に上陸禁止の碑が
下：支柱だけの警告板（金城棟永.1995）

てない。板は下にもないですねえ。行方不明？なるほど、ここに上陸した人が、この板を見つけて、大事なものだからと、あの洞穴の奥に置いたというわけですか。だけど、警告板は横書きでしょう。私が見た碑は縦書きだったような気がします。縦書きの警告板もありますか？全然ない。それなら、これから板が外れて落ちたから、これを誰かが拾って、洞窟の中に持っていった、やっばし、そうかも分らん。

でも、島に渡れるんだったら、もう一度行って、自分が見た碑文が何だったのか、ちゃんと確かめたい。今は中国(公)船が躍起になっているから、保安庁は目光らしているさあ。上陸は難しいかも知れんが、いつかは上陸したいねえ(笑い)。



警告板は尖閣5島の7箇所海岸に設置。コンクリート製の大きな平板、(W120 x H90)、日・米・中の3ヶ国語で不法上陸を警告。(新納義馬,1971)

魚釣島 ハマシタンとか 上等木 いっぱい

(尖閣諸島の海図を指して)これが魚釣島、この島は、大体こっちの3箇所から上陸した。東上側と、西側の掘割側、あと島陰の南側からねえ、こっちに瀬があるから、ここに船アンカーかけて、ここから泳いで渡って上陸する。東上側に上陸した目的は木を採るため、尖閣は上等な木がいっぱいあるさあ、クロキ(リュウキュウコクタン)とか、チャーギ(リュウキュウマキ)とか、一応採られるものは採ろうと、俺は道具置いてあるよ。鋸から、ハンマーから、向こうに、次また採る時に(笑い)。

で、この辺(東上側)は、皆ハマシタン(ミズガンピ)がいっぱいよ。採ってきたといってもある程度小さい奴ねえ、結構島廻ったら、でかい木があるかも知れんけど、あのゴッゴツした所。窪んでガッチラクー(尖って凸凹)になっているサンゴ礁の上歩くからよ。石灰石の上を、遠くに、上に行けば行くほど上等が採れるはずだが、担いでくるのが大変さあねえ(笑い)。それもあって、ある程度小さい木を採ってきた。ただ、採ってきたのはいい、持ってきて植えて、ある程度芽も出たんだけど、結局皆枯らしてしまった。

もうハマシタンはデーダーカー(高価な)木だから、植えて大きくしたら高く売れるからと、興味もってやったけど、やっばし素人がは生かしきれない。枯らしたから、心痛かったわけよ。ああこの木は、あそこでそのまま採らなければ、ずっと生きて生きていたのに。自分が持ってきて、殺してしまった。もう次から絶対採らんでおこうと決めたわけ。それ以来、島に上陸した時は採らないですよ。

洞周り三人掛かり でかいチャーギ 夫婦木が

魚釣島の南側、こっちにアンカー打って寝るけど、今度は島の西側の掘割近くから上陸

した時の話。ほんとはクロキ探す予定で、ここから登って行ったら、シイの木がこの位見上げる位高いわけよ。それを見ておったら、相棒が、ええ、あれチャーギの葉？ ああ似ているなあ。そこを登って、この林の中に分け入って行って、周囲見渡しても、さっきのチャーギはない。たしかこの辺、この距離だったはず、したら、目の前に立っているさあ（笑い）。ものすごくでかいチャーギが。相棒は山内靖明さんといって俺より下だが、大きい人であるわけよ。あれもこんなして、俺もこんなして、このチャーギは2名でも抱けない位よ。もう手が届かないだから。根元というか、胴周りねえ、3名ならやっと抱ける大きさよ。あれだと樹齢何百年経っているんじゃないか？ よく分からんけど。もうその位、でかかった。チャーギは建築資材としても上等だけど、尖閣のチャーギは高さはない。あれも高さは3.2メートル位かなあ。



相棒山内靖明さん、魚釣島からの帰り。後方の右端斜面を登って行くと、でかい夫婦チャーギがある。

その隣にもう1つのチャーギがあった。要するに雑木林みたいな所で、チャーギがポツンと2つだけあるわけよ。奥にはもっとあるかも分らんが。2本だからミートンダギー(夫婦木)だよ（笑い）。小さい方は女。あれでも2人でやっと抱ける大きさだったかな。

あの時夏だったから、暑かったから、チャーギの上で涼んで、兄貴、俺が家造る時は、この枝1つ切って床柱せんといかん。枝ならどうにか持っていける。だけど、このチャーギは何百本あるかなあ、これ伐ったら、どんなやって運ぶかと、下まで転がしていけても、船では持っていけないよ（笑い）。アメリカカーター(米軍人達の意)にお金上げてからよ、ヘリコプターで運ばそうか（笑い）。相棒とそんな会話したのを憶えている（笑い）。あのでかいチャーギは誰がも採らんよ。採れないんだから、あっちに行けば、まだあるはず（笑い）。

コウビトウ 海岸に屋敷跡 海底に石積み？

魚釣島の北側の島、コウビトウに上陸した時、海岸から上がって、タマイサー(玉石)の所を歩いて行って、奥見たら、屋敷囲いみたいに石垣が積まれていた。やっぱし昔は人が住んでいて、いなくなったら手入れしないさあ、石垣はあるんだけど、ここ広っぱなっていて、木が生えていたよ。ああここ屋敷の跡だったんだ、まさかあんな所に人が住んでいたと思わなかった。

(1971年琉球大学調査団が撮った集落跡の写真を見せる) ああ、やっぱし、コウビトウにも人が住んでいたわけですねえ。この写真の集落跡は島のもっと中にあるんですって。私が見た石垣は、すぐ海岸から上がった所にあったから、だけど浜近くだったら、大丈夫

かなあと思った。台風とか、大波とかあるさあ。最初の頃は海岸近くに作業小屋とか造るさあ、あの石垣はあの頃の屋敷囲いじゃないか、そう思うけど。

コウビトウの海底に不思議な所があるよ。隣合わせで、地形が全く違うわけ、右はリーフが絶壁に近い形になって落ちているさあ。岩が1つになって続いているが、左はタマイサー(玉石)があるさあねえ。石垣に積むあの四角い石よ。あんなのがゴロゴロ転がっているような、石が積まれているような壁? みたいになっている。左右の地形が極端に違うわけよ。人工の石積み? さあ、そうなのかどうか分からん、潜りながら見ただけだから。俺達は魚獲って、何ぼだからねえ。海に潜ると、不思議と思っても、あまり好奇心見せないようにしているさあ。深く考えないようにしている。そうしないと仕事できない。もう潜ったら時間との勝負、魚早く獲らんと、エアは切れるし(笑い)。



明治30年代の久場島の古賀開拓村、船の出入りの便利に海岸近くに建てられている。発見された石垣跡はこの跡かも。

潜ったら 一番に海底地形 憶えろ

最初潜った時、潜ったら地形を憶えろ、海底地形を頭に叩き込めと、先輩達からよく言われてからよ。暗い海の中でも、やっぱり憶えるもんだねえ。昼間と夜とはまた違う。

昼間は全体的にこう見えるさあ、俺達が夜狙う魚は大体寝ている魚、こうやって電灯照らして、夜なったら魚が寝る所がある。こういうポイントを探してやるから、その地形を憶えるわけよ。陸でも初めての町、何回も行ったら、あとは憶えるさあ。それと一緒になんです。目安は溝とか、こういう山があったなあとか、こういう深い所があったなあとか、あの時ここに行ってダメだったから、次は右側の上の方に行ってみようと、そうして地形を憶えるねえ。

尖閣も、ラサ島も、与那国も、北は屋久島とか、種子島とか、奄美大島全島、喜界島、全部潜ってきましたよ。それでこの歳になったんだけどねえ(笑い)。

今も目をつぶれば、あそこの海底地形が浮かび、ここ行ったら、どういう地形だったとねえ(笑い)。

で、最初潜った頃、魚探もないです



南小島北岸の海底地形。昼間と夜とはまた違う。魚寝る夜のポイントを頭に叩き込んでおく。(吉野哲夫 1979)

よ。夜船歩かして、船の傍に作業灯を照らして、海の底が見えるかなあ、映るかなあ
とって、見えたら停めて、ここから降りるわけ。それから浅い所行く、深い所泳ぐとか
して。それにポイント探しも大変だった。昼のように山当て、島当てはできんから。今は
科学装備が発達して便利さあ。ポイントは皆 GPS にインプットしてあるから、すぐ前のポ
イントに行ける。だから下りる所は大体決まっている。基準決めて、こっちから下りて、
じゃ引き潮だったら、あっち、満ち潮だったら、こっち、こういうふうにして潜るし、船
もこれを見張りして、電灯の光を追っかけておけば、大丈夫だから。

尖閣行けば いつも満船 4日間で2ト半

尖閣は魚は多いよ、ブダイもいるし、ミーバイもいるし、ハーッサビョ！（感嘆詞、もう
びっくり！の意）、尖閣では相当獲ったよ。志村さんと俺と4名位で、4日位で、いつも2ト
ン半位は獲った。結構獲ったよ。もう向こう行ったら、いつも満船して帰ってきたから。

（魚図鑑を指して）こっちのブダイは殆んどいる。このゲンナーイラブチャー（ナンヨウ
ブダイ）はこんな大きいのもいるわけよ、このイラブチャーはちょっと違うんだけど、似た
ようなもんよ。これは面白いことに、水溜り（タイ
ドプール）にもいる（笑い）。眠っているよ。ヒシ（潟）
からこういうタマイグワー（甌穴）とか、歩ける所に
眠るのに、イザイ（漁り）できる所にも眠っている。

このアーガイ（ヒブダイ）は大正島にもいるよ。こ
このワラー（スジブダイ）もいるよ。尖閣で一番大きい
アーガイ獲ったんだけど、10和掛かる。ここ（沖縄
本島）でせいぜい大きいといっても、5和位です。
10和といたらこうしてメンタマ（目玉）掴めない。

この角度から目と目が挟めない。普通メンタマ2
つ掴んでやるわけよ。中指と親指でこんなしたら
届かない、それでどの位の大きさか分かるよ。重
さ10和掛かりよった。ああ、これアーガイかな
あ？一瞬見とれてた。我を忘れて見とれてた
よ。アーガイと思うが、違うかなあと、首振っ
たりして、海の中でもの考えしていた。こんなに
でかいから、そんなに沢山はいないかも。でも場所によってはいるかも知れん。尖閣は18
年あまり行ってたけど、まだまだ開拓してない所がいっぱいあるからねえ。



手にしているのはアカジン2和と3.5和。
イラブチャー、ナガジューミーバイが揚がる。

魚寝る場所 決まっている 深さも関係

ブダイ類は眠る所は大体決まっている。大体どの辺に眠るといふのがあるみたい。

サンゴの下とか、岩の隙間とかに寝る。それに潮の流れを好むブダイもいるし、潮の流

れがちょっと速い所。内側に棲み付いて寝るのもいるし、要するに身体が動かされないように、潮の緩やかな所にいる。あと地形を見て判断するよ。この地形には何がいるか、ここにはアーガイがいるか。ゲンナーがいるか。あっちはアオブダイがいるか、ハイカラー(イチモンヂブダイ)がいるかとねえ。

それに深さも関係する。ゲンナーだと大体 30 メーター前後位でも 40 メーターにもいるよ。時々 40 メーターに塊っているのを見ます。元々アオブダイ類は 20 メーター、昔は浅い所、下までいたんだけど、今は少なくなっている。

ベラ類だとナポレオンフィッシュ(メガネモチノウオ)ですよ。あれは美味しいから人気ある。あれも大体割れ目とか、穴とか、岩と岩との間とかに寝ている。ナポレオンはあまり群れない、大体が一匹。ただオスとメスがある、これはメスですよ。オスはもっとコブがこんなで青い。これは 35 知位、オスは 60 知になる。



魚釣島西海岸の海底の様子。左 3 尾はミヤコテング。潮流、地形・深さを見て、魚の寝る場所を探す。(吉野哲夫 1979)

膜張って眠る 魚の防御？

ブダイ類は全部が全部、膜張って眠らないですよ。ナポレオンは膜張らないし、膜張るのはイラブチャー、アオブダイとか、ゲンナー・ナンヨウブダイ。オーバチャー・ツキノワダイとかです。膜張ったら、潮の満ち干きで、この膜にゴミが掛かって、この魚が見えにくくなる、外部から見えなくなるようにするための防御じゃないかねえ。やっぱし膜張っていると見えにくい。何かかなあ、ああ膜だなあ、思ったら、中に大きなゲンナーが膜張って眠っている。これを一発即死(笑い)。こういうのは大きいから一発即死狙う。

大物は一発即死、一匹狼でいる。群れではない。寝ている所を目ン玉見て、急所は目ン玉の斜め上だから、真横でもいいし、目ン玉から真横に 1 センチ位、パッと撃ったら、運がよければ動きもしない、即死ですよ。

チヌマン(テングハギ)ですか、この魚も夜膜張らないで眠る。だけど尖閣のチヌマンは瘦せている。瘦せているのは獲らない。なぜ瘦せているか？ チヌマンは海草食べるから、尖閣はあれだけ魚がいて、海草は魚に食べられて、あまりないかもしれない。

クルバニアカジン 大物 産卵期 よく獲った

ハタ類だとこのアカジンも獲れるけど、私の場合はクルバニアカジンとって 25 知位になるアカジンがいる。あれを相当獲って来た。あれは大体、群といたらおかしいんだけど、産卵期にはちょっと群でいる。魚釣島とか、コウビトウとか、どことってはない。

産卵で集まる場所は大体決まっている。俺なんか開拓しながら、開拓した。あれは産卵は大体4月5月だから、旧の4月20日位だから、だから年に一時小さあねえ、その時にあっちこっち潜って探した。一度は1日16本獲ったよ。魚釣島の灯台ここだから、こっちにアンカー掛けて、ここに瀬があるんですよ。ちょっと波があって、前に読谷の連中がこっちでやったと聞いたから、潜ってみたんです。そしたらその日の操業で16本。クルバニアカジン16本というのはなかなか獲れない。今まで人生で2回しかない。大きいのが21,2疋、小さいのが12,3疋位。平均で18疋位、これだけで約290疋、他の魚も獲れて、大漁した。



クルバニアカジン

(再び魚図鑑を指して) こんなアーラもいるしねえ、これもいる、ユダヤミーバイとか、これも産卵場所があるよ。これはいないけど、これはまだ開拓したことない、遇ったことはない ツチホゼリはいない。このアーラミーバイ(ヤイトハタ)は、産卵場所は、魚釣島と久場島との合い中のシーグワー(瀬)よ。



左端はナガジューミバイ(バラハタ類)



ゲンノーイラブチャー(ナンヨウブダイ)

潜るのは 30メートルまで 下に行かん エア食うから

アカオ(大正島)は潮はすごく速い。こっちにもブダイとかも、ミーバイもいるし、ブダイは何種類かいる。ナポレオンフィッシュも沢山いる。昼間泳いでいる。昼間獲るのは無理だ。近寄れない、すぐボンと逃げる。夜だと岩の間とかの穴に寝る、こうやって眠っているから、近くまで寄って行って、ロング銃でパーンと一発、急所狙って即死させて、獲るわけ。

僕らが潜るのは、深くても30メートル位までよ。30メートル下には魚？そこは未だ開拓してないから、どうなっているか、分からなんさあ。上にいるから、そこまで行かんですよ。深く行ったら、それだけエア消費量が食うさあ。そこまで行く必要ない(笑)。

下にはあれがいたよ。マチでいえばテークチャーマチか、魚釣島に避難する時に、ちょ

っと、島陰に隠れてやったら、よく釣れよった。あれは30から7、80メートル位の深さかなあ。ブダイも、下には、相当いるかも知れん（笑い）。このアーガイ（ヒブダイ）なんか深い所にもいるから。イラブチャーは、これは深い所にいない。スジブダイ、ナンヨウブダイもない、ニシキブダイは分らん。ナガブダイとヒブダイは同じ性質の地形に、同じ環境に棲むわけよ。大体深い所にいる。

昼間の潜り コンコン 叩いて 魚の好奇心 煽る

電灯潜りで行って、昼間潜ることもあるよ（笑い）。得将丸の山内船長、昼間潜るの好きだから、たまにやりよった。昼間潜る時は、電灯持たんで、代わりにブイを持つわけ。

昼間は、魚を追っかけるんじゃなく、こっちに呼び込んで、そういう技術使って、魚を突くわけよ。例えば、潜って、傾斜に来ますよねえ、こっちが深かったら、これのちょっと上の方にねえ、40メートルあったら、35メートル位で坐って、で、ブイくびられるものがあつたら、くびって留めて、これ逃がしたら大変だからねえ、命綱だから。これをきれいに結んで、ちょっと離れてよ。その辺から石か、何かとって、遊んでおくわけよ。

コンコンコンと叩いて、遊んでおくわけ。で、コンコンコンと。たまにはガチャガチャガチャ（笑い）。おや、この音何かなあ？ と、魚が穴場から出てくるよ。あまり聞いたことない音だから。エサかなあと思って（笑い）。

アカオでやった時は、こんなでかいアカジンがすぐ来よったですよ（笑い）。

来たから、パツと一発で即死させたわけ。そのあと3匹も獲った。25キ半もあつたよ。昼間はいい魚扱べるから。このやり方は、今の那覇市沿岸漁協の山川組合長さんに教えてもらった。山川さんは元々昼専門だったわけ。俺なんか夜獲ってくるイラブチャーはゴロゴローさあ。小さいもの。あの人のアカジンはでかかった。要するに、彼は昼間だから、アカジンとか、いい魚ミーバイ類を狙って獲っていたわけよ。この人にどんなして獲るの？と聞いたら、アカジンは、魚泳いでいるさあ。これを泳いで追っかけては獲れんよ。どうするか、魚の好奇心を煽る。煽って、呼び込んで、射程距離に入れるというわけ。

射程内 呼び込み 真正面向いたら パンと射つ

とにかく魚を射程距離に呼び込む。魚の癖を掴むわけ。アカジンなどは前向いている時に、こんなして見ているさあ、ガチャガチャガチャーしたら、ああ何かなあと見ている。真正面向いている時に射ちなさい。あれが横になっている時に射つたら当らんよって。それは何故かといったら、カチャと音しますねえ。これがパーと走る、真正面だったら、パンと射つたら、こう（身体）振るから、どっちかに当るって。いろいろ教えてもらった。

魚を好奇心で煽る。俺もそういう昼潜る時ねえ、まずは試しにやってみたよ。目はこんなして魚が泳いでいるのは見ない、横目で見て。で、銃を向こうに向けて、魚はこう見てからに、石か何かをコンコンコンして、やっぱし、そういう好奇心で呼び込んで、マクフウ（マクブ）獲ったことある。あれ美味しい魚、イラブチャーだけど、お汁にしたら最高、刺

身も、天下一品の魚だ。そのマクブを置いてから。命綱のブイは、アンカーにくびってある。2番目を呼び込むのは、そのアンカーを、こうカンカンカンしたよ。したら、ズーと向こうから、大きなアカジンが、こっちに近づいて来たよ。このままカンカンカンしながら、銃は長くて重いさあ。こう置いておって、来る方向に向けて、近くまで来たら、すぐ射てるようにしてねえ。よけいガンガンガンしたら、よけい好奇心が働くさあ、段々、真正面向いて、射程距離に来たよ。来たから、パンと射った。射ったら、命中して当ってひっくり返った。2匹目は大きなアカジンが獲れたわけ（笑い）。

尖閣 エビいない ラサ エビ宝庫

尖閣でエビ？ うん、見たことあるけど、獲ったことない。だけど、1回台湾船がよ、密漁してエビ獲っていたというのを保安庁の職員から聞いたことある。で、捕まえて、生簀を見たらエビが入っていたって、このエビは昼間泳いでから獲っていると言っていた。エビカゴで、僕等は潜って獲るけど、あれなんか、こっちのコウビトウで、カゴで獲っていたって。エビは、一応いるのはいるけどけど、皆こんな小さい。僕らに言わずれば、いないに等しい、いないわけよ。大きいのは見たことない。大東島の近くにラサ島(沖の大東島)があるねえ、こっちから 28 時間 10 ノットで、急いで飛ばせば 20 時間位で、尖閣とラサ島、屋久島とは同じ位の距離だったから、だから、出港する時間をそれに合わせて行くけど。僕等はエビ獲りたければ、ラサに行った。ラサ行ったら、エビはゴロゴロしているよ。ラサはエビの宝庫、向こうは井戸みたいな穴(甌穴?)があいていて、底にいっぱいいるわけ、イセエビが。まあ大体行けば 100 ｷ位は獲れるんじゃない。その穴から。だから、尖閣ではエビは獲らんですよ（笑い）。



尖閣で採取したエビ、なるほど小さい。沖縄開発庁尖閣学術調査団が捕獲。（白石哲・荒井秋晴.1979）

サメの縄張り 荒らす？ 怒って 攻撃

魚獲って血抜きしたらサメが寄ってくるよ。やっぱり自分の縄張りから魚盗っていると考えているか知らんけど、時たま、身体くねらして、口開けて攻撃してくる。威嚇したり、攻撃してくることよくある、突っ込んでくるから、怒っているなあと思う（笑い）。

別の所で仕事していて、長らくそこに来んさあ。しばらくして、またそこに行って、潜ったら、またサメが来るよ。同じ所潜ったら、また同じサメが来る。前来たサメだよ。

種類も同じだし、大きさも前と同じ、しぐさも同じだから。ああ前来ていたのは、此奴だなあ、それに、しょっちゅう寄ってくるから（笑い）。こっちが仕事しているさあ、傍をアッチャーアッチャー(歩き回って)（笑い）、イライラしている感じ。

だなぁ、それに、しょっちゅう寄って来るから（笑い）。こっちが仕事しているさぁ、傍をアッチャーアッチャー（歩き回って）（笑い）、イライラしている感じ。

あとはこっちがワジワジ（怒って）して、チャーワーギー（追っ払う）（笑い）。びっくりしてから逃げて見えなくなるんだけど、またしばらくしたら来るよ（笑い）。

向かってくる時ある。向かってきたら、もう立ってから、立ち泳ぎする。横なっていたら、サメが真正面から来たら、一直線上になって、小さく見えるでしょう。立ち泳ぎしたら、これだけ地面にこうやって、立っているように見えるから、サメは咬めないさぁ。身体を大きく見せるため、これ知恵といったら、知恵かもしれんけど。サメに遇ったら、絶対ひるまない、ビクビクしないことだ。それが身に着いたら、もう一人前の潜りよ（笑い）。

とにかくサメはウジャウジャいて、いろんなサメがいる。格闘したことある（笑い）。4,5回位はやったかなぁ（笑い）。ハンマーヘッドシャークとは2回ある。

それから得体の知れないサメとか。中にはでかい奴で、もう身体の4倍以上のサメもいた。モリで突付いてからに、此奴に食われるなら、食ってやると格闘したよ（笑い）。

やっぱしそういう根性がないと、この夜の潜りの仕事はできない。

島周辺 潮走らん シケたら マガイグワで

尖閣は潮が速いといっても、それは沖の話、沖は速いが、島の近くは大体緩やかです。

仕事するのは、島から僅か2,30メートル位しか離れていない場所でやる。船も大体15メートルで錨かけているから、島の周辺で潜る。だけど、全部が全部、潮は緩やかじゃない。

この島のトガイグワ（尖った場所）ありますねえ、このトガイグワは潮は速い。また潮と潮がぶっかって、渦巻く所もありますよ（笑い）。トガイグワの所除いたら、大体島の周囲は緩やか、潮は走らんから、仕事できる。でも、シケた時、潮が走る時は、全体的に潮走るよ。北風が吹いた時なんかは、このマガイグワ（曲がった）の所は、こっちはカタカ（陰）になっている。島陰になって潮走らんから、こっちで仕事やる。

だけど、シケというよりヤギジュン（熱帯低気圧、台湾坊主発生の意？）というのかねえ、台風とか、熱帯低気圧とか発生した時は、天気が破れて、気圧の関係か、何か知らんが、潮の流れがなかなか読めないです。

今北にもっていたけど、また急に戻ったり、引き潮、満ち潮の時間帯が大体6時間だけど、定刻にはやらないわけ。今こっちにもっていたのに、また流れている。そうなると仕事は計画的にできない。こっちからあっちに流れているから、



魚釣島南側西端のトガイ（突端）。このトガイ除くと島周囲は潮は穏やか、2,30メートル地先で潜る。（新納義馬 1979）

じゃこっちからやろうと、潮の流れ見ながら、魚獲るから。これがヤギジュンになったら、潮の流れが読めないから、絶対思うように仕事できない。もうその時は不漁です。

北小島 渦に引っ張られ 命からがら

このトガイグワーなんかは潮と潮がぶつかって、渦巻いて、危険な所もある。

ここ(北小島北端部)は、デージ(大変)危険な所よ。ウチなんか潜ったらすぐ上がらんで、減圧といって、潮が流れていても、同じ水深を維持して圧力調整するわけ。したらこう流れていって、こっちが渦が巻いているのが分からんさあ。

で、俺はそこ行って、3メートル位にいたら、この渦に巻かれて、もうグルグルグルー、ズボンも脱がされたかと思ったら、ボンと一発で 25 メーター下に引っ張られた。引っ張られて、あっ、おーと地面が見えたから、そしたらフッフッフッ泡の渦が見えたわけ(笑い)。俺の場合は酸素の量があったから、底に引っ張られても、そのまま底から泳いで、またゆっくり上がっていった。こっちからの潮とこっち側から引っ張る潮があって、こうやって、このトガイグワーが曲がっているもんで、丁度、角度的に、引っ張る潮も速くて、ここで、これとこれがあるから、洗濯機みたいに、渦巻いているわけ。昼間見たら、この位穴開いていたよ(笑い)。これが 32,3 メーター位の水深で渦があったからよかったけど、50 メーターとか、100 メーターの深さったらもう大変だ。死んでいたかもしれない。

相棒の山内もあの渦に引っ張られて、道具も全部捨ててきて、裸で上がってきたことがあるよ(笑い)。あそこは潮流れ速いさあねえ、船が見ていたから助かったわけ。

そうじゃないと道具もないし、電灯もないし、夜だから、そのまま流れて行ったら危ない。だから、ああ、渦に巻き込まれていなくなったと、皆が潜って調べる間に、どこまで流されるか分からない、道具がないから。えっと潮はどの位走っていたか、10 呎位、自転車漕ぐさあねえ、あれの少し速く、10 呎の潮といったら大変よ。流されたら、もう止まらない(笑い)。

1 度は、尖閣じゃないけど、チービシ(那覇周辺海域)で、志村さんが渦に巻かれた。小さい渦だけど。グルグルグルグル回転灯になっていた、パトカーのあれみたいに、回って(笑い)。やっと抜けたら、もう息ハァハァ、目が回ってフラフラして、固定したまま、もうグルグルグル回ってよ。渦が大きいと、パワーが違うから底に吸い込まれるが、あそこは小さいから抜けたわけ。だけど小さいから、なかなか離れることもできないよ(笑い)。



中央は北小島、その右端にある海崖の先端が渦巻いて危険な箇所。上に魚釣島、左下に南小島見える。(水島邦夫 2001)



電灯潜り光景 左：どこに潮が流れているか、どこを泳ぐか決めて、写真のようにバックエントリーで潜る。右：船に上がると、獲物の魚はタモ網から外して、袋に詰め、ダンブルに入れる。

最悪の経験 無灯火で流され 暗闇の中 見つかる

電灯潜りは夜やるから、もし流された場合のことを考えると、満ち潮ならどこに流れる、引き潮ならどこに流れる、どこを泳いだら、どこに流れるということを、各自よく把握しておかないかん。俺達は本電灯と予備の電灯を持っている。

俺も経験したわけさあ、那覇の港の近くで、最悪の経験だったけど、海に下りて、仕事の途中で、本電灯が切れたわけ。相棒が近くにいたから、彼に合図して、予備の電灯を点けて、上がっていった。1時間は潜るから、電灯取りに。そしたら船持は他の1人を200メートル位離れた所に下ろして、近くにいた相棒が先に上がるから、丁度その間に船止めているわけよ。俺が途中上がって待っていると分からん、予備の電灯でも見えないから、その時はたまたま満ち潮で、潮が北から南に流れて、俺は流されているわけ。その間予備の電灯が段々うすくなってきたよ。線香火になってさあ（笑い）、ああもうこれ大変だと、これまた皆騒がすさあ、こう流れて、ボンベは邪魔だから、もうこれ捨てて。で、網と鉄砲持って、網に魚が入っていたから、流されたら、これ食わんといかん、そしてこの方向に向かって泳いだ、でもなかなか泳げない。ただ流されて、陸の感覚もこうだから、なるべく外に流されないようにして。

先に上がった相棒が、俺が電灯切れたまま流されていると言って、もう船は大騒ぎ。

一生懸命探しているさあ。しばらくしたら、船が近づいてきたよ。回転灯が見えるし、探しているの分かるわけ。だけど、俺は電灯持ってないから、気が付かない、手前まで来るけど。近くを行ったり来たりするが通り過ぎていく（笑い）。

そうして2時間位は経ったかなあ。突然船が俺に向かってきたよ。真正面から、もうぶつかりそう、轢かれそうになった。船はある程度来ないと、真正面なのか分からない。

向かってくるから赤と青は見えるんだけど、これが少しずれた赤と青なのか、船の幅は僅か3メートルしかないから、この感覚が分からん。真正面だったら、下には行けない、逃げもできない。ボンベとか、鉄砲とか持っている、トンボみたいにパツとはできない。ほん

と轆かれるよ。ウワー、ストップ、ストップ、ストロップ！！と大声出した。急に止まりよった。俺の声はでかいからよ（笑い）。

それで助かった。暗闇で探せた、あれは奇跡ですよ。普通なら絶対探せない。

結局、船持にベテランがいたからよ。あそこの地形の特徴、あの時の潮の流れ、引き潮なのか、満ち潮なのか。どこに流れる、もし潮が変わった場合はどこに流れを知っていたから、探せたわけです（笑い）。

引き潮・満ち潮 どこに流れるか 判断

今の体験みたいに電灯が切れた場合は、島の近くだからいいんだけど、これが無人島とか、ソネとか、そういうのが起こった場合、下手したら、夜明けたら探せないです。

夜なら電灯の光で探せるけど。尖閣で？ あっちでは流されたことはなかった。あっちは潮の流れは半端じゃないから、引き潮、満ち潮、どこに流れるか、よけい頭の中に叩き込んでおかんといかん。トカラ列島では4時間半流されたことがある。もう屋久島に流された。雨は降るし、2.5メートルの波、月夜、そんな中で流されて、その時は、電灯持っていたから、それ振って合図して、最後は船が探した。月夜で見えにくかったけど探せたよ。

それは満ち潮、引き潮、どこに流れるか、また途中で満ち潮から引き潮になって、どの辺に流れるか、大潮、小潮、中潮でもスピードが違うさあ、それに黒潮が流れている所だと、それも知っていたから探せたわけだ。

私の方も、その時は下手したら生死に関わるようなあれだったから、死ぬことなんかは考えない。いいことしか考えない（笑い）。そうじゃないと早く弱る。身体が波とか揺られて、早く体力消耗する。暗闇の中で、海の上で、4時間半も流されてごらん、傍には誰もいないよ。自分が助かるのか、救助されるのか、不安がいっぱいよ。恐怖感は捨てんといかん。できるだけ楽観的に考えたよ。この方向に流れていたら種子島もあるし、屋久島もあるし、沖永良部もあるさあ。どの島の間を通過して、どこに流されるか分からんけど。

もし屋久島に向かって流れているなら、あっちにサールーグワ（猿公）がいっぱいいるさあ。あ奴らと遊ぶかあ、さて何して遊ぼうかと（笑い）。そういうことを考えながら流れていって、4時間半、約5時間近くだねえ、最後は船に拾われて助かった（笑い）。

台湾船 ダイナマ密漁 やっていた

尖閣は魚は多いよ。だから台湾船も来て、ダイナマイトで密漁やっていた。魚釣島の島陰に、アンカー打って、停まって、昼間眠っていたら、ババーンとしたら船底に響くさあ。寝ているのを起こされて、何かなあと思って見たら、もう台湾船がダイナマ投げて、密漁していた。5、6名乗っていて、これに火点けて投げる、2つ投げるからねえ。1つは近く、1つは遠く投げる、群を見て、上と下に投げるさあ。タブ持って、網持ってから、皆で魚採る。バンバンとやったらすぐワァワァワァワァァ、蟻みたいに出てきてから、飛び込んでから魚採っている（笑い）。で、俺達は、台湾船がそういう密漁やっているからと保安庁に

取り締まってくれと陳情したさあ。そしたら尖閣は巡視船が警備している。保安庁はそういう事実はないって、言うもんだから、そうじゃないと、ちゃんと説明した。

台湾の船も緑色にしている、島も緑色。くっ付いたら見えない。で、台湾船は島をグルグルしながら、保安庁が来たら、陰に隠れて、ちょこっと顔出したりして様子伺いしている。で、巡視船があっち行くと、見えなくなると、裏でダイナマ投げて密漁やっているからと。それでも、保安庁は、巡視船が警備しているからそういうことはないと強く反発したから、やっぱしねえ、本人達も分からんから、じゃ俺が証拠写真持ってくるから、その時は取り締まってくれよと言って帰ったさあ。



不法操業の台湾漁船（魚釣島近海）（吉浜貞一.1973）

1ヶ月位してから台湾船が、また来ていたよ。それで、ダイナマを投げる所と、水柱が途中まで上がっているのと、上までパーンと上がっている 5、6 枚位、密漁の決定的写真を撮ってちゃんと行って取り締まってくれと、保安庁に渡した。警備関係の辻係長だったかなあ。それで取り締まりをお願いした。その写真？ フィルムも写真も手元にないよ。保安庁に全部渡したから向こうに保管してあるはず。確かに今なら貴重な、30 年前に苦労して撮った写真だから。保安庁に返してもらって、もう一度見てみたいねえ。

台湾船 救助 エンジン故障で 漂流

尖閣には台湾船は多かった。一度は遭難していたのを助けたこともあるよ。

私が得将丸で行った時の話、3、4 名乗って行って、魚釣島で海に潜ろうとしていたら、パーンと、花火みたいのが上がった。よく見たら救難信号打っている。

仲間の 1 人があの花火はさっきから上がっているけど、何かなあ？ お前バカか、あれ助けてくれと言っているだよ。それですぐ道具あれして、ちょっと波あった、2.5メートル位だった。そこから船に行ったらでっかいわけ。もう大きい、50 トン位かなあ。あの当時は木船でジャンクになっているから、先の尖った、色は緑色だった。サンゴ船だったような気もするが、よく分からない。魚釣島南西側から9マイルの所で、漂流していた。

15名位いたかなあ、もっといたかもしれない、俺達が来たらワァワァワァワァ（笑い）。船くっ付けていって、日本語はあんまり、ただ聞いたのは「エンジン、ゲレンゲレン、パー」と（笑い）。そう言ったから、ああエンジントラブルだなあ。それなら、船と船をロープ繋いで、魚釣島に、島のカタカ（陰）に引っ張っていって、アンカー入れさせておこうと、そしたら台湾船が島の傍にアンカー掛けていたら、保安庁は疑問に思って、確実に来るからと、そう考えて引っ張っていったよ。

台湾船はちょっと深い所、得将丸は浅瀬にアンカーかけて、泊まっていたら、案の定来

た。「トクシヨウ丸、トクシヨウ丸」と横来てから。で、台湾船に聞いたら、こっちの船に引っ張ってもらったって、それで台湾船と接触したのが問題なったわけよ。何でも第一接触とか、第二接触とかあって、あの船に乗ったか、言葉を交わしたか、これで違ってくるそう。もし俺達がああ船に乗っていたら、港入港できない。すぐ検疫受けないといかん、そういうのがあって、それで俺と船長の山内さんは保安庁の船に呼ばれた。もう向うで2時間あまり、しっこくあれこれ聞かれて、皆疲れているから眠たいさあ。眠ってこれから夜は仕事さあ。もう頭に来て、巡視船の係りに言ってやったよ。

俺達は海人だからさあ、どこの国の人間だろうが、海人仲間の船が救助を求めているんだったら、救助するのが当たり前じゃないの。救助したからといって何が問題なの？ もっと簡単に取調べは済ませてほしいとねえと（笑い）。

機雷？ アカオ近く 漂流 あわや接触

これは余談だけど、機雷よ。アカオ(大正島)の所で、機雷が流れてきた。尖閣に向かいながら、私が曳き縄やっていたわけ、刺身食べようと（笑い）。で、沖縄からこう来て、アカオの島よけながらねえ、この方向で、魚釣島に向かっていたよ。普通は曳き縄釣れなかったら、流れ木とか、ちょっとしたブイとかの傍通って行く、遠くに丸いものが見えたから、ああブイがある。段々段々近づいたら大きいさあ。これなら魚食い付くからと、傍から通すさあ、ブイにしては変だ、よく見たら、突起が、ボタンが付いているわけ。

ああこれ機雷！ びっくりして、ナー、キーブルダチャー(毛は総立ち)（笑い）。

機雷の知識？ 少しあったから、戦争映画見て。この機雷は、もうボタンはこの位ある。してバネがあって、この凸凹が幾つもある。

それで浮いてる。船すぐバックしてよ。ウォオーと叫んで逃げたよ（笑い）。

で、しばらくしてから、一応落ち着いてから、ゆっくりくっ付いていって見たら、やっぱり機雷よ。確かに機雷、ボタンもこの位あって、突起が出て、バネが付いて、ボタンの棒、どの角度からぶち当たっても、信管押すような形、真ん中にチェーンが下がっている。チェーンもこの位長いのがよ、太いのが海底に吸い込まれる位下がっていた。多分水中に固定していた機雷かも。

軍事基地とかあるさあ、海岸線にあったとして、ここスパイさせないために、海底に長らく沈めるとか（笑い）。で、沈んでいたのが何かに切れて、浮いて、どこから流れてきたのか分からんが、流れてくるんだったら、あっちからかねえ（笑い）。でもそんなに長らくはならないと思う。鉄よ、あまり錆びてなかった。叩いたら今にもバァバーンと爆発しそうな感じ。皆船のエンジンの振動で爆発したら大変だから、また離れてねえ（笑い）。あ



展示されてる機雷（ウェブサイトより）

の時、俺達の船は、1ワットしか無線入ってない、1ワットでは保安庁に届かんから、保安庁に連絡できなかった。で、そのまま漁に向かったけど。心配だったのは、あの辺はアコウ、大正島は辺りは、貨物船とか、コンテナ船とか、タンカー船とか、ああいうのが通る航路なっている。そのあと爆発しなかったのか。その心配ばかりして、ニュースとか、新聞とかを、気をつけて見ていたが、事故も何もなかったから、ああ大丈夫だったんだと安心した。結局あの機雷は、どこかで誰かが揚げたか、沈めたか分かん。そういうこともありましたよ（笑い）。

銀友丸を購入 沿岸専門で 電灯潜り

私は山内得信さんが、潜りはやめて、兄弟 2 人でマグロ船やるといったから、得将丸から下りたんですよ。その時、徳広一緒にやろう、いや俺やらん、あんな何 10 日沖に行ったら気が狂うと言って、それで手を引いた。そのあと順丸(船長仲座常雄 4.8 トン)に乗った。78 年位乗って、それから順丸はソデイカやると言ったから辞めた。それで航平丸に乗ったわけだが、この航平丸で 5 隻目。

しかも電灯潜りして 30 年近く経っているさあ。それで、乗ってしばらくしたら、独立しようと船を買ったわけ、それが銀友丸よ。銀友丸という名前は、息子達の銀と家内の友子の名前の一字を取って付けた。

今はこの銀友丸で、次男銀次郎も一緒に、電灯潜りをやっています。乗組員は 7 名で

す。主に操業するのは、泊港近くのチービシとか、浦添のキャンプキンザー小湾の海。あとは瀬長島、前慶良間とかで、日帰り操業している。獲れるのは、ブダイだと、アガチャーもいるし、ゲンナーもいるし、アーガイもいるし、いろいろいる。エビもいる。



沿岸電灯潜り船・銀裕丸(5ト)



左：電灯潜りは 30 メートルほど深さで仕事し、減圧しながら上がるため、暫く休息して体調を整える。
右：獲物の魚を前に、船持ちの銀次郎が手にしているのは、今晚のおかずになったグルクン。

昔は、伊平屋やったり、大東島やったり、山原やったり、ぐるぐるぐるぐるこっちの廻っていたわけ。鹿児島の方も、草垣群島でやって、十島は皆やった。もう屋久島、種子島は庭でしたよ。それが漁業権の問題で、どこにも行けなくなったから、今那覇だけ。相当範囲が狭まった。狭い範囲で皆しょっちゅう来て、やっているから、漁も減ったわけよ。

糸満の海行けたら、僕らは毎日大漁するけど（笑い）。行けないよ、漁業権の関係で。行ったら、保安庁に捕まえられて、罰金されるから。

尖閣は、漁業権ないから、関係なく行ける。行けるけど、リスクが大きい。向こうは燃料を相当使う、多分 1200 リッター位使うと思う。だから、そこ行って、魚獲って来るなら、あれさあ、今中国公船が入ってくるから、保安庁が島守るため警備しているさあ。あっちまで操業しに行って、帰りなさいと言われてたらどうする。

保安庁が操業してもいい。追い出しもしない、どうぞ電灯潜りやりなさいと言うなら、それはねえ、考えてもいいですよ。

もうあっち行けば、もう目つぶってでも海底の地形は皆分かるんだから、島々皆、アカオもそう、魚釣島、南小島、北小島、それからコウビトウ、皆分かるけどねえ。もう今でも、魚釣島があるさあ、こっち側のことを思ったら、こっちの海の地形が、海底地形が出てくる。あそこのマガイグワ（湾曲した）の所で、大きなアーガイを獲った。

こっちのチブルサーでゲンナーを何匹も獲ったと。ああこんな地形だったなあと、そういう記憶は皆頭の中にありますよ。勿論、行けるなら、行ってみたいですねえ（笑い）。

（了）



目を閉じれば、尖閣の島々、海底地形が脳裏に浮かぶ。左より南小島、北小島、魚釣島の島影
（上原博輝.2010）



上：突いた魚を水揚げし、セリに出すため種類ごとに選り分ける。中央：ワーラ(スジブダイ)。
下：セリ市場に並べた電灯潜りの魚。アーガイ(ヒブダイ)、ミーバイ(ハタ類)、多種多様である。

川満 力 かわみつ つとむ (那覇地区漁協)

1936年(昭和11年)宮古島大浦に生まれる。79歳(2015年時)。

15歳(1951年)から八重山で追込み、潜りを行う。20代には東沙、西沙、南沙諸島に貝殻、海人草採りに行く。ベトナムで拿捕され8ヶ月抑留体験もする。30代でサンゴ漁、40代には尖閣諸島での電灯潜り、50代から60代は沿岸で追込み、サバニで電灯潜りをする。晩年68歳からシャコ貝採りをし、72歳で引退する。氏の海人人生50年は実に様々な体験を重ねており、戦後沖縄の漁業の歩みが垣間見られる。このようなことから、今回氏の聞き取りを電灯潜りとサンゴ漁に分けて、2編掲載した。



15から海 素潜りで ドンブリだと 42メートル潜る

僕は宮古の平良市宇大浦で生まれた。6歳には家族で八重山に移住した。貧乏育ちで、長男だから、15歳には海の仕事、追い込みとか、潜りの仕事やっておった。17から24までは、ずっと南方に、新南群島(南沙諸島)とか、プラタス(東沙諸島)とかに、貝殻や海人草採りで行っておったです。元々は潜りが専門。あの当時は、ミーカガン(水中メガネ)とパンツ1本で素潜りやっておった。ドンブリ(鉛のおもり)持って、潜って行く、あれは重さ13キとかねえ、したら身体に命綱括ってあるから、42メートル、28尋位まで潜れる、舟の上では、綱持っているから(笑い)。

あの時は八重山はダイナマイトを使って、グルクン(タカサゴ)なんか殺しておった。

殺すと魚はもう底に沈むから、網袋持って、ドンブリ持って、潜って行く。して、死んでいる魚を、袋に入れるだけ入れて、命綱を引っ張ったら、上から引き上げるわけです。

ダイナマイトの音聞いて、サメはすぐ来ますよ。3分は待たん。準備して潜るまで、こっちで、すぐ魚食べている。音聞かすとすぐ来ている、もうサメと魚の取り勝負さあ(笑い)。

ダイナマイトは、底で爆発させるか、上で爆発させるかは、ミチビィ(導火線)で調整するわけ。浅い所は短く切って早く爆発させる。深いと思ったら、その逆。毎日仕事やっているから、泳ぎながら魚見たらすぐ分かる。ああどの位の深さで群れていると、それ見てミチビィを加減して切って投げる。投げると爆発するから、泳いでいる人は、爆発の衝撃波で、急所をやられるよ(笑い)。あそこは神経が過敏にできているから、投げるとすぐに反対方向に向いて、両手で覆って保護せんといかん(笑い)。もう衝撃波がまとも当れば、蹴り上げられたみたいに大変ですよ。だから投げる前に皆舟に上がってますから(笑い)。

一時は、ダイナマイトでスクラップ採りもようやった。沈んでいる船、あれを爆破させて、真鍮とかのスクラップを採るわけ。ミチビィと雷管は作られて、闇で売っておったから。あれを買ってきて、ダイナマイトは自分達で作った。大概の物は3合ビン位ので皆吹っ飛ばしますよ。3合ビンの大ききで十分です。あれの力は大変ですよ。

17から 南方に 新南群島、パラセルへ 貝殻採り

そのあと17から南方に行きよった。17から24まで南方にずっと行っておった。1航海3ヶ月位、貝殻は、新南群島とか、パラセル(西沙諸島)に行って採った。海人草は、プラタスで採っていたねえ。あの当時は八重山には、南方行って、貝殻、海人草採りを専門にしている船がおったですよ。生得丸とか、海福丸、南海丸、南琉丸、秀福丸とか。

僕は貝殻採りには、志村さんの親父(志村甚吉)と一緒にいったんですよ。僕と行く前に志村さんは秀福丸で行って事故に遭っている。あれは古い船で修理したというけど、どこから水が入ったのか転覆した。台湾近くで船は沈んで、30名位のうち、10名位は助かった。そのあと別の船から、甚吉さんはウチらと一緒に、新南群島に行っている。

新南群島に行ったら、最初は貝殻、高瀬貝、広瀬貝とか沢山採れた。あそこは浅い所にもこんなにおったです。深い所といっても17、8メートル、10尋位か、そこ行けばまた沢山おった。沢山おって、沢山採れたから、皆儲けたはずですよ。だけど、ウチらはそんなに儲けなかった。モーキヤー(儲ける)船はもう乗組員は決まっている。一緒に出港しても、責任者によって違う、やり方が違う、リー

フが沢山あるから、今日ここやったら、明日またあそこやる。責任者のいい船は、もう人の前々やっている。最初からずーと前に行って、ウチなんかの船はトイヌクサー(取り残し)、尻から廻っている。帰ってきたら、あれなんか相当儲けているわけですよ(笑い)。



南方行きは3ヶ月ほどの旅漁。貝殻と海人草求めてプラタス、パラセル、新南群島に航海

毎日計量 配当決める サメ怖がって 8分だけ

1つの船で35名位行ったら、船長、機関長は皆船にいますから、潜りシンカ(仲間)は24、5名位ですよ。サバニ4隻に乗って、島の周りを潜って貝殻採るわけです。晩方に本船に帰ったら、毎日1人1人がその日に採った貝殻の和数計る。会計はこの和数によって、皆の配当を計算しますから。1人前は全体の半分位です、20名なら10名位。これから8分、6分、もう最低の半儲けまで決めますから(笑い)。

配当はあんなにしかできない。あそこでは採らない人は何も採らない。採るひとは沢山採る。あそこはサメが多いから、意地がない人は、1メートル位の浅瀬に行って、この位のイナグワー(貝殻)、広瀬貝しか採らない。採る人は、深い所で大きな高瀬貝を採ってきます(笑い)。深いと言っても14、5メートル、7尋位です。あそこなら高瀬貝が沢山おるけど、行ったら、怖いわけ、大きなサメが泳ぎ回っているから(笑い)。

僕らは20歳位で若かったから、意地もないさあ、下には1人では行かん、3名位で行っ

て、行ったらもう離れもせん。離れても 3、4 メーター位、くっついて仕事やって、貝殻採ったら、この位の竹の浮きがあるから、これに入れて、もうサメから目は離さん。サメ来たら、合図して、注意しながら仕事して、中にはしっこいサメがいますから。もう危ないから、すぐ浅瀬に移動して、広瀬貝を採るわけです(笑い)。広瀬貝は 30 疋採っても、高瀬貝の 10 疋分にしかならない。ウチらみたいに広瀬貝採る人は、上の番に上がれない。

秤に掛ける人は、別々に、誰が広瀬貝幾ら、高瀬貝幾らと帳面にとめてあるから、いつも 24 名からは 12,3 番位にしか、たまに深い所で潜って 8 番位にはなりましたよ(笑い)。

1 航海 3 ヶ月 脚気掛かって 亡くなる人も

南方行くと、1 航海 3 ヶ月間だから、1 年に 2 航海、順調にいても、1 年に 3 航海は無理です。帰ってきたらすぐは出られん、やっぱり 10 日位は休まんといかんですから。冬行った時は、裸で潜るから寒かったですよ。それでも行けるだけでもよかったです。八重山では、南方行きとカツオ船、カツオのエサ採りとか、これ以外には仕事なかったです。

南方行きは 3 ヶ月間の旅漁だから、途中で、亡くなった人は何名かいます。病気とかで亡くなって。野菜がないさあ、切干大根、あれしか野菜はないから、脚気罹って、死んでいる人もいる、たまに昆布持って行くけど、肉は何もない、もう魚だけしかないです。

野菜は、あの切干大根をイリチャグワー(油炒め)にして食べるだけ。あとは何もない。成績発表の時、ぜんざいは炊きます。1 週間に 1 回ナー、その時はぜんざい炊きます。大きな鍋に。美味しいから、皆食べ勝負だったですよ(笑い)。

黒砂糖の支給? あんなのないですよ。食べるんだったら、自分の個人の缶カラー(物入れ缶)に、黒砂糖とか、アンダンスー(脂味噌)とか、個人持ちで持ってくる。だけど 1 人で隠れては食べられんさあ、これ前に置いて、はいどうぞと言って皆と一緒に食べるよ(笑い)。

パラセル フランス兵隊の魚獲り 手伝う

パラセル(西沙諸島)にも貝殻採りに行った。あそこは新南群島より近い。あその島はフランスの兵隊がいた。(※ベトナムは 1960 年初めまでフランス統治下にあったためか?)。小さい島は無人数があっちこちあるけど、山が大きい島には共産党が住んでおる。山の中に家も造って、あそこには行けない。行ったら共産党は撃つ、バラバラバラして。

フランスの兵隊は撃たないよ。行く時は頭のタオル外して、降参の意味よ。何か白い生地、あれを振って行ったら撃たない。パラセルでも高瀬貝、広瀬貝を採った。あそこも沢山おるから、浅い所でも採れるよ。



パラセル最大の永興島、1974 年以降中国が支配、軍事基地になっている。「ウェブサイト」より

島の周りで潜って仕事しているから。したら、フランス人の兵隊が来い来いと言うから行ったら言葉分らんさあ。おかずの魚獲りに、一緒に行ってくれと言う意味ですよ（笑い）。

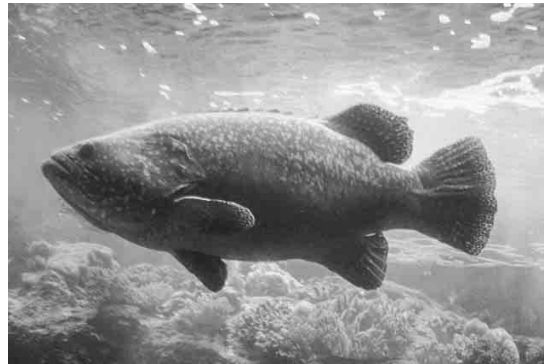
で、手りゅう弾持って、ダイナマイト漁さあ、ウチなんかが潜って、魚が群れている所探して、あすこに投げてと合図するけど。投げるけど、手りゅう弾では魚はあんまり死な（笑い）。あれ水の中で力ない。あんなして、あれ達のおかずの魚獲りによろ行ったから。あそこは仕事するにも、何するにも自由だった。その代りフランスの兵隊の所に行く時は、いつも白生地（白布）の旗揚げてから（笑い）。

リーフ入口 人間一呑み 大きなアーラが

パラセルのリーフの中に入る口が深い所がある。そこにチブルサー（坊主頭状の岩塊）って岩があるわけ、このチブルサーの所に大きなアーラ（マハタ）がおる。もうそこに決まっておるさあ。アキサミョー！（感嘆詞、びっくり仰天の意）、あれどんなに大きいか、人間だったら一呑みはすよ。どの位かねえ。

300ヤから400ヤ位か、真っ黒して。皆2、3回は見ておる。

だから、潜って泳ぎながら、貝殻採っているさあ、こっちにリーフの口がある、こっちに行ったら、チブルサーがあると分るから、急いで止まって、あれの前では泳がん、怖いから、皆遠回りして行くわけ（笑い）。



アラーミーバイ（マハタ）。南方で巨大なアーラに足食われたと噂もされた。（「ウェブサイト」より）

人間を食うか分らんけど、あれがパツと口開けたら吸い込まれる。あの位口も大きかった、1メートル位はあったかなあ、もう人間丸飲みする、怖いよ。あの岩の中を棲みかしているから動かん、必ず向こうにおる。水深は14、5メートル位。そんなに深くはない。あれに、アーラに食われた人？ 話は聞いたことがあるけど、よく分らんさあ。ウチなんかはいつも遠回りしていたから、あんなことに当たったことない。パラセルとか、新南群島とかに、貝殻採りに行った時は、あのアーラとか、サメとかに食われたとか、あんな事故には遭ってない。だけどプラタスに、海人草採りに行った時は、2、3人サメに食われた人がいましたよ。

海人草採り プラタスへ マストに登って 島探す

また、プラタス（東沙諸島）に海人草採りに行った。あれは春と秋、1年に2回だから。

貝殻があんまり採れないと、船主が海人草刈りに行こうと。2、3回は行ったかなあ、秀福丸とか、南海丸とかで。乗組員も、貝殻採りと大体同じ、30名余りだった。

サバニ4隻積んで行ったから、4×6名で24名、残りは船長、機関場、飯炊きとか、32、

3名位だった。プラタスに行くのは大変だった。あそこは山があるけど、全体に低いから見えない、島は探せん場合が多かった。八重山からは西表の向こうから、大体片道1週間走らずと行けるけど。あの時分は羅針盤見て、海図測って行くから、あくまで推測なわけ。それに向こう潮の流れが激しい、あっちに行ったり来たりして、船がどこにもたれているのか分らん。皆マストに登って、ずっと島を探しているけど見えんさあ。船長は2,3日したら、もう頭もこんがらがって船がどこ走っているのか分らん(笑い)。1週間位探せんかったら、今度は台湾の高雄に行く。台湾から近い。して、台湾に行って、不足分の燃料とか、食料を積んで行く。台湾から行けば、1昼夜半で当てることできる。プラタスにはあんなして行った船は沢山いたんですよ。今はGPSがあるから逃がさんけど、あの時分は羅針盤と海図しかないからねえ。

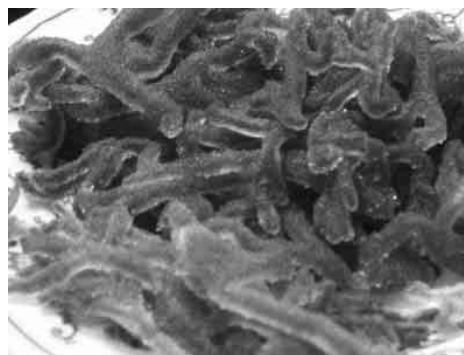


プラタス島は台湾領 今は空港が設置され高雄から週1便運行されている。(「ウェブサイト」より)

海人草 深場に沢山 サメおるから 行かん

あそこには宮古の船とかが多かった。海人草は1メートル位の瀬の上に生えてある。高さは10センチ位かなあ、普通はこれを探る。中にはまた、15メートル深さの砂地に、80センチ位の高さで沢山生えてあるわけ。あるけど、サメがあんなに泳ぎ回っておるから、向こうになかなか行かん(笑い)。行く時はもう4,5名位で一緒に行くけど、落ち着いて仕事できん。

浅瀬に行った方が安心、あちは深さ1メートル位で、潮が引いたら瀬は出るのに 海人草は10センチ位と丈は低い、皆がよく採るから短いさあ。サメがおる所は、丈も80センチ位あって長い。だから向こう行ったら沢山採れるけど、サメに食われたらデージ(大変)だから、向こうに行かん。朝から晩まで、これ位短いのをずっと刈っていたわけ(笑い)。



海人草は紅藻類フジマツモ科で別名マクリ。駆虫として重宝だった。(「ウェブサイト」より)

プラタスには台湾と中国の兵隊がいたですよ。水ですか? ドラム缶を持って行って兵隊のおる前から汲みに行きよったんです。島の中に井戸があるから、空のドラム缶を回して持って行って、水汲んでこれに入れて、またこれ回して船に持ち帰る。島には大体70日位しかいないから、3回位は島の井戸から水汲みよった。

兵隊に 魚獲って上げる 後方から サメに襲わる

海人草採る時は、サメに食われてないけど、あれ1週間に1回ずつ、台湾とか、中国の兵隊が島におるから、あれ達に上げるおかげの魚獲りに行って食われている。サバニ1隻はおかげ獲りをする。これウチなんかの仕事でした、今度はあるた、次はあるたと、皆で当番決めて、5、6名ずつ交代で行きましたよ。残りの人は海人草採りに行くんです。

当番に当たった人は、もう夢中になって、魚獲るから、後ろからサメにやられたわけよ。

サメなんかがあるにおるのに、あれ魚突いたら、血が出るさあ、サメは鼻が犬みたいに敏感よ。血の匂いしたらすぐ来るから、前からだったら簡単には食われんさあ。モリモ持っているし、後ろから、見えないからやられるわけ。もう2、3名食われて、島に運んで来て、皆で竹を集めて焼くのにも一晩中かかっていた。ウチらは亡くなったのは何丸かねえ、何丸の誰かねえと話してねえ。

アキサビョー！（可哀想に！）後ろから食いちぎって、もう血がいっぱい出るさあ、2、3匹のサメなんか浮いて泳ぎ回るみたい。したら、兵隊が機関銃持って来て、あんなに浮いているけど、あのサメ目掛けて、バンバン撃っても、何も響きもしない。弾は当たってないわけさあ。だから、僕は自分の番が回ってきても絶対行かなかった。他の人を行かした。

僕は海人草採りに行くから、代わりに誰か行かないか、と言うたら、皆喜んで交代して行ったよ。魚獲ったら、あとは今日1日船でずっと寝られるから（笑い）。僕と交代した人は誰もサメに食われなくてよかったけど。

パラセルで 貝殻採り ベトナム軍に 密漁で 拿捕される

20歳の頃か、あの時は八重山から、南海丸といって、南海商会の船が、ベトナムに貝殻を密漁しに行っておるわけさあ。南海商会（社長照屋清栄、古賀商店の事業を戦後引き継いだ会社）は、貝殻、海人草とか買ったり、自分で船出して採ったりしておった。ウチらが行った時の船長は黒島の人で、盛榊カメ？だったかなあ。パラセルに高瀬貝採りに行って、ベトナム軍に、密漁したと捕まえられた。ウチらはベトナム本島の近くの小さな島、そこで仕事しておったです。監獄島とか言いよった。島の周囲は3呎位あるかなあ。ベトナムで何か悪い事した人なんか、罪の深さによってA、B、Cと番号付けて、向こうに送っているわけさあ。また向こうでは兵隊なんかが管理している。200から300名位はいたかなあ。

で、ウチなんかは、クリ舟で行って潜って貝殻採っておったよ。夜光貝は見えなかったが、高瀬貝はこんなにいる。高瀬貝を採って1週間目位だったかなあ、晩方帰えてみたら、本船がないわけさあ。おかしいなあと思ったら、ベトナムの警備船が来て、皆捕まってねえ（笑い）。本船は先に引っ張られて行ってたわけ。

監獄島に連れて行かれて、向こうで20日間位いた。今度はそこから30時間位走らして、本船と一緒にサイゴンに移された。で、向こうで行って、結局は許可なしでやった、密漁したということで、裁判されて、南海丸は港に横付けされ、人間は、兵隊のいる留置場に8ヶ月間入ることになったわけです（笑い）。

8ヶ月抑留 草刈 燃料缶運び 大変だった食事

最初の1ヶ月位は留置場に入れられておった。あとからは留置場から出されて自由、向こうの海軍とか、陸軍の仕事をさせられた。陸軍の場合は、草刈ったり、色んな作業を、海軍はまた船に行ってまたドラム缶燃料、陸から回して積んでおって、これを運んだりして、でも毎日はない、1週間に1回位。仕事がある時は向こうから迎えに来て。通訳はお父さんが日本の大学を出たというベトナム海軍の人、日本語が上手だったですよ。

向こうなんかの兵隊は仕事をやりながらも、タバコ吸わず人もおるし、吸ったら、取り上げて捨てる人もおる。人によって違うわけ。こういうことでも喧嘩になるわけさあ、そしたら上の人に来て、この通訳連れて来て、何であんたなんかは喧嘩したかと聞きに来る、そしたらこうこうだと言って、この通訳が中に入って説明してねえ(笑い)。

困ったのは食事、大変だったですよ。向こうは貧しいから、1日2食、朝は10時位と晩は5時位だけど、もう不味くて食えん、あとから少し慣れたけど(笑い)。兵隊3名が抱ける位の大きな鍋があるさあ、あれにお湯を沸騰させて、米の6斗袋を口開けてから、洗ひもせんよ、あれを2人でそのまま入れてから、チャーキチャーシ(かき混ぜるだけ)(笑い)。

して、米炊くさあ、最初は、これ食べたら、喉荒れよったのに。で、野菜はウンチェーバー(エンサイ、空芯菜)よ。あれをすぐそのまま蒸して、味も漬け込んでそのまま、これにバナナ1本とか、朝飯食う時に1本ずつ、あんなのしかなかった。

海指導者で 残ってくれ 日本領事館 帰国勧める

あの時は、沖縄はアメリカの統治下にあつて、向こうの領事館にアメリカがいるけど、何もしないさあ、ウチらが捕まって困っておつても、アメリカの領事館は来るけど、何もしなかったですよ。捕まったら領事館がいろんな手続きして、書類せんと帰れんわけさあ。そしたら日本の領事館が来てねえ、車に日本の旗を揚げてから来て、あれから皆やって上げておつた。手紙も封筒もペンも持って来てねえ、内容聞いて、皆尋ねて、家族何名、子供何名おるかとか、話を聞いてから、沖縄の家族に手紙も書いて送りなさいと、手紙書いたら領事館が皆な送るわけさあ。1週間に1回位、果物なんか皆買って、持ってきてくれましたよ。帰る時まで、日本の領事館には大変世話なつた。ありがたかったです。

して、帰る時にベトナムの政府から、海の指導者として残ってくれと言われた。ベトナムの人に潜りの技術を教えてくれと。向こうに高瀬貝は相当おる、浅い所に、7、8メートル位に、こんなにおるが、採る人がいないさあ(笑い)。で、帰る時に、通訳連れて来て、残ってくれと言うわけですよ。



1961年アメリカは「軍事顧問団」派遣、64年北爆を開始、ベトナム戦争始まる。(「ウェブサイト」より)

その時は乗組員は32,3名かねえ。したら半分は、若い連中は残りたい、半分は帰りたいさあ、船長なんかも早く帰った方がいいと言って。

日本の領事館に、この話をしたら、こっちはやがてアメリカと戦争するから、こっちは絶対残ってはいかないと強く言われた。残りたい人は、一応沖縄に帰って、様子見てから来るんだったら来なさいと。あの時は、ベトナムはアメリカも一緒になって内乱起きているわけさあ。本島からの警備船が35度線まで行ったら、向こうでもうバラバラして闘いやっていると話もして、やがてこっちは戦争なるから、絶対こっちは残ってはいかんとはいよったですよ。

それで、1957年には南海丸に乗って皆帰ってきたわけです。帰って来て、何年位かねえ。5,6年位経った後かねえ。ベトナム戦争が始まっているさあ。あの時残っていたらどうなっていたか分からない、帰ってきて、ほんとによかったです。日本の領事館のお陰です。

南方行き 何の補償もない 貝殻 次第に減って 儲けない

8ヶ月あと、南海丸で皆元気で帰ってきたが、八重山にいる家族が大変だった。儲けもないから何もない、生活の補償もないですよ。あの時分は補償も何もない。南方に行って失敗しても、赤字なら、船主からのあれはないですよ。サメに食われて亡くなる人とか、病気とか事故で死んでも補償はなかったです。亡くなる人が損するだけで、家族が大変だった。ウチは行かんかったけど、ビルマに行った連中も皆何も補償もない、1年か、7,8ヶ月でもそのまま帰ってきた。1銭もなかった。

ウチなんか新南群島行く時、何も要らんで行きよったです。で、ビルマに行くとなると、今度は船員手帳作らんと行けないわけですよ。ちゃんとした船員手帳、向こうと契約しますから、で、僕はあの時、住所は八重山でなくて、宮古にあったんです。宮古から戸籍抄本とって、船員手帳を作らんといかんもんだから、それが間に合わんで、私はイーバー（運良く）行かんかったんです（笑い）。だけど、噂は大変だったですよ。あそこに行ったら儲ける。幾ら儲けると（笑い）。もう皆噂に迷わされて、船員手帳作って、ビルマに行った連中はもう皆裸になって帰ってきたんです。

僕は、ベトナムから帰って来たら、また貝採りに、新南群島に行ったりもした。

だけど、あれだけの船が行くさあ。次々行って貝殻を採るさあ。もう休まさない。どんどん採って行くもんだから、最後に貝殻も少なくなつて、儲けもあんまりないさあ。それにプラスチックのボタンが出てきたから、段々南方に行かなくなったはず。

ミーカガン 目に合わせて作った 予備2,3個持つ

あの時潜りで使うミーカガン(水中眼鏡)は自分では作れない。専門の人が皆売っておった。注文したら目に合わせて、輪郭に合わせて作るから、じゃ幾つ作ってくれと注文するわけです。そんなに高くないですよ。行ってまた合わせて、またペーパーで擦ったり何したりして作る専門がいたんですよ。中にはもう手の細い人は自分で作る人もいたはずだけど。

あれは南方に行く時は、予備を必ず 2、3 つ位持って行きます。あれが少しでもおかしくなったらもう仕事できません。ミーカガンは皆同じじゃない、他所のものは合わないです。もうあれ 1 つが頼りですから (笑い)。やっぱりこの顔の輪郭と目の位置があるから、こう合わせて作らさんと物は見えませんよ。八重山で作る人は屋号で黒島サンダースーと言いよった。新川にいらしたんですよ。あの人が作るのピタリ合わせて、上手でしたよ。糸満系でしようねえ、年取って仕事は辞めて、ミーカガン作りしたとか。八重山で、次第に潜りが少なくなったから、今度また、八重山から沢山作って来て、この那覇の安謝の海人に安くで売っておったです。あの時分は安謝も殆ど、このミーカガンですよ。グルクン追込みとかは。しばらくしてからが、今のメガネに替わっているから。



ミーカガン目に合わせて作る。他人のものだから少し小さい。

26 歳(1962 年) 福泉丸乗って サンゴ漁 始める

24 歳(1960 年)に、女房を探したから、南方行きは辞めれと言われて、辞めた。

八重山で、夏はカツオ船のエサ採りと、冬は一本釣り、底延縄とかしていた。底延縄は尖閣列島に行ってやったら、相当獲れましたよ。だけど船がオンボロだった。使えなくなったから辞めて、また八重山で、一本釣やっていた。八重山は魚が安かったから宮古に行ってやっていた。そしたら 26 歳(1962 年)の時かなあ、大城清二さんに遇って、サンゴ船に乗ったわけ。

・・・以下は「3-2、サンゴ船関係者」の項に掲載

尖閣 古い付き合い 16 歳 突船の飯炊きで

僕がサンゴ採り行ったのはミッドウェーが最後。これでお金儲かったから、八重山に行って、3トンの船買って、一本釣して、家内は雑貨屋をさせていた。あの時は皆掛売り、品物買っても、皆お金払わんですよ (笑い)。海から儲かるけど、店はやるだけ欠損、5 年やってもう店辞めて、また那覇に戻ってきたわけ。そしたら、マグロ船の国真丸(船長：國吉真睦)が頼みにきておったもんだから、あれに 2 年位乗ったかなあ。

志村武尚さんが新造船造ったんですよ、尚丸造って、尖閣列島に一緒に行こうと来たんです。あれに乗って、向こうに電灯潜りに行ったです。

尖閣列島とは古い付き合いですよ。16 歳(1952 年)の時、突船の飯炊きで行ったんです。そのあと、サンゴ船に乗る前、尖閣列島行って、相当底延縄をやりましたから、もう古い

付き合いです。最初に突船の飯炊きで行ったのはシンギョウ丸という船、7,8ト位のカツオ船でしたよ。あまり大きい船じゃない。親方は石垣で酒屋していた新垣テイゾウさん。僕は、夏はカツオ船の飯炊きやって、冬は突船しに行くわけ、カジキ突きに。あの当時は尖閣列島でカジキ突きは盛んでしたから（笑い）。

カツオ船の場合は14,5名位だが、突船の場合は5名位乗ってましたねえ。カツオ船やめたら、突台は外して置いてあるから、冬なったらただ取り付けるだけです。冬はずっと突船で行くんです。何航海行ったか憶えてない。カジキは1日5,6本位は揚ったかなあ。3日4日したら何10本も揚がる。だけど、あの時分は氷もないから。ハラワタ(腸)取って、塩で揉んでからよ。だから長らくはできん。ようやく3日4日位で帰ってきました。



尖閣列島はカジキ突きの好漁場だった。写真は魚釣島の掘割前を航行する八重山の突船基本丸。(新垣秀雄.1952)

パパイヤ 採りに 魚釣島上陸 蛇 踏みつける

天気が悪い時には北風が吹く時にしか、カジキはやらないですよ。ベタ風とか、北風あんまり吹いたら、島の傍に行って、錨下ろして休むわけです。

魚釣島には、昔カツオ船してましたから工場跡があった。その石垣も残っている。あそこの上側に、あの時の残りが、パパイヤとか、カンダバー(蔓の葉)とか生えているんです。あそこに行った人は皆知ってました。どこどこに何があるよと言ってました。トリシマには鳥がいるから、卵いっぱいあるとか、魚釣島にはカンダバーがある、パパイヤがある、水があると話してました。突船は大体2,3隻はいましたから、皆これ採りに上がっていますよ。僕はトリシマには上がらん、鳥の卵と採りにも行かなかった。魚釣島にも水汲みに行かなかった。パパイヤは採りに行ったです。泳いで堀割りの傍に渡って、そこから上がったら、カンダバー(蔓の葉)なんかもあった。カンダバー採らんで、パパイヤだけ採りに行った。あれイリチー(油炒め)は美味しいさあ、あれ作ろうと思ってから。パパイヤは何本か生えていて、幾つも実がなっている。高さもこの位あるか



魚釣島掘割前の石積み。この上側にパパイヤ、芋蔓が生い茂っていた。漁師のお目当てだった。(田中一郎.1953)

ら、下は草ボウボウ（生い茂って）、そこに足置いて採っていたです。採っていたら何か踏んだのか、下がムズムズして動くわけですよ（笑い）。よく見たら蛇、もうタマシヌギて（魂消て）（笑い）。この位の奴がよ、長いものが。頭も尻尾も見ないです。大きさもあんまり分かん。この位と思うけど（笑い）。もう後ろも見ないで逃げたですよ。採ったパパイヤも置いたまま、夢中で逃げてきた。泳いで、やっと船に上がったら、船長が、何をそんなに慌てて、どうした？ いや蛇がいた。恐ろしい蛇がいた。あんたも行って見てきてごらん（笑い）。ハッサモー（感嘆詞、いやもう）、あれから向こうに上がらん。パパイヤは採りに行かんです。

24 歳には 冬場 尖閣で 底延縄

この突船の飯炊きを辞めたあとは、潜りの仕事して、それから南方行きました。南方行きを辞めたあと、夏はカツオ船のエサ採りとか、冬は一本釣りしてましたよ。

24 歳(1960 年)かなあ、勝栄丸というカツオ船の上地源光船長が、自分より 2,3 歳下だった。カツオ船終ったら、尖閣列島で一本釣するから、僕も一緒に乗ってくれんかあと来たんですよ。ひと冬勝栄丸に乗って、一緒にやったら、この船長は那覇から船買ってきたんです。垣花(那覇地区漁協)から中古の一本釣船を買ってきて、僕に持ちなさいというわけ。

これがまたボロ船ですよ。船長は上等なカツオ船を持って、冬は、これで尖閣列島で一本釣するわけ。勝栄丸何号とか付けて、したら、僕は一本釣りはやらん、底延縄やった方がいいからと、この船で底延縄やったんです。自分のサバニから底延縄やっておったから。

で、この船に 5 名乗って、尖閣列島に行って、底延縄したんです。したらもう、マーマチ(オオヒメ)が、この位の大きなものが、よう釣れるわけですよ。アキサミヨー、4 日でもうダンブルに入らんさあ（笑い）。船がボンボロだから、氷も溶けるわけですよ。もう 2,3 航海したら、親方がこれ見て、一本釣りではあんまり釣りきれん、自分達も底延縄をやるよと言ったから、道具もこうこうで、全部準備させて、2 隻一緒に行ったです。

あれなんかやり方分からんから、ウチなんかこっちに入るから、どの位距離を離れてやりなさいよ。底延縄は両方の端々には、目印の旗付けて、ブイを置けるんです。あそこの潮ものすごいですよ、北に走って。その潮の加減が分かんると大変です。潮が速い時に、縄入れると、もう揚がらん。だから勝栄丸の船長平井セイハチにも、こうこうだから、あの大潮の潮が速い時、錨入れて休ました。

底延縄 4 日で満船 潮加減 分かんると 大変

底延縄は大体 80 メーターの深さに下ろしました。あの時コールナー(巻揚機)は電気じゃない、手巻きだから、きついわけ。交代交代で手巻きして（笑い）。でも、相当魚が食っているから皆浮いてくる。下からあんなにして魚が浮いたら軽くなるんです。釣針の数ですか？

基縄(幹縄)1 つに大体 250 本位付けましたよ。枝縄と枝縄は 1 尋半、約 2 メーターの間隔で、枝縄の長さは 1 メーターはない、80 セチ位かなあ。これを水深 80 から 100 メーターまで下ろして、

これを2つ持っているから、交代交代で、一応最初はやって、これを揚げて、またこれ入って、またこれ揚げて、またこれを、交代交代で、もう休む暇ないです。しょっちゅう忙しかった。揚がったのは殆どマーマチ、たまにあの時分タイの大きい奴、ホンダイも混じって、あれは高かった。あんまり沢山釣れなかったけど。4日で満船した(笑い)。

あの時分、宮古の佐良浜、池間の船は、夏終わったら、今度は曳き縄、一本釣しに、沢山来てましたよ。八重山も一本釣船は沢山いたから、どこから、あんなにマーマチ釣れてくるかと(笑い)。底延縄だと言っても、正直に聞かんさあ。あんた方道具見てごらんと見せたら、夜もやっているのか？

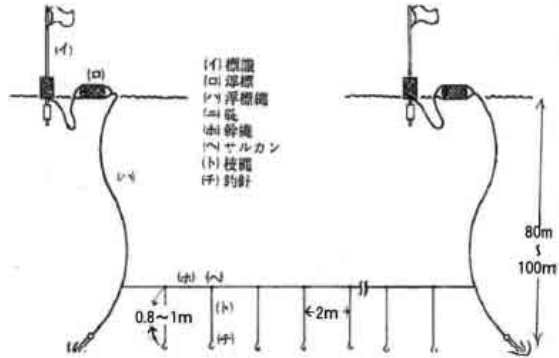
夜あんな延縄はできん、昼しかやらんと言ったら、びっくりしておった。何で、あんなに大漁するかと(笑い)。底延縄は1回に、釣針250本も入れる。2つで500本になるわけさあ。一遍揚げて、もう1本で20匹釣っても、2つで40匹なる。これ1日中だったら、大変ですよ。だから一本釣は1航海15日ナーやっても僅かしか釣って来んさあ。ウチなんか4日で満船してきた。その代わりに、尖閣列島は潮の加減分からんと、また大変です。潮が速かったらもう休んだ方がいい。

底延縄は長らくしなかったですねえ。1,2年位して辞めたかなあ。ひと時期終わって、この船は沈むよと言ったら、船長はまた修理させたもんだから、あとはやって、今度はエンジンがダメですよ。焼玉でねえ。今度は船買うと言うから、僕はもう辞める、もうやらんと言って辞めたです。

尖閣専用 電灯潜り・尚丸乗った 最初 船持ち

38歳(1974年)位だったかなあ、志村さんが新造船を造って、あの尚丸に乗って、すぐ尖閣列島に電灯潜りに行った。もう冬はぶっ通し向こうです。夏は流れが強いから大変ですよ。冬は皆北にしか進まんから、流れはないですから。上原徳広君なんかも一緒ですよ、皆5名位乗り込みして、4,5年位ずっとやっていたかなあ。

志村さんも、あの時は、尖閣列島は初めてですよ。電灯潜りの仕事は夜ですから、私はもう浅瀬はどこにある、どこどこは潮が速い場所は分かるから、私は潜らんで、大概船持ちしておったです。船持って行って、皆下ろして、下りたら、こっちから、こう泳ぎなさいと。例えば、こう島がありますねえ。こっちから、この島の先、あそこに行ったら、もう潮が速いから、泳げないから、こっちからしたら、北に潮が引くから、帰って来れない



尖閣諸島での底延縄、釣針250本、枝縄間隔2メートル、延縄長500メートル、水深約80~100メートル入れて、オオヒメ釣った。

よ。また、こっちに行ったら、こうだから、すぐまたUターンして来いと言うておったですよ。昼だったらあれだけど、夜は潜って魚突くのは、あれなんかよく分かるけど、どこに船の浅瀬があるのは分からんさあ。僕が船持ちして、今ここに下りたら、どこどこに泳ぎなさいと教えてました。魚探ですか？ あの時ありましたよ、魚探見てが、あれなんか下ろしたんです。

(海図指して) このトリシマの間に、これ水道口ですよ。ここ、ここにも島があるんですよ。こっちはもう水道口、狭いわけです。だから、こっちの前で下ろす時は、こっちに下りたら、流れは北にしか進まんから、あの水道口から、こうこう泳ぎなさいよと言うた。この島の北側は流れはないです。だから左に泳いだら、潮の流れが引くわけです。こうすると島のあれがあるから、こっちは潮の流れないです。下ろす時にこうして、右に曲がって泳げよと、泳いでいる人はもう大体分かりますよ。あれなんか下ろしてあとから、また私は船を廻して行くんです。夜だから、魚探見て、この水道口を探して、こっちは水深が2メートル位しかない。口も狭いから、5メートル位あるかなあ。昼だったらあれだけど、夜だから、普通の人はなかなか通せないんです。



夜寝ている魚を突いて船に上がってきた。獲物の魚が入っているタモ網2つが見える。大漁のほどは？ (上原徳広 2014)

で、もうしょっちゅう潜っていると、あとから皆慣れてきましたねえ。どこは潮が速い、どこに潮は持たれるから、どこに泳げばいいと分かってきましたよ。もう言わなくても、船持って行って下ろしたら、自分の考えで泳ぎました(笑い)。

その時からは船持ちは、もう皆で交代交代でやりました。僕も潜って魚突きました。あまり上手じゃなかった(笑い)。志村さんも、徳広君も魚突かしたら専門です。どこに潜らしても魚はすぐ袋いっぱいナー獲って来ましたよ。僕はあれ達の半分も獲れない(笑い)。

潮 流れ計算して 泳がんと チャー 流サリー

尖閣列島は、潮が速いから、潮の流れを計算して泳がんと大変だったですよ。普通沖縄だったら満ち潮は北、引き潮は南と流れが決まっています。向こうはそうじゃない。ずーと黒潮だから北にしかもたれない。ハーキサミヨ(感嘆詞 溜息)、夏はそうでもないけど、冬は殆ど北風です。で、潮が北にもつと、この波がこうこうして、またぶっかって大変です。電灯潜りで、一番気を付けるのは、潮にもたれて流されしまうことです。これが事故につながって間違えれば命の落としますから。船から下りる時、どこに潮が流れているか、

風はどの向きか、計算して、潜って泳がんと、島から外れたら、チャームタリー(ずっと流される)(笑い)。少しでもコースから外れたら流される。流されることは知っているけど、人間欲があるから、魚見て、魚があそこに行ったら、もうずーと魚突くと追って行って、それで時々は潮にもたれて流れるわけです。

で、5名行ったら、1人が船持ちして、4名潜るから、夜だから潜っている電灯は見えるんです。船持ちは、何名いるなあと数えて、4名だけど3名しか見えん。3名すぐ拾って、流れた人を探しに行くんです。行ったら、タンク担いでいるから、ポンベのガスがなくなったら、上に上がらんといかん、もう北にもたれて、潮も速いから泳ぎもできない。タンクも重いけど、スーツのジャケットにエア入れる。エア入れたら浮くから、浮いたまま流れているわけです。で、船は、潮の流れを計算しながら、多分あの辺に流れているだろうと探しに行きます。見たら、あれあれ向こうにいる(笑い)。明かりが遠くに見えますよ。一生懸命、電灯振っているわけです。早く舵とって、行って、拾うわけですよ(笑い)。



光が仄かに見える。電灯振って場所を教えている。船持ちは潮加減見ながら追って皆を拾っていく。(上原徳広 2014)

これが夜だから探せるんです。波あっても、電灯振れば、光が束なって相当上がります、50メートル位は上がるから。遠くからでも見えます。昼なら、とても探せない、危ないです。流された人に、何で流されたかと聞いたら、やっぱり、魚追って行って、突いて、上がろうとしたら、もう潮の流れがこんなになって。もう魚獲るのに夢中になって、気が付かないうちに流れた。もう皆そう言います(笑い)。

1 航海 4、5名で潜って 4日で満船 3ト

最初の頃は、尚丸だけが、あそこに行きよった。あとからは他の連中もまた皆来たけど。皆はたまにしか行かない。ウチなんか毎航海、あそこに行っておったさあ。

尖閣列島に行くとき普通は2、3隻しかいない。皆一緒に来たら、7、8隻はおるけど、いつもあんなには来ない。皆夏の天気がいい日しか来ない。冬はちょっと北になると毎日12、3メートル位だから大変ですよ。浦添の何丸だったか、内地からの中古のメーカー船で7、8トあった。メーカー船は波に弱かった。志村さんの船は、ここで船大工の宮良貞光さんが造ってあるから、波に強いさあ。冬だったら、あそこは12、3メートルだから、尚丸は波に突っ込んでも何も無い。それに向こう行く船で尚丸が一番大きかった。

尖閣列島に行けば、大体4、5名潜って、4日やったら3ト位、もう船のダンブルには入ら

なかった。その位獲れたですよ（笑い）。向こうまで片道1昼夜か、24時間で行くから、丁度仕事が4日、往復6日で、日帰りですぐ帰って来たんです。

あの時は別の仕事は儲からなかった。電灯潜りで、尖閣行ったら倍ナ一儲かりよった。尚丸の配当だと、6日で20万以上はあった。こんなに儲けましたよ。往復6日で4日やれば、ダブルに入らない。満船してチャー（いつも）こっちに来ていた。1航海あれ満船したら300万位水揚げするから、経費引いても、この位儲けあったよ（笑い）。

1航海往復6日で3ト。それを那覇地区に一遍で下ろしたら、ちょっと安くなるから、2回に分けて、半分ナー下ろして。また翌日に（笑い）。あとから仲買にばれてから、あれまだ積んでいるからと（笑い）、もうやがましいから1遍ナーで下ろしたです。



右：潜りを終えて船に上がって一服か。足元にタモ網。左：獲物はアカジンが沢山採れた。（上原徳広 2014）

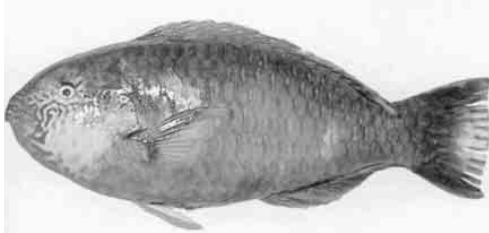
ブダイ・ハタ類 サンゴ下 岩の割れ目 眠っている

（魚図鑑を指して）尖閣列島は、このブダイ類は沢山いましたよ。このオーバチャー（オビブダイ）とか、イラブチャー（ニシキブダイ）とかが多い。ワラー（スジブダイ）なんかは沢山いる。こういった奴は浅瀬に多いですよ。魚がいる所はサンゴが皆多いわけです。あのテーブルサンゴとか、このイラブチャー、ワラー、オーバチャーなんかは、ハーガー（浅瀬）のトンネルみたいな岩の中に入っている。岩の割れ目の中とか、サンゴの下とかに、動かないで眠っている。これを突いて、獲るわけですよ。

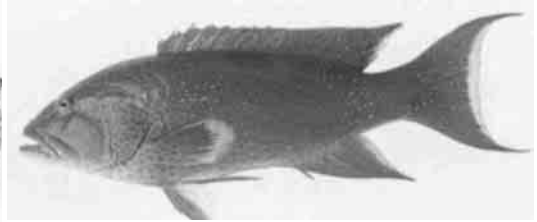
このゲンノー（ナンヨウブダイ）も、アーガイ（ヒブダイ）もいるけど深い所、40メートル位の深さにおける。ウチらが潜るのは大体30メートル位までだから、あまり獲らなかった。やっぱり多くいるのはこのオオバチャー（ツキノワブダイ、イチモンジュブダイ）とイラブチャー（ニシキブダイ）の3つです。ワラー（スジブダイ）も多いです。

ハタ類で、このアカジン（スジアラ）は高級だけど、これあんまりいない。多いのはこのミーバイ、アカワタミーバイ（ニジハタ）とか、ハンゴミーバイ（アカハタ）とか、ナガジューミーバイ（バラハタ類）が一番多い。タカバーミーバイは少しおる。ユダヤー（マダラハタ）は、これなんかあんまりいない。これ（ナガジュー）なんか多い。このミーバイなんか岩の

割れ目とか、サンゴの下に眠っています。ガラサーミーバイ、あのイシガキダイの、あれも、いる所には沢山います。あとベラ類で、マクブ（シロクラベラ）とか、ヒロサー（モチノウオ類）とか、あれの大きいものがある。あれなんか値段安いから、あまり獲られんです。



ワラー(スジブダイ)



ナガジューミーバイ(バラハタ)

ナポレオンフィッシュ 注文受けて 獲る

ベラの帝王とって、ナポレオンフィッシュ（メガネモチノウオ）があるさあ。あの大きな魚あれは持ってきても安いんです。だけど中華料理で使うもんだから、たまに仲買から注文あったですよ。注文あったら、その時は獲りに行きました。あれは大きいのはもう、80 和ナナーあるからねえ。（海図指して）よく獲れる場所はこっちですよ。こちにシーグワー（小さい瀬）がある。トリシマと魚釣島の相中に、これの北側の水深 25 から 30 メーターの所に沢山います。志村さんが注文あったというから、最初ここへ船廻しました。僕はこの場所よく分かるから、シーグワーのちょっと東、南寄りの所、魚探で水深測って、ああここだからと、志村さんが最初潜りましたよ。丁度ナポレオンがいる所に潜ってから、ボンベ 1 本で、2 つ引っ張ってきていたあれからもう仲買が注文したら、あそこに獲りに行く、沢山いるから。注文といっても、もう 2,3 匹と決まっている。あれは大きいから。小さいのでも 30 和 50 和、大きいのは 80 和位ある。ナポレオンは注文ないと獲らん。注文があったら獲る。獲るけど、最初であれ獲らんといかん。小さい魚の上にあれ乗せたらもう下の魚潰れる。7,80 和ナナー掛かるから（笑い）。最初で獲って、あれ下敷きして、あとから他の魚を獲りに行くわけです。小さい魚

はタモ網に入れるけど、ナポオンみたいな大きな魚だと入らんから、ヒモで括って引っ張ってきます。引っ張っている時は魚は軽いけど、揚げる時は大変ですよ。船に舷門がある。揚げる時あれ外した



ベラの帝王ナポレオンフィッシュ(メガネモチノウオ)

ら低いわけさあ。昔は掴まえて 1 人でも揚げれた（笑い）。今ならとてももう揚げきれないです。

サメ来たら モリ構えて 電灯で 目玉照射

尖閣列島でサメはいる所にはこんなにあります。もう魚釣島の周りとかはこんなですよ。

魚をモリで突いたら、魚外して血抜きするから、血の臭いで、サメはパッと来ます。魚突いて、モリに刺ってパタパタパタしているさあ、たまには、このモリからサッと盗っていくサメもいます（笑い）。魚獲ったら、これをタモ網とって、網袋の中にどんどん入れていきます。このタモ網を引っ張りながら泳ぎ廻るわけですよ。油断していたら獲った魚も食べられる場合がありますよ。タモ網引っ張って泳いでいるさあ、後ろから誰か引っ張るから、見たらサメですよ。もう狙って後付けてきたんじゃないか、しまったと思ったら、さっと逃げたわけよ。見たら、魚食べるって、一緒に網も食いちぎって、逃げていっているさあ。アキサミヨー（笑い）。

サメが多い所は大体分るんですよ。場所とか、潮の加減かなあ、時間も関係しているみたい。普通はあんまり見えんけど、多い所に遭ったら、相当多い。

あんまり多いから、もうサメと並んで泳いでいます（笑い）。サメは大体目が悪いんです。鼻は強いけど、来たら、もうミンタマ（目玉）をめがけて、光を当てるんです。左手に電灯、右手でモリ持っているから、モリ構えて、電灯照らす。電灯の光は相当強いから、びっくりして、逃げて行きますよ（笑い）。これが一匹だからできるけど。3、4匹なったらカバーできない。その時は立ち泳ぎしながら、身体を大きく見せると、あんまり襲ってこないです。潜りした人なんか、サメに襲われたという話は聞いたことないですよ。

サメ怒らしたら大変かって？ 怒らしたことないから分らんです（笑い）。

魚釣島に 避難専用アンカー 昼も 安心して休息

尖閣は波が荒い所だから大変ですよ、あそこはもう北風の12,3メートルだったら、波はものすごいですから、潮が北に行く。魚釣島のカタカ（島陰）に避難しに来る。この時はこっちに来てアンカー入れるんですよ。アンカー入れたら風が強いもんだから、山が高いから風がいつも北から当って、船が流れる恐れがあるわけです。夜中ナーから引っ張られたら、起きて、アンカー揚げて、船を戻して、またアンカー入れるのが大変でした。

夜中だと、距離がどの位あるか分らん。また風が島から廻ってきた場合は、アンカー切れたら、島にぶつかるのに何秒も掛からん。座礁したら船は割れてバラバラになる。もうアンカー入れて避難していたら、しょっちゅうこんな心配して、安心して眠れなかったですよ。そしたら、志村さんが、これじゃいけないということで、大きな尖閣



写真は魚釣島南側島陰。ここに大きなアンカー沈めて船に繋いだら、どんな大シケでも安心して眠れた。（上原博輝.2010）

専用のアンカー作らして、ここに沈めておこうと、浦添から持ってきました。

昼間、どの辺がいいか、潜って、きれいに場所見て、あぁここと思って、魚釣島南側のこっちに、アンカーを下ろしたわけです。外れんように岩にも縛って、チェーンは10メートル位付けて、また太いアンカーロープを括って、場所が分るように目印の浮きも2つ置きました。100ヤード以上もある大きなアンカーですよ。

風で、波で、どこに振っても、島には触らん方法で、チェーンも、ロープも計算してが入れてあるから、船をあれに繋げば、あとは何もせんていいわけです。

そのあとから、尖閣列島行ったら、幾ら風吹いても、20メートルの風吹いても、ゆっくり、昼間は安心して眠れました、休めました。したら、別の船なんか、これ準備してないから、ウチの傍に避難しているけど、夜中また、引っ張られて、大騒ぎしてました（笑い）。

また、あんまり風強くない時は、別の船なんか呼んで、こっちに括れと言うて、ウチの船の後ろに括って、2隻繋いで避難しよった。あんまりシケない時は、シケたらあんなにできない。船も助かったはずですよ（笑い）。また、ウチなんか帰ってきて、別の船が尖閣に行くといったら、志村さんは、シケた時は、自分なんかのアンカーに繋いで、眠れよー、安心して眠れるからと言って行かしたですよ（笑い）。

台湾船 島の浅瀬に ダイナマ ボンボン入れて 魚採る

台湾船は、尖閣列島でダイナマイト使っていた。ウチなんかが行った時分、昼間寝ていた時に、ダイナマで魚獲っていた。あの時は保安庁はあんまりいなかったですよ。

だから台湾船は隠れてダイナマ漁していた。突き船みたような小さい船で、3、4名位乗ってきてねえ。ウチなんか夜仕事をしているから、あれなんか、アンカー入れて寝ているんですよ。夜が明けたら、ダイナマをボンボンボンボン入れて、魚獲っていた。どことないですよ。魚釣島の周りが多かったが、トリシマとか、コウビトウ(久場島)でもやっていた。

ダイナマ入れるのは、島のこっちに少し浅い所に、壺(タイドプール?)があります。潮が引いたら、この壺の中に魚が大体集まっているから、泳いで魚見て投げるんじゃなくて、盲目でボンボンボンボン入れて魚殺して、これを拾ってましたよ。2、3日位やったら台湾にすぐ帰って行きよったですよ。突き船みたような船だった。突台に上ってが、こんなして投げておった（笑い）。潮の干潮の時にしか入れないですよ。潮が満ったら魚が浅瀬に上って、潮が引いたら、この壺に集まるから、これをダイナマで殺すわけです。

浅瀬だから、サメは来ないですよ。潮が引いて壺は2メートル位しかない。何魚か分らないが、色んな魚獲っておった、浅いからシチュー(オキナメジナ)も獲っておったはずですよ。

ダイナマを2つ入れよった。投げたら、こう飛び込んでみたら、魚がまたフラフラして沢山いるわけですよ。またもう一発で殺す。止めを刺す。魚は群れが大きいのは2つ入れんと皆死なんさあ。それに浅瀬だから爆発したら相当しぶき、水柱が上がりよった。バパーンとしたら船の底まで響きましたよ。大きな音でしょう。ウチらは寝ている所を起こされた（笑い）。大きな爆発音ですよ。その度に2回する、2回しても、保安庁の巡視船は来

なかったです（笑い）。台湾船は、あんなして、幾らでも魚獲れるさあ（笑い）、だから、尖閣に来て、ダイナマをボンボンボンボン入れて、魚獲って、2,3 日で、帰って行きました。

尚丸下り 沿岸で グルクン追込み

尚丸を、4,5 年位で辞めて、今度はこっちの慶良間、本島沿岸で、仲間何人かと、7 年位かねえ、グルクンの追込みしてましたよ。あの時分慶良間に行ってやっても、文句は言わなかったです。あとから慶良間に行ったら、もう向こうの連中が追い出すわけ。こっちと慶良間とは漁業権が違うからと言って。段々追込みできなくなりました。

志村さんも尖閣列島行かなくなったから、あれと一緒にやったわけさあ。尚丸は船が大きいから、クリ船が 4 隻で、潜りは皆で 22,3 名かねえ、こっちでやって、グルクン獲って、あれの船は大きいから、あれの船に積んでやっておったです。1 日 2,3 トナー獲れよった。大漁する時 1 回で、志村の船いっぱいさせたら



追込み専門で獲ったグルクン（タカサゴ）

ら 3 トあまりナー。あんなに獲れよったもん、それでヤンバル(本島北部)とか、伊是名とかにも行ったけど、やっぱりさせんかった。向こうの人もこっちではやるなどと言って。

そうしていたら、国頭辺土名の組合が頼みに来ているわけさあ、こっちは志村さんも一緒に 10 名位行って、残りは皆辺土名の青年なんかと一緒に、あれなんか指導してくれというわけ。で、グルクンはもう沢山おる。あそこの連中は追い込み初めてだから、ダイバーも初めてさあ、手を掴まえてが教えたけどよ。大漁してから、辺土名の組合長が 1 週間に 1 回ナー、元気のあるヤギつぶしてクワッチー(ご馳走)食べて（笑い）。

8 ヶ月位やって、8 ヶ月したら、皆仕事は慣れます。慣れたからといって、志村さんに組合長から話があったわけ。青年なんか自分達でできると言ったもんだから、ウチなんか 8 ヶ月なって帰ってきた。して、帰る前に、僕 1 人残ってくれと言うわけさあ。皆返して僕 1 人残れるねえ、したら、帰ってから来てくれと、帰ってから来るさあ、帰っても行かない。こっちでも仕事あるから（笑い）。どうなったかなあ、あとからはあれなんかだけでやった。

サバニで 電灯潜り シャコガイ採って 72 歳で引退

もう志村さんは追込みヤミレー（辞めよう）と辞めて、ぴしゃと、セイイカ(ソデイカ)に切り替えた。セイイカは最初の頃からやっている。もう前の船また売って、今大きな船買ってきて、ずっとセイイカですよ。

僕は追込みやりたいけど、グルクンはもういないです。前は慶良間付近でも大漁する時 1 回で、志村さんの船いっぱいさせたら 3 トあまりナー、あんなに獲れよったもん。今はダメ、ダメだからやらん。また追込みやる人もいない。人もいないから追込みはできん。

上原徳広君は自分で船買って、今電灯潜りしているさあ。僕も沿岸で、サバニで、仲間 3

名で電灯潜りしていた（笑い）。これ、タンク担いで潜るさあ。年取ったらもう腰が痛いから、68歳で辞めた。

そのあと1人でシャコガイを採ったり、貝採ったりしていた。電灯潜りも、シャコガイ採りも、こっちでしかできない。漁業権ありますから、あんまり儲からない。他所に行ってやったら、追い出されるし、捕まえられるさあ。

僕は何回かなあ、保安庁に捕まえられて、呼び出されて、あとはもう友達なって（笑い）。川満さん、要領よくやらんとダメですよ。すみません、あそこに行かんと獲れないから。自分達も密告ないと捕まえに来ない。仕方がないからが来ているから、ごめんなさいねえと。もう罰金はチャー（いつも）20万円ナー払って（笑い）。前はシャコガイなんかは少しはいたけど、今はもういないです、1日一生懸命頑張っても1万儲けきれん時が多い。これ平均にいかないです。海は天気が悪い時もあるから1ヶ月15日歩いたらいい方です。1日経費引いて1万、15日あれば15万しかない。あれではどうしても2、3万は採らんと。冬だったら天気が悪いから10日は行けない、20日は休むでしょう。

もう72歳で辞めた。今は何もやらん。6年前からもう遊んでいます。毎日皆と遊んで、楽しく暮らしていますよ（笑い）。



写真はシャコガイ。68～72歳まで沿岸で採っていた。今は大分減って前のように採れない。



時折、港行って船を眺めていると心が安らぐ、若かりし頃が偲ばれるが、今は入船出船の汽笛もない。往時の賑わいも喧騒もない。（那覇市泊漁港にて、2014.10.4）

野里 秀吉 のごと ひでよし (浦添・宜野湾漁協)

1961年(昭和36年)八重山石垣市に生まれる。54歳(2015年時)。
16~18歳八重山でグルクンの追込み、21~23歳、貝殻採取に従事
23歳(1984年)に沖縄本島浦添市に移り、電灯潜りで尖閣諸島に行く
25歳に秀吉丸(1986年)を建造、南西諸島、尖閣諸島を漁場に、42,3
歳(2003,4年)まで17年間電灯潜りを行う。現在ソデイカ、パヤオでの
マグロ漁に従事。尖閣諸島での電灯潜りの様子を伺った。



島の周りは全部潜る、ブダイ狙って4,5名で毎航海3ト水揚げ、潮に流されながら魚探して突くなど、潜りベテランならではの話は興味尽きない。

男4人兄弟の末っ子 全員が海人

元々は両親は宮古の多良間の生まれ。親父(野里良吉)は海軍兵学校出て、南方戦線に行っていた。復員して、多良間に帰ってきたが、島は何もないさあ。それで八重山の崎枝半島に開拓団を組織して入植した。

それであっちこっち開拓して崎枝に畑も山もいっぱい持っていた。

ウチらは崎枝で生まれた。実家は半農半漁だった。小さい時分からずっと、海も、農業もさあ。パイン収穫やったり、ウージ(砂糖キビ)倒しやったり、畑もいっぱいあったから(笑い)。海に親しんだのも、もう物心付いたらすぐさあ(笑い)。

母の兄弟の叔父さん達から網をいっぱい入れてあったからよ。昔は。定置網みたいなもの、アンブシ(建干網)を、20箇所位あったかなあ。だから海の仕事の手伝いさせられた。畑は現金収入じゃないさあ。海の仕事はすぐ金になるし、楽しかったから海人になった。兄弟は女6名、男6名、全部で12名いたが1人亡くなって、男5名。うち4兄弟は全員海人で船持っている。長男の孝吉(60)は美紀丸、次男英也(58)は野里丸、3男栄一(55)は八重山にいて、次男の船と同じ野里丸、俺は4男で秀吉だから秀吉丸。長男の美紀丸、次男の野里丸、俺の秀吉丸はこっち(浦添・宜野湾漁協)に船着けているよ。

16から18歳 グルクン アギヤー追込み

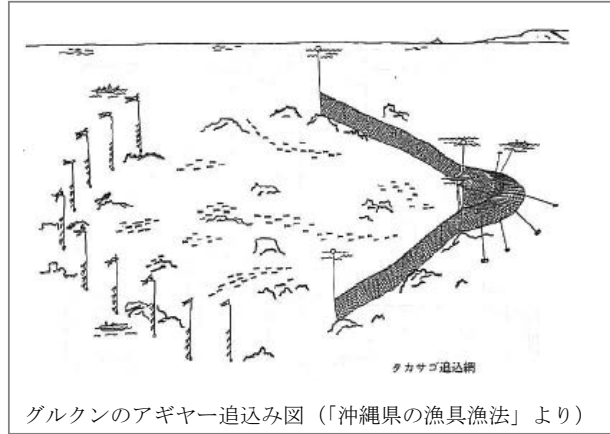
最初の頃は、叔父が漁労長していたから、八重山の方で、追込みもやっていたよ。

グルクン(タカサゴ)のアギヤー追込みを、あの時はシンカ(仲間)は35,6名いたから。

で、1号の船長やっていた。サバニの1号の、キタ網(袖網または垣網)とか、袋網とかあるさあねえ。で、魚が入ってくる袋網を持っているのが1号だわけさあ。これ設置してからあとキタ網加えて入れて行って、追込んでくるんだけど、1号はこの袋網とダイバーを2人乗せているわけさあ。で、あとの何隻かにボンベ持っているのと、あと長い杖(棒)を持って、追込みやるのが何名もいるわけ。

追込み漁は、アギヤーは、魚がヤナ(サンゴ礁の棲みか)の中に入って皆隠れるから、ヤナに入っている魚を棒で皆追い出すわけよ。だからダイバーも必要なわけさあ。

大体4、50メートルの所から浅い所に追いかけて行くよ。袋入れた所に追って行って、網の中に入れるから、だから上からも押さえておかないと。で、キタ網がどの位あるかなあ、10メートル位の高さあるけど、網を乗り越えて逃げていく可能性があるから、上からも押さえるわけさあ。だけど、潮が悪い所の網越えて逃げていくわけ。グルクンは相当獲れたねえ。15分位で6トとかだった。場所はあっちこっちさあ、点々と、西表、あっちこっち、一軒家借りてから、半年ナー泊り込みして、で、5千疋から5千斤で。あの時はあれだけあってもいい値段した。600円だったかなあ。こっこの県漁連に送りさあ。



グルクンのアギヤー追込み図（「沖縄県の漁具漁法」より）

でも、獲れん時は何回も網入れて、20回以上網入れたことがあるかなあ、潮が悪い時は、魚こんなにいるけど、潮がきれいに合わんと、追い込んで、網に入らないわけよ。失敗する時は何回もやって、獲るけど（笑い）。獲れる時は1回で終わり、6ト位獲れて、何10ト入ってくるけど、残りはもったいないけど捨てるよ。カマボコノ材料最高だったけどが、カマボコ屋もあんなに大量に買いせんさあ、全部は売りにならんから、海に捨てるさあ。このアギヤーを16歳から18歳位までやって、あんまり儲からないから辞めたよ（笑い）。

21歳から23歳 潜りで高瀬貝など採る

そのあと、21歳(1982年)かなあ。多良間に行って、高瀬貝とかを採っていた。仕事は15日位したかなあ。それで1トとか2ト位採っていた、殻だけ。また身は別売り、3000円位だったかなあ。中身は自分達で湯がいてよ。大きいシンメーナービの幾つも炊くわけさあ。

炊いて拵えて、そして殻は殻で集めて、身は身でパックして、貝殻売れたよ。

たぶん高級ボタンの原料に。もう昔みたいに貝殻でボタン作らんし、皆プラスチックボタンになっていたから、高級ボタンの原料じゃないか、あの時分高かった。夜光貝が一番高いのが、俺が35歳位(1991年)だったかなあ、疋7千円位はしよった。一番高かった、その前は夜光貝は5千円から5千5百円だった。で、高瀬貝が疋4百何10円だったかなあ。でもあんまり安いからアホらしくて採らんさあ。もう外国から皆輸入があるから、だけど、あれ使っているのは日本だけよねえ、いい所は日本が穴あけて取って、また外国に送って、あそこが細かい仕事できんさあ。また穴あけてあっちが取ったら、また取って、砕いてから何かに使っているんじゃないかなあ。夜光貝はあの漆器の重箱なんかに使っているさあ 螺鈿というきれいな模様が入っている。

23 歳 沖縄へ 電灯潜りに従事。

そのあと 23 歳(1984 年)に沖縄に来て、那覇の安謝にも一時はいたけど、ずっとこっち浦添にいる。ずっと潜水潜りをやって、志村武尚さんの尚丸にも、若い時は乗ったことがある。あの船には 2 航海位乗ったかなあ。自分の兄貴も船持っていたから、何年か一緒に乗っていた。で、そのあとから、自分で船買ったから、秀吉丸を買ったのが 30 幾つだったかなあ。今の船は 2 隻目。で、ずーと、もう 20 年近く、電灯潜りやっていた。

あの当時は電灯潜りは大部いたよ。今は大部減ったけど、結構いたよ。今は集魚灯でマグロとか、ソデイカやっているけど、殆んどダイバー上がり。こっちでも前はダイバーは 25 名位いたはずよ。那覇地区はあんまりいなかった、1,2 隻かなあ。一番多いのはこっちと那覇市沿岸漁協。沿岸は 10 隻位はいたかなあ。もったいたかも。電灯潜りは、マグロ船より稼ぎよったのに。尖閣列島にも行ったし、行ける所はどこまでもさあ。鹿児島までも、五島の下までも行きよったよ。42, 3 歳(2003, 4 年)までやっているさあ、ちょこちょこよ。イカが終って、シーズンシーズンにイカが禁漁になったらやって。



20 年近く尖閣にも行って電灯潜りやっていた。2 代秀吉丸になってから集魚灯でマグロ釣りやっている。

尖閣 島の周り 全部潜る

(尖閣諸島の写真を指して) これ魚釣島だ、上から見た奴。島は皆分かる。島に上がったことはないよ。上がらんでも、島の格好はすぐ分かる。

この魚釣島の周囲もずっと潜っているよ。こっちの南側は断崖絶壁だが 4、50 メートル位の足はある。こっちの北側の細い所がキントア(急に深くなる。断崖上に落ち込む地形)、一番下の 50 メートルの所位かなあ。で、ずっと潜っているから、上も。

こっちはトイジー(鳥島、南小島を指す)、この島とこの島(北小島)の間もよく潜っていたから。島の周囲も潜るし、こっちも潜るし、このコウビトウ(久場島)も、ずっと島一周も、小さいこの辺(飛瀬)も、こんな小さい岩(北の小岩、南の小岩)なんかあるさあ。あの辺りも



電灯潜りは島の周りの浅瀬で潜る。右は南小島、左は北小島。遠くに見えるのは魚釣島。(白石哲・荒井秋晴 1979)

皆潜っているよ。夜よ、電灯潜りは夜だから、もう尖閣は全部魚だから、島の周りを全部、もう深い所は50メートル位まで全部潜るよ。素潜りじゃないから、ボンベ担いでだから。

この島の角々、トガイグラー(尖端部)が波が荒い、潮が速いよ。その時はもうゴンゴロー(ゴロゴロ転がる)這いする(笑い)。潮が河の水みたいに流れるわけさあ。

(南北小島間を指して) この島の間も潮が強いよ。走らん時もあるし、走る時もあるけど。大体冬場が平均して流れが弱いが多い。電灯潜りは行く時期はあんまり関係ないけど、ミーバイ(ハタ類)の産卵時期の時には潮止まりがよくあるわけよ。その時によく行く。

シケたら 島陰で 浅い所も 深い所も

尖閣の潮の流れが速い時期は、夏も、冬もあるけど、どっちかと言えば、冬の方が遅いかなあという位。シケている時は、向こう行って カタカ(島陰)で仕事するわけよ。範囲が狭いから北風だとこっちは南さあ、こっちからこっちまで行ったり来たりさあ。浅い所潜ったり、深い所潜ったり。

こっちに小さい北小岩があるさあ。もう1つ、2つあるさあ。あれの北側でが宮古のカツオ船がよくやっていたねえ。コウビジマ(久場島)と丁度合い中位、この間位によくいたよ。

この辺はイソマグロがよく釣れる、場所場所だよ。あそこのイソマグロは、100和位あるよ。この鉛筆近い太いナイロンがバシッと切れていくよ。あれもいるよ。カマジーガーラ分かる? ローニンアジよ。こんなに目玉大きいの100和位の奴がウジャウジャしている。5、60和は普通(笑い)。こっちは、でかくなるのをよ。

あのナポレオンフィッシュ(メガネモチノウオ)なんかも、尖閣にいっぱいいる、あれ一番美味しい魚だよ。フライしたら。



左: イソマグロ、右: ローニンアジ。尖閣諸島には、いずれも100和を超す大物がたむろっている。

ヘリ 水掛けても 台湾船 逃げん 魚多いから

尖閣の海は遠浅な所はあまりなくて、大体もうキンター(絶壁状の地形)の所が多いねえ。こんなになって、でも落ちる所まで落ちたら、まあある程度80メートルとかああいう足はズーとありはするけど、ズーと繋がっている所とかいろいろある。

魚はいっぱいいるよ。あそこは、イソマグロからスギもいる。だから、それ狙って台湾船は結構いるよ。途中途中にもいっぱいいる。レジヤーで来るのもいるよ。25、6名乗せてから。とくにコービトウの辺りは。遊漁船が来ていたよ。台湾船はイソマグロとか、スギ

とか、サメとか釣っている、何でも。網入れている奴もいるし(笑い)。

あのアカオの所、あそこにも台湾船よくいるさあ。俺黙って見ていたら、最初サメ釣っているかなと思っていた。ボンボン釣っているわけさあ。スギを釣っている。あそのスギ26キナーあるからでかいよ。この辺のは2、3キナーさあ。パッと見た目は、あれサメだから(笑い)。要するにあそこがいい産卵場所があるわけ。島から離れてソネがあるよ。2つ位浅いソネがあるよ。20メートル位の。アカオ島の北西側位になるよ。

台湾船は、その時期になったら、あそこにアンカー入れてやっている(笑い)。保安庁は上からバンナイバンナイ(どんどん)水掛けているが逃げんさあ(笑い)。上から水掛けるといのは、ヘリコプターがすぐ上でフライングしたら、風巻いて波しぶきが船に掛かるさあ。台湾船はあんなしても逃げないよ(笑い)。

逃げないで釣上げているさあ。もし捕まったら罰金取られる。拿捕もされるし、よっぽど魚いるから逃げていかん。だから場所が最高だわけよ(笑い)。

また、あれ達は、ナイロン網も入れてあるさあ。刺し網かな、イラブチャー(ブダイ類)から、色んな魚獲るためにナイロン網は入れてある。入れたのはいいけど、尖閣は潮が走るもんだから、網に魚いっぱい掛かって、もう揚げきれんわけさあ。この魚食べるといって、またサメも来て、網も一緒に食いつくもんだから、もう外しきれんで、もう皆落ちて死んでいたよ。あっちの海はキンターだから。急に深くなっているから。



不法操業した台湾漁船の臨検に向かう海保巡視船の取締まり官。(「海保白書 昭和63年度版」より)

竹編んで トビウオ 卵産ます? アカオ周り 流れ着く

あれ何かなあ、トビウオの卵を産ませるためかなあ。畳一畳(じょう)位の皆竹で、孟宗竹で編んでよ。四角く編んでから、この骨組にムシロを編んで敷いてあるわけさあ。

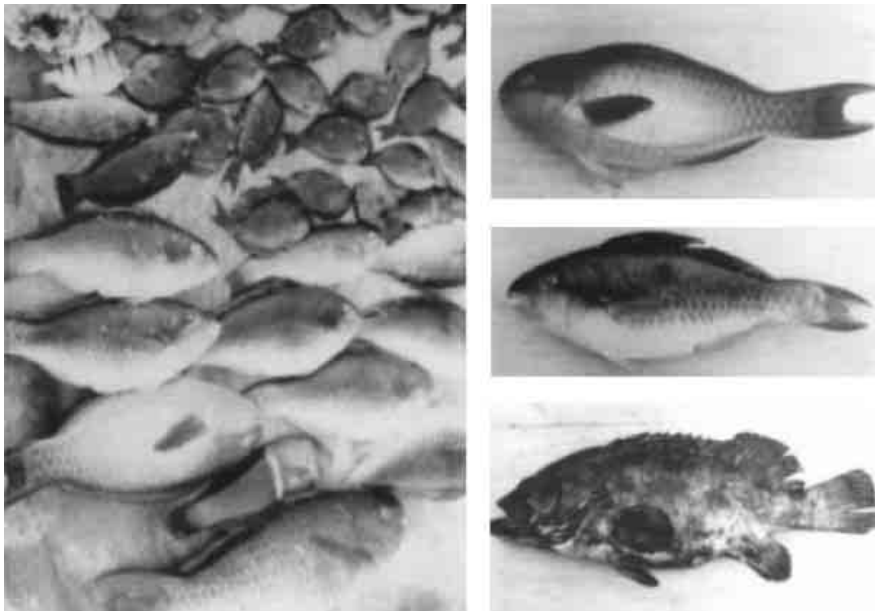
大きさは一畳から半畳位はあったかなあ、これを何10メートルおき位に、太いロープで縛ってよ。延縄みたいに、ずらーと入れて、要するに延縄の針付けるみたいに、これを何百個も入れてあるわけよ。オモリは付いてない。ただ潮に流して、これに何かの卵産まそうしているわけじゃないかなあ。小魚集めるのか、何か卵産ますためか分からんけど。

流れ物にトビウオは卵産むからよ。金のキャビアと言って、今は高級さあ。このトビウオに卵産まして、あれ採るためにか、何の漁か分からんよ。

とにかく、皆ロープで括られて、あれいっぱい流しているわけさあ。時期は4月か5月頃だったかなあ。多分春先よ。トビウオの卵産ますために流していたのか、これがアカオに流れて引っ掛かって、潮の流れがすごく速いから、ぐるぐるぐると、もう島を囲んでい

るわけよ。巻いてからよ。あれは、ずっと沖で流したはずだが、これが潮に乗ってきて、アカオの島に流れて、引っ掛かって、島一周ぐるっと巻いて、島に引っ掛かかってあったよ（笑い）。多分、台湾船は保安庁に追われたんじゃないか。だから道具捨てて逃げているわけさあ。島の周囲をあれがぐるぐる巻いてあったよ（笑い）。

こっちは夜潜るから、船走ってきて、ペラにあのロープを巻かしたら大変さあ。ロープを手繰ってから、これを外して、切って捨てた。しかも親指位の太いロープだから、これ簡単に切れるわけないさあ。切るのも苦労したよ。島の周囲は、もうロープ手繰れる分は、取ったけど、もう大変だった（笑い）。



沖縄開発庁学術調査団が魚釣島で捕獲した魚。左：ブダイ、ハタ類が多い。右上：ムナグロブタイ 中央：イチモンジブタイ 右下：マダラハタ。（西島信昇・吉野哲夫 1979）

ブダイ類狙う 4,5名行って 毎航海3ト位

俺達潜りは、冬場の産卵前だといいいではあるよ。高級魚もいっぱいいるし。尖閣で年から年中獲っているのはブダイだねえ、まあ色々な魚がいる、ブダイだけじゃないけどよ。平均して多いのはブダイ類さあ。イラブチャー(ニシキブダイ、タイワンプダイ)とか。

たまにおかず釣ろうと思ったら、仕事終わったら島一周ぐるっと廻って、曳き縄すると、ローニンアジとか、いくらでも釣れるよ、潜りでもいっぱい見えるよ。

毎航海3ト位揚げていた。獲れる時は2日位で満船して帰って来た。大体4,5名位乗せて行って、5名位、僕の船が一番多かったから、7名位乗せたよ。

(魚図鑑を指して)。これはガラサーミーバイというさあ、これはよく獲る。これは和名はイシガキダイ、これはイシダイ、これも、これも獲る。こっちのブダイは全部獲れる。イチモンジブダイは10ト位ある。これも大量に獲れる、ウジャウジャいる。タイワンプダイ

もいっぱいいるよ、あまり獲らない。ハタ類のアカジン(スジアラ)は全部さあ。アラーミーバイ(ヤイトハタ、マダラハタ、タマカイ)、これなんかも皆いる。皆獲れるよ。

一番狙うのは、やっぱりミーバイ類がいいさあ、値段いいから。このハタ類ではアーラ(アカマダラハチ)も皆いるから、一番高いのはサラサハタさあ、頭小さくて身多い、シチメンチョーミーバイというわけ、これ4、5和位になる。和3千円もするからアカジンより高いよ。このマダラハタは普通のユダヤミーバイ、これも10和、20和位になるかなあ。

今は尖閣には行ってない。燃料代が高くなって大変さあ。もう向こうは10年以上休ましているから、魚はいっぱいいるはずよ(笑い)。今行ったらボンベ1本で、あれだよ、100和とか、200和は獲れるはず(笑い)。



尖閣では主にブダイ狙う。毎航海水揚げ3ト揚がった。

潮の流れ速く 洗濯機の中 泳いでいる！

尖閣の場合は潮はすごいよ。(魚釣島の西端と東端を指して) こういう島の角とかさあ、こういう所は潮はすごいわけよ。空飛んでいるみたいでどこまでも流されて行く(笑い)。あそこの潮だったら、こっち(浦添牧港漁港)から1時間で、那覇空港辺りまで流されて行くはずよ(笑い)。

潮の流れ? あれは何メートル潜っても一緒、上の潮も、下も潮と一緒に走るよ(笑い)。

ただ島カタカ(陰)で潮が止まる所があるわけさあ。だけどこっちに来たらまた戻されるし、またあっちに行ったらまた戻されるわけよ(笑い)。潮が巻くからここで。海の中は真ん中だって潮の流れは渦巻いているから、もしこっちから潮来てるとしたら、飛び込むさあ。ポーライ(すぐに)



魚釣島西南端、突端部は潮が速い。(新納義馬 1979)

流されて、こっちで止まるわけよ。で、反対から流れられて来ると、こっちに止まる。もう洗濯機の中泳いでいるのと同じだよ(笑い)。魚も逆立ちになって、夜だけど、こんなして泳いでいるよ(笑い)。

潮が速くて、岩とかにぶつかって渦巻いているから、もうすごいさあ、立って泳いでいるのも、こんなしているもいるし、まあ離れてから真っ直ぐ泳いでいるのもいるけど。

なるべく潮の流れがない所に魚がいたらいいさあ、毎日潮は変わるから、大潮も小潮もあるんだから、走らん時もあるわけさあ。だけど、尖閣の場合は黒潮の本流だからよっぽどいい時じゃないと潮止まりないわけ。でも場所見て、潮止まりする所は、大体分かるさあ。

夜寝ている魚 モリで突く

電灯潜りは夜やるから 昼間はアンカー入れて寝とって、また日が暮れる時分に起きて準備して、魚は夜は全部寝てはいないけどよ。グルクンなんかは皆起きている。寝ているのはブダイ類だけさあ、他の魚は皆起きているよ。夜行性もあるから (笑い)。

昼間に潜っても獲れるかって? 獲れるよ。長イーグンといって10メートル位長いモリ持ってからやればよ。だけど、そんなに量は獲れないわけ。昼はあっちも警戒している。夜は一応半分寝ているから (笑い)。どんな魚でも半分寝ている。だけど、ミーバイ(ハタ)類はすぐ敏感だから、長いことこうやって見ておいたらすぐ逃げて行くわけ。だから、要領があるわけさあ、ミーバイ類突くのに、獲るのに、あれは敏感だから、すぐ逃げて行くから (笑い)。

ブダイ類はずっと照らしても、まああまり長く照らしたら、逃げていくけど、ミーバイ類みたいに敏感じゃないから。ミーバイ類はすぐ電灯反らして直接当て、ずっと潜ってボンと撃たんといかんからよ。ズーと照らしたらすぐ逃げていくから (笑い)。これ相当難しい技? いや、慣れるよ。何回かやれば、素人からだったら1、2年は掛かるかなあ。



魚釣島西海岸の海底 ブダイ類は夜寝る。サンゴ礁の隙間、岩の割目とか探して、モリで突く。(吉野哲夫 1979)

上から押さえると 魚 立ち往生

これ皆、魚見えたらモリで突くわけよ。要領があるから、この突き方。うん、電灯振ったら飛んで来るよ。一瞬。マグロでも電灯振ったら飛んで来る、すぐ目の前まで、ビーと来て止まる。その一瞬を狙って突くわけよ。

で、魚と同じように並んで泳ぐと、どこまでも逃げて行くわけ。だが、上に行って上から押さえると、なかなか逃げきれんで、一瞬止まるから、そこを狙って突くわけよ。

上から押さえるとビクビクする、やっぱしどこ行こうか、迷っているのかなあ (笑い)。

だけど、ある程度離れたらまた逃げていくけど。で、ある程度押さえると、10メートルあるけど、こっちに魚がいたら、上からこうやって押さえるような感じすると、トゥントルモ

カー（動転）して、逃げカンター（難い）するわけよ、どこに逃げようか、もう迷っているわけさあ。上から見られているから逃げられんさあ（笑い）。要するに逃げ道がないさあ。

サメでも上から押さえたら、ヒンギミグルー（立ち往生）してドゥマンギル（戸惑う）、ぐるぐる回っているよ。ネムリブカなんかだったら、驚いてどこに逃げようかなあって、上からモリ撃たれたら、危ないからさあ（笑い）。やっぱり、分かっているわけ。こっちが魚殺したのをちゃんと見ているのに。

サメなんかは、あれだよ、魚間違えて突いてから逃がすさあ、あい、今サメがスーッと通ったように見えたけど、あっちに行ったけどおかしい？ と思って、魚探すと、もう半分真っ二つさあ。先っきのサメに食われて。もうあれなんかの歯はすごいよ。剃刀みたいに切れるから。よう見たら頭だけ落ちているわけ（笑い）。



尖閣諸島で大物ヒロサーを仕留めた川満三郎、頭にナイフ突き刺しているのが見える。（大田好信 1988）

一発で仕留め エラ切って 海中で血抜き

だから魚は 1 発で仕留めんといかん。それに目には絶対傷付けないから、頭を狙って、目の上の方突く。脳を殺すわけさあ。だから潜りの魚は並べているのを見ても、素人はどこ突いたか分からんよ。だから技術がすごいわけさあ、一発で即死するから。

下手くそにさせたら、もうあっちこっち刺して、暴れたら身も切れていくさあ。頭と尻尾、ナーメーメー（もう銘々バラバラ）なるさあ。プロの仕事は、あんなことがないわけよ、一発で仕留めるから。寝ている魚もいつ死んだか分からんさあ、安楽死させるから（笑い）。あの位正確だから、身自体も、網で獲った魚なんかと違って長持ちするわけよ。

血抜きもちゃんと海の中で、水圧かかっている所で血抜きもやるから。海の中で突いて捕ってから、すぐ魚は急所仕留めて死なしても、心臓だけは動いているから。ナイフですぐエラ切り飛ばして、血吐かすわけよ。マグロなんかでも仕留め入れて暴れはしないけど、心臓はバカナイバカナイ（パンパン）15分から20分は動いているから、あれはポンプの代わりだから、身体の中の熱持っている血が皆流れていくから、体温が下がっていくから、一発で心臓とって捨てると熱がこもったままで身がダメになる。

それで、エラ切ってから血吐かすわけ。だから、網の魚が1週間保ったら、潜りの魚はそれ以上保つ、倍保つよ。質が全然違うさあ、網の魚より質は格段上だよ（笑い）。

完全に血抜かれているから。しかも水圧かかっているさあねえ、船の上に持って来て血抜いたって、そんなに血は抜けないわけよ。

サメ後ろから しょっちゅう 追いまわす

だけど、血を抜いたらサメが来るよ（笑い）。だから俺達の後ろから、しょっちゅうサメが追いかけて来る。もう、あれさあ、ナカー（ヒラガシラサメ）とかあんなのがいっぱいいるよ。普通の小さい、50kg位の小さいネムリブカだったら、もうウジャウジャいる。それが後ろから付いて廻っているよ。だけど、サメはなかなか人間襲わん、警戒している。魚を半殺ししてパタパタ暴れるのを持っていたら、どこまでも追いかけてくるよ。だからこういうサメがいる所では、素人連れて行ったら厄介なわけさあ。魚を突いて逃がすから、これ食い慣れてしまって、味覚えて段々しつこくなってくるわけよ。

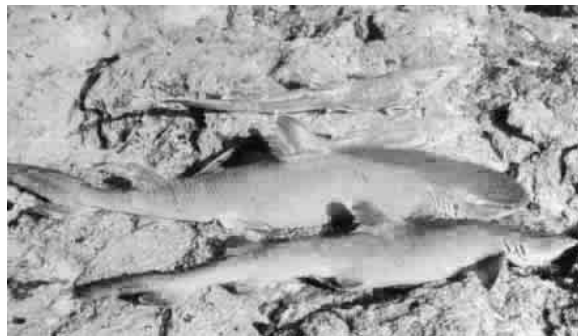
だから逃がさんように、プロは当てて、簡単に魚は逃がさんさあ。一発で仕留めて獲るから、サメは味見できない。だけど、素人連れて行って、突いては、魚逃がし逃がしするから、よけい集まってくる。で、この人の後ろをずっと追っかけまわしているさあ（笑い）。いつでもエサにありつくと分かるから。もうよけい追いかけて来るよ。面白いのは、サメはどの人がよく逃がすか分かるし、ビクビクしている人はよく分かる（笑い）。だからよけいその人を後ろ追いかけて付いていくよ。こわいこわいとやっている人ほど追いかける、つきまとうよ。堂々としていたら、却って、あっちが驚いて近づかん（笑い）。

動物は人間の心臓の音は普通動物より大きく感ずるらしい。何10倍の大きさで聞こえるって、それと関係あるのかなあ。

サメ釣って 殺せば 1年半来ない？！

サメの中にはあんまりしつこくなって船縁まで追いかけて来る奴もいるわけさあ。500キロの奴なんか。ああいうのはエサ掛けて釣って殺しているわけ。そしたら不思議だよ。サメは賢いよ。そのあと潜ったら、周囲にサメいるさあねえ、半年1年近くは、潜っている人の上に来ないよ。電灯の光には近づかないわけさあ。

周囲でウロウロしているけど、もう目の届く範囲には来ない。来ても、ああいるなあと電灯当てると、オズツと逃げていく（笑い）。小さいサメはそうでもないけど、ネムリブカとか、ナカーは分かるよ。この電灯の光を持っている人間が、仲間の命を奪って、殺したのが分かる。だから



尖閣諸島で捕獲されたサメ 真ん中はネムリブカ(14kg)
(吉野哲夫 1979)

驚いて近づかないわけ。釣って殺して、次の日潜ったら、サメが来よったよ。パッと電灯照らしたら、飛んで逃げて行きよった（笑い）。サメは頭いいよ、賢い。周囲をウロウロしていても、電灯の光には近づかないから、半年、1年位は。

流されて サメに 食われそうになった

でも、俺は何回も食われそうになったことはあるよ。一度はもうダメだと思ったことがある（笑い）。たまたまずっと島から流されているもんだから、下見たらサメが3頭位口開けて食べようとしている。周囲からまた2、3匹ウロウロしている。こっちはモリで威嚇しないといかんさあ、上から、下から（笑い）、モリで威嚇して、電灯でこうして顔照らして、だけど、下に口開けているから、下に照らしては、モリ当てては。横からも泳いで来るから、チャー（ずっと）ぐるぐる回っているわけさあ（笑い）。

船は島の反対に他の人乗って廻っていて、こっちはブンナギラレタ（放置された）から、拾いに来ないさあ（笑い）。もうサメに30分位、追い回されたかなあ。もう諦めて、黙っていたよ（笑い）。そうしていると遠くから電灯見えた、やっと船が来たよ。船来たら、サメどこ行ったのか、急にいなくなっていた（笑い）。僕も理由分かん。可能性としては別のデカイサメが来て、本物が、ここの主が。あれなんかも縄張りがあるから、俺には見えなかったけど、俺を食べようとしてでっかいサメが来ておった可能性もあるわけよ（笑い）。

テレビからやっておったさあ。宮古の船がサメ突きしておっただろう。人食いザメといってから。あのサメを釣っている所を俺なんかしょっちゅう潜っているんだから。砂川一博さんなんかよ。あれ達が尖閣でサメ釣っている所で、俺なんかしょっちゅう潜っているんだから（笑い）。だけど、サメなんか怖がっていたらこの仕事はできんさあ（笑い）。

ネムリブカ 人間真似て サンゴの下 食い荒らす

ネムリブカなんかいるさあ。電灯潜りの仕事を辞めてから10年近くなるけど、前慶良間の所、こんなにいるわけさあ、ウジャウジャ。人間が潜って魚突いているのを見ているから、こいつらは、普通のサメはそういうことしないけど、あっちのサメはもう慣れて、知恵がついてよ。岩の穴、テーブルサンゴの下とか、こういう穴があるさあ、ガマ（洞窟）とか。

もう人間がこんな所から魚を獲っているのを見ているから、この中に入って、ガチャガチャガチャして食い荒らしてるよ（笑い）。魚はここにいと分かって、もう勉強してよ（笑い）。人間の真似して、中を見たり、入ったりしているから、こういう所の下なんか魚が隠れていると知っているんだろねえ。大きいテーブルサンゴ、この位のテーブルサンゴの下に潜って、ガチャガチャガチャやっているよ。半分齧りながら（笑い）。

だから、俺達があそこに潜りに行くさあ。電灯見たらすぐ集まってくる。あっちでもグルクンとか小さい場合は逃がすさあ。これ食べられると分かっているから、こっちにグチャナイ（めっちゃ）集まってくるよ。もう人間が魚獲っているのを覚えているから。

危険な人間か どうか 魚判断する

ナポレオンフィッシュなんか、あれよ。こっちに山があつて僕がこっちにいとするさあ、したら、泳ぎ回りながら見ているよ。こっちを、注意して見てるわけさあ。この魚は俺のことを何もしないと分かたら近づいて来るよ。アイ自分に向かって来る人間だなあと思

ったら、ゆっくりゆっくり警戒しながら岩陰に隠れる。穴の中に入ったりして逃げていく。分かるよ、こ奴らは(笑い)。で、人間がモリ持っている、獲物持っている、持っていない、魚は分かる。近くで見ておってよ(笑い)。

あの素潜りで高瀬貝採っている時でも、パール位しか持っていない。モリとかは持っていないさあ。安心して撫でられる所まで近づいて来るから(笑い)。分かるわけよ。危険な道具を持っているかを。自分を狙っているか、いないかを。まあ、しょっちゅう入れ代わり立ち代り追いかけて回されているから憶えるんじゃないかなあ(笑い)。

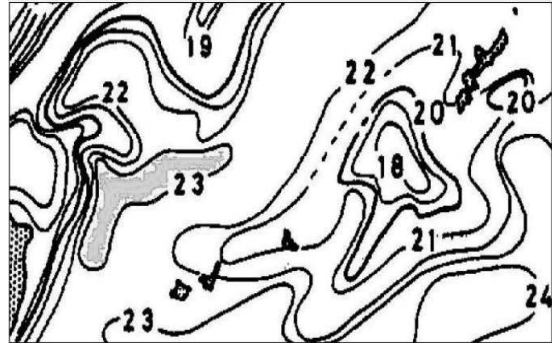
冬の尖閣 水温高く 魚の質悪い

尖閣の魚は少し質がよくない、脂が乗らないから。平均して他の島、この辺のよりは安いわけよ。尖閣の水温が高いから少し質が落ちるわけ、同じ周囲の魚よりも、身の質が違うわけさあ。だから、沖縄の魚は食えるけど、南方のフィリピンとかの魚は食べられんというのはその違いだわけ。身のしまりが悪くてパサパサしている。

俺達が潜りで獲る魚は、深くても50メートルと浅いさあ。水温高いから質が落ちるけど、シチューマチ(アオダイ)とか、アカマチ(ハマダイ)とか、一本釣りの魚なんかは、100メートル、200メートルと深いから水温が低いさあ。だから、どこでも質はあんまり変わらないはず。

尖閣はもう黒潮の本流が流れているから、真冬でも海に飛び込んでも温く感じる。冬なんか見ても、やっぱり海面温度高いから湯気見たいのが見える時があるよ。

船はアンカー入れているさあ、着替えて終わってから揚げるんだけど、冬でも海に飛び込んで着替える人もいっぱいいたよ。面倒臭いさあ、水被ってゴムスーツはくの、飛び込んだらすぐはけるから、パツパツと、1秒掛からんのに。水温が高いもんだからよ。こっちの海の温度とは全然違う、こっちに比べたら、あっちはお湯だよ(笑い)。



表面水温分布図(漁海況速報 16号 1982.1.20~26)。沖縄本島 20、21℃、宮古八重山 22℃、尖閣諸島 23℃と高い。

100呎 タモ網 引っ張って 泳ぎまわる

潜って仕事する場合、電灯は手で持っている人もいれば、手にゴムできれいに嵌めている人もいる。好き好きさあ、自分が仕事やりやすいように。左には魚入れるタモ網持って、右には水中銃持って、それに上にガギジャー(鉤)を持ってるし、その時の現場に合わせて、いろんな道具持っている。それで泳いで、魚突いては、ナイフでエラ切り飛ばして網に入れて、また入れて、あの網は100呎位あるけど、あれを海の中で引っ張って泳いでまわっているよ(笑い)。もうベテランになると、1人で魚をいっぱいなるまで、100呎位突いて

上がって来るんだから。だけど素人は、慣れないから、魚あんまり獲らんで、海の中に道具捨ててくる（笑い）。電灯捨ててくる奴もいれば、網を捨ててくる奴もいるよ（笑い）。習い初めは必ず捨ててくるよ。要するに素人は海の中潜ったら焦るから、俺なんか2時間潜るの、あれなんか15分位で上がってくるよ（笑い）。息も荒くなるから、これだけパカパカとエアも吸うから、エアがなくなって、魚突けなくなるさあ（笑い）。

潮に流されながら 魚探して 突く

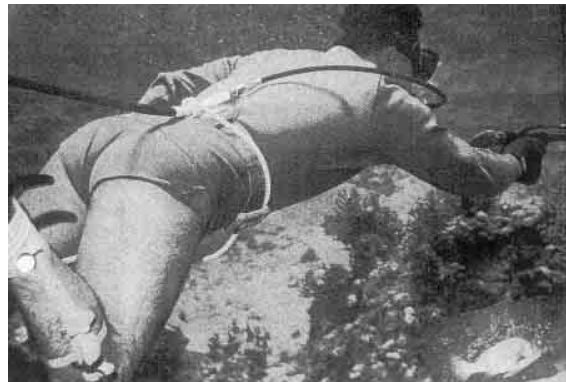
そうねえ、ボンベ1本では浅い所だと2時間位、深さが10メートル以内だと2時間位潜るけど、30メートルだと40分位、あと減圧しないといかんから。仕事する時間は半分位、20分位の間でこんなに魚獲らんといかんから、深く潜れば潜るほど、仕事する時間は減る。浅かったら、10メートル以内だったら、2時間でも泳げるよ。

潮が強いと上がって来りきれないよ、経験しないと。飛行機が飛ぶみたいに風ワラ飛ぶさあ（笑い）。潮が走る所と走らん所があるから、それを見ながら、また大潮小潮の関係で走らん時もあるし、走る時もあるけど。島のこういう尖り尖りのこういう所とか、すごく潮が走るからよ。洗濯機の中泳いでいるみたいで、ほんとに（笑い）。潮が速いと、どこまで潜っても速い是一緒、変らんよ（笑い）。

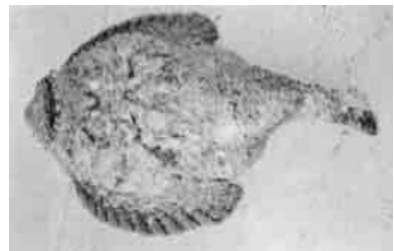
だから流されながら魚獲っていくわけよ（笑い）。止まりきれない、目の前のすぐ射つかできない。ガキジャー（鉤）で、ヤナ（サンゴ礁の魚の棲みか）を引っ掛けて、止まって、魚掴んで、そのためには、ガキジャーも必要だわ

け。潮向えに行く時もあるし、横に行く時もある、ヤナを掴まえてやったら、何がヤナに引っ付いているか分からんさあ。刺されて、怪我することもあるから、ガキジャーを持っているわけよ。

たまにヤナにアフアー（オコゼ）か、変なタコヒレみたいなのがいるさあ、あれに刺されるから。アフアーだと危険よ。手袋やっけていてもあれの上から刺されると膨れる。あれ針と一緒にだのに（笑い）。要するに地べたに手を置いて、ヤナ掴まえて、アフアーとかに刺されたらいかんわけさあ、よく見ないと（笑い）。刺されたら酢を炊いてからよ。炊いたら倍に強くなるから、酢に漬けてお



尖閣諸島で潮に流されながら水中銃を構えている。フーカー潜水のためボンベ担いでない。（大田好信 1988）



イシアフアー（オニダルマオコゼ）。背ビレトゲの根本は恐ろしい毒袋がある。

くわけよ。で、このアプアーを取って、網の中に入れておいて、刺されて、骨まで削った人もおるわけさあ。あれ位毒は強いから、ただ皮に刺さった位だったらいいけど、関節とかしよったら骨まで削らんといかん、骨まで腐れるから。だから、ガキジャーは魚殺すだけじゃなくて、引っ掛けて、引っ張って、ヤナにバンナイ(どンドン)上って行くわけさあ。穴の中に入っている魚もこれで引っ掛けて出せるさあ。

いわば俺達電灯潜りは、海の中を、ガキジャー引っ掛けて、これで飛んでいるわけだよ。片手でモリで魚突きながらねえ(笑い)。経験しないと危ないよ。速いからといって命綱なんかはないよ(笑い)。ずっと流されながらだから。電灯潜りの命綱は電灯だよ。夜だからどこに流されても、電灯で見やすいさあ、あの船持ちが見ているから。

電灯の光 追いまわし 1人ずつ拾っていく

電灯潜りは島の周囲でやるから、船を浅瀬に引っ付けて来て、飛び込ますさあ。

船には必ず1人船持ち(船当番)を残している、これも皆で交代交代だから。

潜りの人は飛び込んだら、ずっと潮に流されて泳ぎながら仕事しているさあ。船はこれ達を追いかけ回るから、アンカーは入れんで、エンジンはスローにして、ずっと流し放し。

で、仕事終わったら船持ちに電灯で合図するから、船持ちは1人1人潜りの人を拾って回る。これの繰り返し。1度に何名も飛び込んで、あっちこっちに行っても、1人1人どこに行くかを見てなくても、潮はどこに流れているか、どの方角にもたれているかで、分かるから。またこういう島の角かどで、潮が分かれる所があるわけさあ。それを電灯の光をよく見ている、ああ、どこに流れている。こっちに何名行った、あっちは何名だからと、光を見ながら船を廻して拾いに行くわけよ。月夜だと素人は光はなかなか探しきれんけど。

慣れている人はどこに流れて、どこで潜っていると分かるから、大体あの辺行っているなあと分かるさあ。素人は絶対探しきれん(笑い)。波も立っているから。

で、潜りの人は仕事を終わったら、水面に上がるさあ、その時は電灯を立てて、合図する。この電灯の光、55Wから100W位の使っているのもいるし、すごい光よ。船の上のどこからでも見えるよ。この光の合図見て、今減圧している、何しているとすぐ分かるから。

海面に上がってくる時に、大きな船が通って来る場合があるさあ。この時は危険だよ。

尖閣では殆んどなかったけど、那覇飛行場近辺で潜った場合は何回かあった。

あっちは船の航路になっている。貨物船とか、いろんな船がよく通るから、船に轆かれそうになることがあるよ。危ないから船停めるわけ、前に行って、ストップ、ストップと合図してから(笑い)。潜っている場合はいいわけよ。減圧している時は10メーターの深さ、一番最後は3メーター位でやるから、ペラに巻かれるさあ、船停めんといかんわけよ。貨物船を目の前にいて停めて、上がるまで、ずーとあっちがストップなわけさあ(笑い)。

船持ち 下手くそ 1日中流され ヘリに拾われる

尖閣の場合だと、潮が速いから流されて、たまに島を一周することもあるさあ。トイジ一だと、島一周まわってくる時も、反対まで（笑い）。こっちで下ろしたのに、島と島の間を抜けていく奴もおれば、島一周まわって反対側に漂着することもあるわけよ（笑い）。

真っ暗闇で潮の流れ速い海は危険でないかって？ 大丈夫よ、こんなのは慣れている。かえって闇夜がいい、真っ暗だから、電灯よう光るよ。

水面上がって電灯を上に向けてとビーと見える。島の反対に行つて、合図しても、サーチライトみたいに見えるから（笑い）。水の中でも見えるよ。あの電灯の光は、シケの時は見えにくいけど、これも経験したら見えるようになる。だけど、船長とかは関係なく、皆交代交代で潜って、交代で船番やるから、だから中には下手くそもいるさあ（笑い）。



拾いきれないで、合図しているけど、電灯の光探しきれないで（笑い）。

右から南小島と北小島。潮が速いと流されて、下手な船持ちだと、探しきれんで、島の周り一周することもある。（上原博輝 2010）

一度は、1晩中流された奴もいるよ。24時間も。これは尖閣じゃない。こっちの前慶良間で潜った時だったなあ。勘がないのに船番させたらこうなるわけよ（笑い）。もう行方不明になり、大ごとになったとって、あの時は霧もかかっていたから。俺の兄貴の船にもこれを探せとって連絡が来たよ。お前の船出せと言って（笑い）。

結局、助かったけど、保安庁のヘリコプターから拾ったよ（笑い）。あんな人間連れてきて船持でもさせようものなら、どこまで流されるか分からん。だから、勘のないのに乗せている時は、2人位船持にするわけさあ。こんなのに1人船持させると、とんでもないからもう皆総動員させて（笑い）。

海の中 魚の声 色んな音 聞こえる

海の中、潜っていたら色んな音聞こえるよ。ゴーゴーと船が来るの分かるけど。

サンゴがパチパチ言っているのも聞こえるし、電灯照らしたら驚いて隠れようとするさあ、ああいう音が皆聞こえる。ヤナに電灯光照らすさあ、色んな生き物が引っ付いていないかと、ヤナの石がパチパチパチして、暴れている音？が聞こえるよ。光当てているんだけど。普通の人に聞こえないよ。だいぶ慣れて、もうプロになってが、ヤナが暴れている音と分かるんであって、普通の人に聞こえますかと言っても分からんよ（笑い）。長年やってくるとあんなに勘が優れて分かるわけ。

クジラとイルカの鳴き声はどこからでも聞こえるよ。あのイルカの声はやがましい、ピーピーピーして。クジラの鳴き声は長いわけよ。ブーかなあ？ もううるさい位、どこからでも聞こえるよ。産卵時期は、慶良間にクジラがいて、久米島潜っているさあ。すぐ傍にいたみたいに聞こえる。どんなにうるさいから。上では聞こえないけど、海の中ではものすごく聞こえる。

尖閣ではクジラの鳴き声は聞いたことない。そういえば、アカオの所でもクジラが死んでからバツタンパツタンして流されているの見たなあ。鳥山がウジャウジャいてからよ。あのクジラは何10ト位もある大きな奴だったなあ。

サメの鳴き声？ あれは鳴いているのか、分からん（笑い）。魚が暴れる音は分かる、バタバタして聞こえるのはあるけどなあ。海の中潜っていて、1メートル位潜って、船の上でわあわあ騒いでいる声は聞こえるよ。雨降ったのは皆聞こえる。雨の音まで聞こえる。潜っていても、15メートル位まで聞こえたかなあ。

漁業権 取締り厳しい 潜りやる人いない

電灯潜りでも100キロ位の魚は突くさあ。自分よりでかい魚をモリで一発で殺して、持ってくるんだから。肩でこう引く張ってから、海の中を泳ぎまわってねえ。その時興奮して、眠れないさあ（笑い）。電灯潜りは、めっちゃ楽しい。

それに相当儲けたよ。バブル時代は電灯潜りで行けば、一晩で5、60万稼いでいた、

ボンベ4、5本とかで潜って、1週間以内で帰ってくる。経費引いても手取りは5、60万円間違いなくあったよ（笑い）。だけど、今はそんな仕事できない、今は魚も安いし、燃料代も高くなって、保安庁には追い掛けまわされて、馬鹿らしくてやらないんだ。罰金は山積みだし、高くなって（笑い）。

俺も42、3歳までやって、電灯潜りの仕事は10年前に辞めた。今はソデイカ釣りとかマグロの一本釣とかしている。息子も一緒に海の仕事しているけど、あんまり潜りはさせたくない。今は簡単にこの仕事はできないよ。保安庁がうるさくて、もう漁業権が多いさあ。沖縄には各場所場所があるもんだから、漁業権の取締りが段々厳しい。潜って突くだけで、保安庁にすぐ捕まるよ（笑い）。尖閣はどこ漁業権でもないけど、沖縄県の潜りの許可証があったら潜れる。潜れるけど、あそこ行くのに燃料代が高いさあ。だから採算とれるかどうか分からん。それに今中国(公)船が来ているから、あれ達に捕まったら怖いさあ。

潜りの許可証？ 許可は県の水産課行ってから、潜水漁業許可証というのがあから。

マグロなんかも、他も許可はあるけど、とくに潜水漁業だけはうるさい。やっぱり潜りは嫌われるわけよ。考えてみれば、ほんとは網の方が一番ダメだめだけど、あれは一網打尽、根こそぎさあ、潜りの場合は魚選んで採るから、別に減らないんだけど。網は根こそぎ、皆獲って、小さな魚は殺して捨てるさあ（笑い）。

(了)



セリ市場に並べられた電灯潜りの魚 上：目の上、脳が急所。一発で仕留め、エラ切って、海中で血抜きするから抜群に質よく長持ちする。下：左右ともイラブチャーなどのブダイ類。素人にはどこ突いたか分らない。